

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

# ウインドミル

第7号



全日本大学ソフトボール連盟



まだ見ぬ強豪へ。  
世界で会おう。

秘めた力と技のすべては、その先の世界を獲るために。それはオールジャパンの  
闘う絆、ミズノ・ソフトボール品。栄冠へ続く果てしなき道を、今日も選手とともに歩む。



**【ミズノは全日本女子ナショナルチームのオフィシャルサプライヤーです。】**



人気の「クラブシミュレーション」に今すぐクリック!!  
野球のHOTな情報は、いつもミズノボールパークから。

[www.mizunoballpark.com](http://www.mizunoballpark.com)



●ISO14001審査登録(国内全事業所)

●ミズノ製品については「ミズノお客様相談センター」

東京TEL.(03)3233-7110 FAX.(03)3233-7217 大阪TEL.(06)6614-8110 FAX.(06)6614-8113



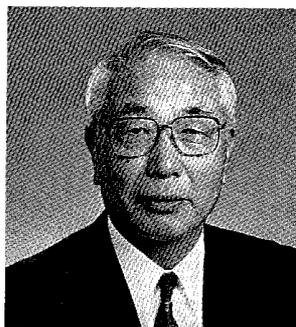
JOC P-001



全日本大学ソフトボール連盟



## ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長  
大内敬哉

学連機関誌「ウインドミル」第7号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

私は、毎年この「ウインドミル」発刊の挨拶文を書くたびに、早や一年が過ぎ去り、学連行事の一年の総決算のような気持ちになります。今年の学連の諸行事や、主催大会は、少しでも前進が見られたのか？反省することばかりであります。然しながら、昨年あたりより、スポーツの国際化が叫ばれるようになり、学連においても、国際大会に参加できるチャンスが生じてきたように思われます。2004年に開催されるアジア女子選手権大会に日本ソフトボール協会のご指導もあり、学連での参加が決定しており、また近い将来に大学の男女世界選手権大会もアメリカにおいて開催されることも聴き及んでおります。大学のソフトボール界にもようやく明るい21世紀が見え始めてきたと大変うれしく存ずると共に、身の引き締まる思いであります。

最後になりましたが、「ウインドミル」第7号の編集にご尽力賜りました関係各位に感謝申し上げます、ソフトボール界の益々の発展を祈念して第7号発刊のご挨拶といたします。

# ウインドミル

第7号

## 目 次

ごあいさつ ●会長 大内敬哉	1
〔巻頭言〕 ●出会い	4
副会長 一谷宣宏	
〔報告〕 ●平成15年度の事業報告と今後の活動方針	5
理事長 末井健作	
●第8回アジア女子選手権大会への選手派遣について	6
理事長 末井健作	
●今後の大学ソフトボール発展のために	7
学生委員長 新井康太	
〔研究紹介〕 ●全日本女子ソフトボール投手の投球腕の動作分析	8
福島豊司	
●レギュラーシーズンにおけるトレーニングが女子ソフトボール 選手の筋力・筋パワー・敏捷性能力に及ぼす影響	10
〔卒業論文〕 ●ソフトボールのウインドミル投法における個人分析 ～速度に及ぼす要因で～	14
宮崎謙尚・田路秀樹磨	
全国大会の記録 ●文部大臣杯第38回全日本大学男子選手権大会	16
●文部大臣杯第38回全日本大学女子選手権大会	29
●第48回全日本総合男子選手権大会	42
●第54回全日本総合女子選手権大会	43
共催大会の記録 ●第18回東日本大学選手権大会	44
●第35回西日本大学選手権大会	46
後援大会の記録 ●第2回豊田・デンソー・豊田織機杯	48
●第4回「峠のまち」Matsuida Cup	50

各地区の大会結果●北海道・東北地区	春季大会	-----	51
●関東地区	春季大会	-----	52
	秋季大会	-----	54
	第34回関東大学ソフトボール選手権大会	-----	57
●北信越地区	春季大会	-----	59
	秋季大会	-----	59
●東京地区	春季大会	-----	60
	秋季大会	-----	63
●東海地区	春季大会	-----	66
	秋季大会	-----	70
●近畿地区	春季大会	-----	73
	秋季大会	-----	78
●中国地区	春季大会	-----	85
	秋季大会	-----	86
●四国地区	春季大会	-----	88
	秋季大会	-----	89
●九州地区	春季大会	-----	90
	秋季大会	-----	91
調査研究委員会●投稿規定・執筆要項		-----	109
広報記録委員会●全日本大学ソフトボール連盟表彰		-----	110
●第2回東海オープン出場チーム募集		-----	110
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿		-----	112
●全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿		-----	115
●平成14年度加盟大学一覧		-----	116
編集後記		-----	118

## 【巻頭言】 出 会 い

副会長 一 谷 宣 宏 (園田学園女子大学長)

人生にはさまざまな出会いがある。その中で私には、ソフトボールとの出会いが何度かある。その最初の出会いは、やはり小学生から中学生時代にかけての遊びとしての出会いであった。戦後の物資のまだ豊かでない時代を小学生として育った私たちにとってソフトボールは道具を使わなくて、簡単に楽しむことの出来る格好の遊びであった。それは、スポーツ感覚ではなく、遊戯としてのソフトボールとの出会いである。

次の出会いは、園田学園女子大学にソフトボール部が創部(昭和52年)されたときである。この時初めて女子がバットを握ってボールを打つ姿を見たのであった。実際には日本でのソフトボールの普及は戦後直ぐであり、日本ソフトボール協会が設立された昭和24年の8月には、第1回全日本女子選手権大会が開催され、本格的な活動が開始されている。この第1回大会は高校女子の部、一般女子の部が行われ、共に9チームが参加して熱戦が繰り広げられたそうである。何れにしても競技スポーツとしてのソフトボールへの出会いであった。

第3番目のソフトへの出会いは、娘(次女)が中学校でソフトボール部に入部したときである。厳しい練習に耐えながら、レギュラーとして選出され、神戸市の中学校総体に優勝した平成元年の7月を忘れることは出来ない。それは、スポーツを家族で応援することの素晴らしさ、そしてそこに起こる興奮、色々な場面展開での感動等々を感じさせてくれた出会いであった。

第4番目のソフトボールへの出会いは、全日本大学ソフトボール連盟(学連)である。平成5年度から本職を仰せつかって早や10年が過ぎ、ソフトボールとの一番永い付き合いとなった。学連での出会いは正に、「全日本大学ソフトボール選手権大会(インカレ)」である。平成5年度第28回の宇部市での大会を皮切りに平成15年度第38回大会まで11回連続して、学生諸君・諸姉と共に参加できたことは何ととっても嬉しい出会いである。大学生のソフトボール部にとってインカレへの出場こそが最大の目標である。それは、過去のチームの強さや、伝統を度外視して考えなければいけないほどの重みのある大会であるからである。又、学連自身も「全日本大学ソフトボール選手権大会」を学連の最大の事業として位置づけてきた。これからも更に一段と格調高いインカレを目指して全日本大学ソフトボール連盟は取組んでいくことになるだろう。何故ならば、学生諸君・諸姉が、競技スポーツとしてのソフトボールの頂点が何であるかを力強く認識し、意欲と意識を持って挑戦できる大会を形成しなければならないからである。このことが日本のソフトボールの更なる普及と活性化につながるものと信じています。

さまざまな「出会い」を造り出してくれた「ソフトボール」である。又、これからも素晴らしい出会いが生まれることを楽しみにしている次第である。

## 【事業報告】平成15年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 末 井 健 作 (姫路工業大学)

平成15年度本連盟の事業である文部科学大臣杯第38回全日本大学ソフトボール選手権大会（共催：宇部市・宇部市教育委員会、主管：山口県ソフトボール協会・宇部教育委員会、後援：山口県他）は、男子において日本体育大学が4連覇の偉業を達成し、大学男子ソフトボールの盟主として歴史にその名を刻みましたが、女子において淑徳大学が念願の初優勝の栄冠を手にすることができ、大学女子ソフトボールに新風を吹き込む大会となりました。

今大会の開会式は、雨中で開催しましたが、ご出席くださいました河村健夫文部科学副大臣（当時、現文部科学大臣）から激励のご挨拶をいただくことができたこと、また、選手のプレイは多くのソフトボールファンを魅了し、大いに盛り上がった記念すべき大会でありました。

主管くださいました山口県ソフトボール協会・宇部市ソフトボール協会および関係者の皆様の献身的な運営とご協力により無事終了することができましたことを、厚く御礼申し上げます。

後援いたしました東日本、西日本大学選手権大会は、台風の影響を受け天候に悩まされながらの大会となりましたが、何とか皆さんの熱意で成功裡に終えることができました。両大会は、学生役員の運営面における役割が大きいことが特色といえます。今後、さらに学生役員は、種々の面で活躍してくれることを望みます。昨年度から後援しました各オープン大会は、各地区加盟大学の目的に応じたプログラムが提供されており、その発展の可能性が大きく期待されています。来年度は、全地区でオープン大会を開催していただき、加盟大学のレベルアップを図りながら大学連の活性化に繋げていきたいと考えています。

ところで、ここ数年来、男子の試合において大学生としての品位に欠けるプレイが見受けられましたが、学連委員を中心にマナーの大切さを訴えた効果が現れたのか、改善の傾向が認められてきたと思います。さらに、指導者の皆様および選手諸君に品位あるプレイとマナーを期待します。

今後取り組まなければならない課題は、チャンピオンシップとしての大学選手権大会の在り方、国際大会に向けての体制づくり、地区組織の確立とオープン大会の開催等があります。何れも短期・中期的な展望をもちながら積極的に問題の解決に取り組む必要があります。本学連は、2年後に創設40周年を迎えますが、この機に私たちも将来を見据えたプランニングを学生役員含もめて考え、そして、新たな展望を開いて行きたいと思えます。

今後とも、関係各位の絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 【報告】第8回アジア女子選手権大会への選手派遣について

理事長 末井健作（姫路工業大学）

本連盟の今年の事業として大きなものは、日本ソフトボール協会からの要請を受け、標記大会への選手派遣（大学生選抜チーム）に応じるべく「選手選考会」を開催したことである。これまでも学連独自で、ニュージーランドやオーストラリアに選抜チームを編成して遠征してきたが、国際大会出場を前提とした選考会を開催したのは画期的なことであった。残念ながら、5月下旬～6月下旬に開催予定であった標記大会は、種々の事情により結局、来年の開催になってしまったが、ここに選考され派遣予定であったスタッフと選手の一覧をお知らせするとともに、今後の関係各位の益々の精進を期待したいと考える。

今後はこのような国際大会出場のチャンスが増えてくると思われるので、今回を機に、それに対応できるシステムづくり（選手強化、選考の実施方法など）をしていくことが課題であるとも思われる。

2003年度アジア選手権大会派遣選手団

位 置	氏 名	所 属 大 学	学 年
学連代表	末井健作	姫路工業大学	
監 督	吉野みね子	東京女子体育大学	
コ ー チ	久保田豊司	大阪国際大学	
トレーナー	但尾哲哉	神戸親和女子大学	
投 手	五島麻美	日本体育大学	2年
投 手	松村歩	大阪国際大学	3年
投 手	中村祐子	東京女子体育大学	2年
投 手	鵜澤茉理子	東京女子体育大学	2年
捕 手	榊本亜希	園田学園女子大学	4年
捕 手	藤崎由起子	東北福祉大学	2年
一 塁 手	小幡麻由	日本体育大学	2年
一 塁 手	稲垣彩子	東京女子体育大学	4年
二 塁 手	宮下絵美	東京女子体育大学	3年
二 塁 手	白井沙織	日本体育大学	3年
三 塁 手	竹野友貴	東京女子体育大学	3年
遊 撃 手	上田玲	大阪国際大学	4年
左 翼 手	滝真由美	日本女子体育大学	4年
左 翼 手	藤川紗矢香	東京女子体育大学	4年
中 堅 手	古渡美奈	東京女子体育大学	3年
中 堅 手	土橋佳代	東海学園大学	3年
右 翼 手	衣笠久美	東海学園大学	2年

## 【学生委員会報告】 今後の大学ソフトボール発展のために

学生委員長 新井 康太（日本大学）

今年度、全日本大学ソフトボール連盟の学生委員長をやらせて頂きました。まずは今年度予定されていたすべての大会が無事に終了することが出来ましたことを、運営に携わって頂いた皆様に感謝申し上げます。

この1年間、様々な大会に参加して、学生委員長として強く感じたことは、大学生の大会であるはずなのに、大会運営に学生がまったく携わっていないことです。これはこれから先、検討しなければならない問題だと考えます。事実、私は委員長としての仕事はほとんど与えられていませんでした。

私が所属している東京都大学ソフトボール連盟は、「学生の、学生による、学生のための大会」をモットーに、各チームから選出された委員が自主的、主体的に連盟運営を行っています。年間10回程定期的に集まり会議を行います。委員長、副委員長は委員の互選で選出されます。役員は会議に際してのレジュメ作成や、年間の莫大な経費の管理運営など多くの仕事があります。

リーグは男子4、女子3の計7リーグあります。すべてのリーグは学連委員を中心に運営されています。リーグ戦での運営内容は、各試合会場の確保、東京都ソフトボール協会への審判派遣要請、派遣審判員の日当支払い、昼食の準備などです。

また東京都リーグは、すべての試合において塁審(2塁、3塁)、記録、得点揭示係は試合を行っていないチームの選手が行います。学連委員はリーグ戦中も必ず仕事がありますが、所属チームの試合には集中できるよう配慮されています。学連委員は大変だとは思いますが、終わったときの充実感はとても素晴らしいものです。東京都大学ソフトボール連盟は、これからも学生が主体となり、更に発展することを目指して努力します。

このように東京都リーグは学生が主体となって活動しています。私は他の地区も学生が中心となって活動出来る事を願っております。地区の大会だけでなく、全国大会や東・西日本大会も含めて、学生が主体となって取り組んで頂きたい。各種大会の開催にあたり、開催地の方々の協力がなければ成り立たない部分もありますが、学生も少しずつ運営に携わっていくことで大会がさらに盛り上がってくると思います。毎年正月に行われる箱根駅伝やトライアスロンなどの多くの競技団体は学生が主体となり活動しています。これから先、全日本大学ソフトボール連盟が発展していくためにも、もっともっと学生に開かれたものにして欲しいと思います。全日本大学ソフトボール連盟は、学生役員を活かすことを再考して頂きたいです。



## 【研究紹介】 全日本女子ソフトボール投手の 投球腕の動作分析

福島 豊 司（東京大学大学院）

キーワード ソフトボール・ウインドミル投法・投球腕・動作分析

### 【緒言】

これまでソフトボール投手の動作を3次元的に解析した報告は少ない。特に代表的な投法であるウインドミル投法について、投球腕の動きを連続的、定量的に求めた研究報告は見られないというのが現状である。ウインドミル投法を行う投手の動作を詳しく調べ、明らかにしていくことは、パフォーマンスの向上だけでなく、実際の指導についても有効であると思われる。ウインドミル投法は投球腕を一回転させて投球するため、肩、肘、手関節などの複合的な動きを伴い、大腿部と前腕の接触を行って投球する。本研究の目的は、この投法における投球腕の3次元的な動作解析により、投球時に前腕の接触を行う上級者の投球腕の動作の特徴を明らかにすることである。

### 【方法】

被験者として全日本女子チームの投手7名を選出した。被験者の投球腕を撮影するために、200コマ/秒の2台の高速度映画カメラを右側方と右前方に設置し、投球動作開始から、フォロースルーまでを撮影した。投球距離は12.19mとし、捕手のもつミット（ホームベース中央、高さ0.6m）を狙って投球を行わせた。

マーカーとして直径10mmまたは20mmの発砲スチロール製の球を投球腕（指先、中手骨先端）、左右肩峰、胸骨上に取り付け、ビニールテープを投球腕の肩関節、肘関節、手関節に巻いた。前腕と体幹の動きを調べるために手関節に付けるマーカーとベルトを作成し、被験者に取り付けた。成功試技のボールと身体各部位の測定点を経時的にデジタル化し、DLT法により3次元座標データを得た。得られた座標データから肩、肘、手関節、ボールの速度と角度、角速度などを算出した。

### 【結果と考察】

図1に代表的な被験者の投球腕の各関節とボールの速度変化を示した。ボール速度はリリースに向けて増大を示した。肩関節の速度には大きな変化はみられず、リリース時で約5m/秒であった。肘関節の速度はリリース前約0.02秒で減少し始め、肩関節の速度よりも小さい、つまり、上腕の角速度が負になる局面がみられた。このことは7人中5人の被験者で認められた。肘関節の速度が減少し始めたときに、手関節の速度は約14m/秒で一定であったが、これは前腕角速度の増大を意味している。そして、手関節の速度はリリース前約0.01秒で減少し始めた。

肘関節の速度が肩関節の速度よりも小さくなるということは、上腕の投球方向への角速度が負になるということである。このことは前腕部が大腿部に強く接触することにより起

こったと考えられる。リリース前0.02秒から0.01秒まで手関節の速度が一定であったことは、前腕の大腿部との接触による減速をその接触による角速度の増加が相殺したためと考えられる。手関節よりも遠位端にあるボールがこの局面で加速されたことは、このことから理解できる。この後、手関節の速度は減少を示した。これは手関節の屈曲動作によるボールの加速の反作用の影響と考えられる。

今後はキネティクスの側面から、投球腕の速度変化の原因についてより詳しい研究を行うことが必要と考えられる。

#### 【まとめ】

全日本女子チームの投手7名の投球腕の動作分析を行った。その結果、大腿部と前腕の強い接触によって、上腕が投球方向に対して負の角速度をもつことが認められた。この強い接触動作により、前腕の速度は減少したが、前腕の角速度は増大し、ボールが加速された。しかし、前腕を接触させて投球することが接触させずに投球する場合よりもボール速度を高められるかどうかについては明らかにできなかった。

謝辞:本研究を行うにあたり、多大なる御協力を頂きました日本ソフトボール協会に深くお礼を申し上げます。

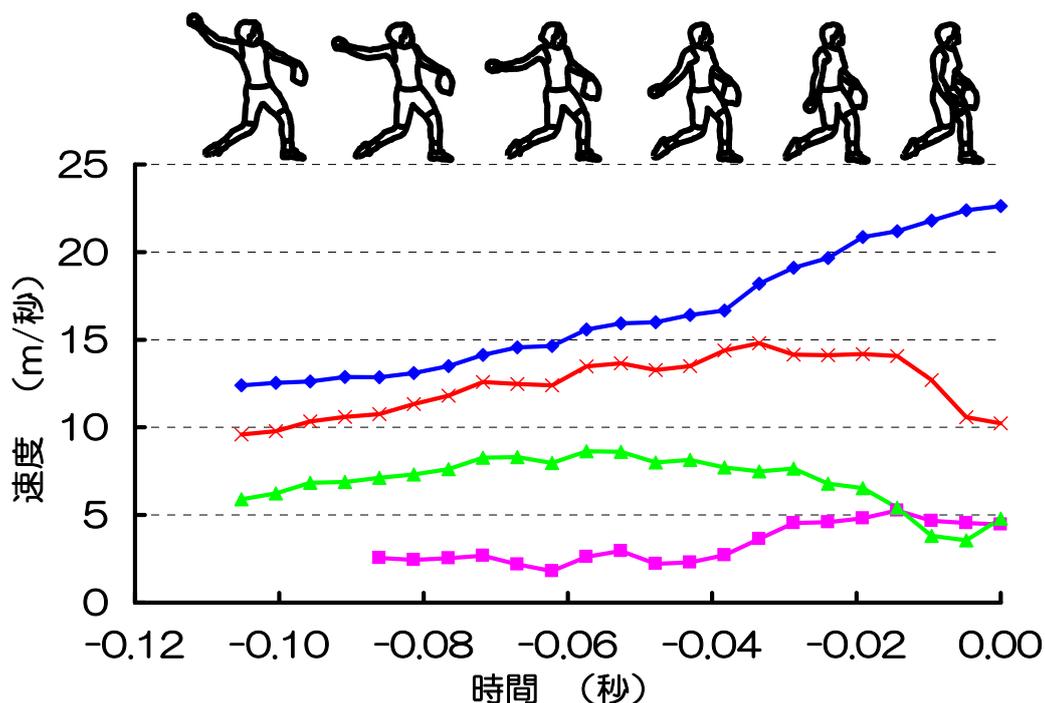


図1 投球腕の各関節とボールの速度変化  
(横軸の0秒がボールリリース)

※編集部註：この抄録は日本体育学会第51回大会において発表されたものです。

## 【研究紹介】 レギュラーシーズンにおけるトレーニングが女子ソフトボール選手の筋力・筋パワー・敏捷性能力に及ぼす影響

中谷敏昭(天理大学)

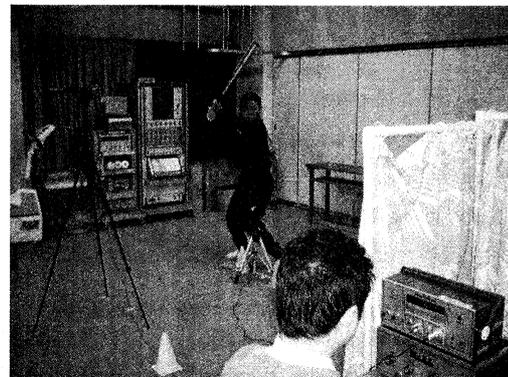
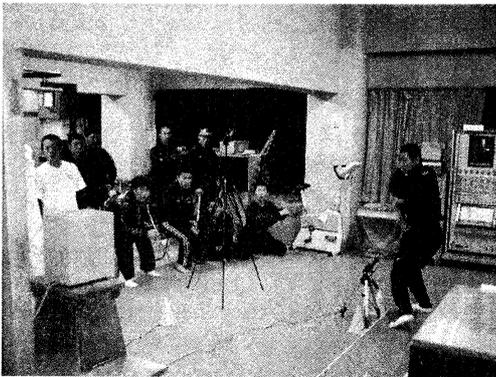
これまで我々の研究室では、小学生から大学野球選手までを対象としてトレーニングの効果や体力の差異について調査を続けてきました。今回、天理大学女子ソフトボール同好会に属する選手を対象に2002年度レギュラーシーズン中のトレーニングが選手の筋力・筋パワー、敏捷性能力に及ぼす影響についてまとめた論文が日本体育測定評価学会の機関誌「体育測定評価研究」に掲載されましたので、紹介させていただきます。以下、論文からの内容を抜粋します。

### 【はじめに】

ソフトボールの試合では、バットを素早くスイングするための上肢の筋力、筋パワー、敏捷性能力などの体力要素向上が打撃におけるパフォーマンス改善につながる。また、実践場面ではストライクとボールを見極める必要があることから、単に早くスイングする能力だけではなく、ストライクあるいはボールを選択することや、スピードのある投球に対してはバットを短く持つて対応することも必要とされている。本研究では、大学女子ソフトボール選手を対象にレギュラーシーズンにおけるソフトボールのトレーニングが上肢および下肢の筋力、筋パワー、全身および単純反応時間に及ぼす影響を検討するとともに、我々が新しく開発したバットスイングを用いた反応時間への影響についても検討を加える。

### 【方法】

被検者はT大学ソフトボール同好会の女子選手9名(平均年齢 $20.2 \pm 1.3$ 歳)で、ソフトボール歴は2-12年(平均6.0年)であった。測定項目は身長、体重、体脂肪量などの体格、握力、背筋力、等尺性膝伸展力などの筋力、等速性脚伸展パワー(キックフォース)および腕伸展パワー(チェストフォース)、全身反応時間および両手と両脚による単純反応時間、単純刺激(赤色)および選択刺激(赤色と青色)によるバットスイング反応時間であった(高校野球選手の実験風景を写真に示した)。バットスイング反応時間の測定には日ソ協公認のバット(テックファイア)を用い、「用意」の合図でバックスイングの最後部の位置までテイクバックをとらせ、光刺激が呈示されたら素早くスイングをするようにさせた。バットスイング反応時間の測定では、光刺激に対して素早くスイングする単純および選択反応動作にグリップ位置を変化させた条件を加えた(握りこぶしひとつ分短く)。トレーニングは週に4回、約3時間にわたる内容でレギュラーシーズン中の7月から10月までの4ヶ月間とし、その前後に体格と体力等を測定した。



### 【結果】

トレーニング前後における筋力の変化を表2に、腕伸展パワーの変化を表3に、脚伸展パワーの変化を表4に、全身および単純反応時間の変化を表5に、バットスイング反応時間の変化を表6にそれぞれ示した(表中の\*マークは、統計学的に差があったことを示す)。

表2 ソフトボールのトレーニングにおける筋力の変化

	トレーニング前	トレーニング後	変化率(%)
握力(右), kg	33.6 ± 5.9	31.8 ± 5.2	-5.4
握力(左), kg	30.1 ± 5.1	29.5 ± 5.4	-2.4
背筋力, kg	110.6 ± 24.0	108.3 ± 23.2	-2.1
膝伸展力, kg	58.9 ± 24.0	73.0 ± 14.4	24.0*

平均値±SD. \*P<0.05, vs. トレーニング前

左右の握力および背筋力にはトレーニングの影響はなかったが、膝伸展力は24.0%の改善がみられた。

表3 ソフトボールのトレーニングにおける腕伸展パワーの変化

	トレーニング前	トレーニング後	変化率(%)
20 cm/sec(絶対値), watt	104.3 ± 42.6	82.1 ± 13.8	-21.2
20 cm/sec(相対値), watt/kg	1.9 ± 0.9	1.5 ± 0.2	-21.0
80 cm/sec(絶対値), watt	180.3 ± 70.2	227.3 ± 29.8	26.0*
80 cm/sec(相対値), watt/kg	3.3 ± 1.3	4.2 ± 0.5	27.2*
120 cm/sec(絶対値), watt	208.9 ± 47.2	217.2 ± 31.1	4.0
120 cm/sec(相対値), watt/kg	3.8 ± 0.7	4.0 ± 0.5	5.3

平均値±SD. \*P<0.05, vs. トレーニング前

等速性腕伸展パワーは80cm/secの中速度の負荷においてのみ改善がみられた。

表4 ソフトボールのトレーニングにおける脚伸展パワーの変化

	トレーニング前	トレーニング後	変化率(%)
20 cm/sec(絶対値), watt	315.8 ± 90.6	314.1 ± 68.7	-0.5
20 cm/sec(相対値), watt/kg	5.9 ± 2.0	5.7 ± 1.0	-3.4
80 cm/sec(絶対値), watt	719.3 ± 274.7	831.3 ± 173.5	15.6
80 cm/sec(相対値), watt/kg	13.0 ± 4.8	15.2 ± 2.5	16.9
120 cm/sec(絶対値), watt	823.2 ± 305.1	1001.4 ± 206.1	21.6*
120 cm/sec(相対値), watt/kg	14.9 ± 4.9	18.2 ± 2.5	22.1*

平均値±SD. \*P<0.05, vs. トレーニング前

等速性脚伸展パワーは120cm/secの高速度の負荷においてのみ改善がみられた。

表5 ソフトボールのトレーニングにおける全身および単純反応時間の変化

	トレーニング前	トレーニング後	変化率(%)
全身反応時間, msec	314.4 ± 41.8	299.4 ± 26.2	-4.8
単純反応時間(両手), msec	205.8 ± 20.8	193.9 ± 25.1	-5.8
単純反応時間(両脚), msec	229.9 ± 20.4	224.6 ± 26.8	-2.3

平均値±SD.

光刺激による全身反応時間と両手および両脚の単純反応時間にはトレーニングの影響はなかった。

表6 ソフトボールのトレーニングにおけるバットスイング反応時間の変化

	トレーニング前	トレーニング後	変化率(%)
スイング単純反応時間, msec	509.0 ± 32.0	477.2 ± 44.1	-6.3
スイング単純反応時間(短), msec	487.0 ± 28.0	443.8 ± 45.6	-8.8
スイング選択反応時間, msec	533.0 ± 44.0	484.8 ± 45.6	-9.4*
スイング選択反応時間(短), msec	498.0 ± 37.0	478.3 ± 52.0	-4.0

平均値±SD. (短)は握りこぶしひとつ分短く握らせた際の反応時間. \*P<0.05, vs. トレーニング前

光刺激後のバットスイング反応時間では、グリップ位置いっぱい握らせた際の選択反応時間にトレーニングによる改善がみられた。

### 【まとめ】

本研究では、大学女子ソフトボール選手を対象にレギュラーシーズンにおけるソフトボールのトレーニングが筋力、筋パワー、敏捷性能力に及ぼす影響を検討した。結果は以下のとおりである。

1. ソフトボールのトレーニングは握力と背筋力に影響を及ぼさなかったが、等尺性運動時の膝伸展力を有意に改善した。
2. 腕伸展パワーは、20cm/secと120cm/secの負荷でトレーニングの影響はなかったが、80cm/secの負荷では有意な改善が認められた。脚伸展パワーは、20cm/secと80cm/secの負荷でトレーニングの影響はなかったが、120cm/secの負荷では有意な改善が認められた。
3. 全身反応時間、両手および両脚における単純反応時間にはトレーニングの影響はなかった。
4. バットスイング反応時間では、単純な光刺激条件においては有意な変化はなかった。ストライ

クとボールを見極める選択条件ではトレーニング後に有意な改善を示した。バットのグリップ位置を変化させた場合への影響はなかった。

以上のことから、大学女子ソフトボール選手を対象としたレギュラーシーズンにおけるソフトボールのトレーニングは、膝伸展力、腕伸展時における「中間型のパワー：80cm/sec の負荷」、脚伸展時における「スピード型のパワー：120cm/sec の負荷」、バットスイング選択反応時間を改善するものと思われる。

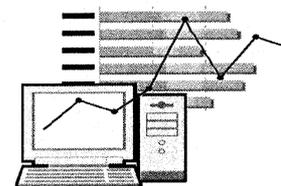
※ 本資料は、「中谷敏昭・灘本雅一（2002）レギュラーシーズンにおけるトレーニングが女子ソフトボール選手の筋力・筋パワー・敏捷性能力に及ぼす影響。体育測定評価研究2：41-48.」から一部抜粋したものである。

#### 【用語説明】

筋力	筋（筋線維）の収縮によって発生する物理的なエネルギー
筋パワー	単位時間内に発揮された仕事で、力とスピードの積によってあらわされる。力とは別物
敏捷性	神経の伝わる速さと筋収縮の速さによる反応動作
全身反応時間	マットの上に立ち、光や音刺激で素早くマットから離れる時間を計測（全身の動作）
単純反応時間	マットの上に手や足を置き、光や音刺激で素早くマットから離れる時間を計測（身体の一部の動作）
等尺性運動	関節の角度（筋の長さ）が一定に固定された状態で筋力発揮を行う動作
等速性運動	関節の動く角度が可動域すべてに一定の状態での筋力発揮を行う動作
80cm/sec	フットペダルやバーが1秒間に80cm動く負荷（速度が速くなれば軽く感じる）
絶対値	測定者が発揮した力やパワーそのもの
相対値	絶対値を測定者の体重で除した値（体重が重いと筋力や筋パワーも大きいことから、体重差をなくした相対的な値）

#### 【最後に】

この論文を執筆するにあたり、ソフトボールに関する研究発表が非常に少ないことがわかった。日本のソフトボールが世界の頂点に立ち続けるためには、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングや技術分析が必要であると思いました。



## 【卒業論文】

### ソフトボールのウインドミル投球における個人分析

#### ～速度に及ぼす要因～

宮崎謙尚(姫路工業大学環境人間学部平成16年3月卒業予定)・田路秀樹(指導教員)

#### 【緒言】

投げるという動作に関する研究は、野球を中心にこれまで数多くの研究がなされてきた。しかしながらソフトボールにおける投球動作については淵本ら(1984)、山本ら(1981)の報告がある程度でその数は少ない。

本研究では、熟練者である女子ソフトボール選手の投手における投球動作(ウインドミル投法)をビデオカメラで撮影し、各選手のボール速度に及ぼす影響を検討し、被験者の投球技術の向上を図ることを目的とした。

#### 【方法】

被験者は関西ソフトボール一部リーグに所属する一年生女子3名(S女子大学)である。投球動作の撮影は、ビデオカメラ(60コマ/秒)を被験者の利き腕側方20mの位置に設置し、投球動作開始からリリースまでの動作をH大学体育館で行った。投球は一人につき10球行い、自己申告によりベストの投球を選択し、デジタイジングすることにより座標データからボール速度、各部位の角度等を分析した。

表1に被験者の身体的特徴を示した。

投球動作を角度別に比較する際、90度～180度を第一区間、180度～270度を第二区間、270度～360度を第三区間、360度～450度を第四区間と設定した(上腕が肩と水平な位置を0度とした;図1上段)。

表1 被験者身体的特徴

氏名	身長 (cm)	体重 (kg)	体脂肪率 (%)	利き腕
S.M	160.5	62.5	22	左
F.T	166.4	62.4	21	右
Y.M	165.0	58.5	18.8	右

#### 【結果と考察】

被験者3名のボール速度は、リリース時から次のコマにおけるボールの座標から求め

た。その結果 S.M は 83.5km/h、F.T は 80.3km/h、Y.M は 76.5km/h であった。

投球速度に及ぼす影響を探るため水平と上腕のなす角の変化にともなうボールの速度を求め、それぞれの局面におけるボール速度の変化を図1に示した。

その結果3被験者のリリース時の回転速度は、いずれも 25m/s~27m/s とほぼ一致した。しかしそれぞれの区間における回転速度は異なる変化が見られた。各自の特徴を考察してみると、最も球速が速かった S.M (83.5km/h) については、一連の投球動作において、全体的にスムーズな速度変化が見られる。特に第二区間で最も低速となった値は 5.7m/s であり、また第四区間のリリース時の最高速度は 27.0m/s と著しい速度変化を示した。このことは、十分な加速がなされたことを示唆するものである。事実、各被験者の加速度を求めると、S.M は  $27.4\text{m/s}^2$ 、F.T は  $24.2\text{m/s}^2$ 、Y.M は  $22.5\text{m/s}^2$  となり、S.M が最も高い値を示し、このことが球速に影響を与える重要な要因であると思われる。

次に F.T (80.3km/h) を見てみると、特に第二区間で最も遅くなった速度が他の二人に比べ高く (10.8m/s)、速度差が最も少ない結果 (16.9m/s) となった。このことは、加速度の低値を示すもので、ボール速度が S.M ほど高くなかった原因と思われる、加速度を高めることが F.T の今後の課題と思われる。

Y.M (76.5km/h) については、第四区間のリリース直前に加速が緩やかになり、第二・第三区間に生じた加速が維持できず、球速に影響を与えることができなかったのではないかとと思われる。第四区間の腕の動きを潤滑にする事が、球速向上をもたらす要因と考えられる。

以上の結果から、投球動作において回転速度の変化とスムーズな回転を意識することが、ボール速度を高める要因であることが示唆された。

【参考文献】

淵本ら(1984)ソフトボールウインドミル投法における速度の決定要因,第七回日本バイオメカニクス学会大会論集(星川保・豊島進太郎編),pp.118-122.

山本ら(1981)ウインドミル投法の動作分析的研究. 中京大学体育学研究, 21:114-121.

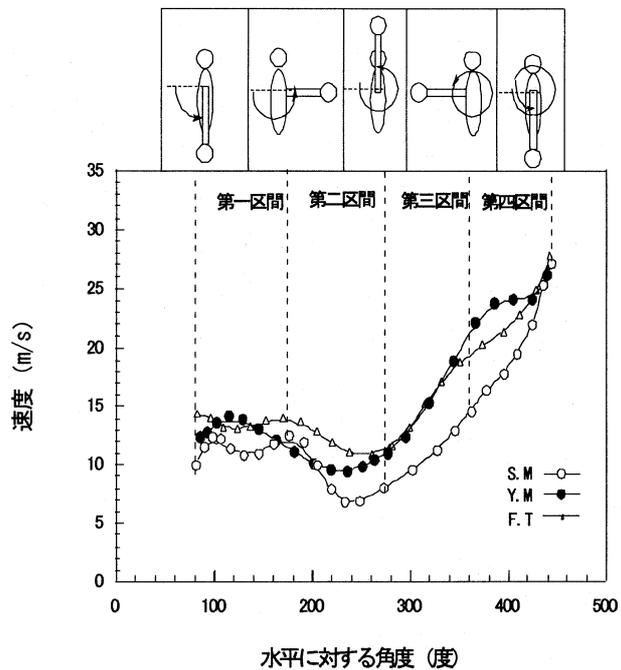
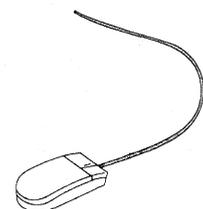


図1 3被験者の水平と上腕のなす角度変化とボールの速度



## 文部科学大臣杯第38回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成15年8月29日(金)～8月31日(日)

会場：山口県宇部市東部体育広場・宇部市野球場

### 大会感想

標記大会は、過去複数回開催した経験のある宇部市で開催された。

夕立に見舞われた開会式に始まり、第1日は、1試合が日没コールドになったが、僅少の試合は2試合のみで、大量得点の試合が多く、順調に進む。

第2日も、僅少の試合は少なく、打撃戦が展開されたが、第3試合の3試合が、降雨コールドゲームとなった。国際武道大対東海大戦は、共に、3本の本塁打を放つ乱打戦であったが、5回コールドとなる。特に、日体大対城西大は、5-2ながら、7回表の城西大は、無死満塁となるも、44分中断後コールドが決定し、惜しまれる結末だった。

決勝戦は、中京大との乱打戦を制した高崎経済大を5回コールドで勝ち上がってきた日体大と、国際武道大との乱打戦に打ち勝った東海大を長打でねじ伏せた早稲田大との一戦となる。日体大が3点を先行するも、早稲田大は一旦は同点に追いつき緊迫した決勝戦になる。しかし、日体大は勝呂の2点本塁打で試合を決め、4年連続26回目の優勝を飾った。

ほとんどの試合が、本塁打を始めとする長打で決することが多く、打高投低の傾向が見られた。(記録長 服部辰夫)

### 主な記録・印象に残った選手

打撃の部では、打率.500を挙げた、日体大の坂井、高崎経済大の三島、東海大の田辺、次いで.462を記録した、日体大の杉山・勝呂、早稲田大の新井、高崎経済大の高橋、東海大の伊藤・俣田選手等であった。

上記以外で、長打力を発揮したのは、高崎経済大の清水、早稲田大の山内・中島両選手等であった。

また、規定打席数に達しなかったが、長打力を発揮した、国際武道大の畠、京都産業大の福田、龍谷大の門田、城西大の植松、最多盗塁の清選手等が目についた。

投手部門では、優勝の原動力となった、防御率1点台を維持した日体大の山尾、惜しくも優勝を逃したが、最多奪三振を記録した早稲田の石橋、中京大の仲佐、打たれながらも、3位になった東海大の大黒、規定投球回数に達しなかったが、京都産業大の林、城西大の加藤投手等であった。(記録長 服部辰夫)

### 大会総評

男子 優勝 日本体育大学 四連覇おめでとう。

今年度の大会は、山口県宇部市で従来の開催時期とは異なる8月下旬の開催となった。当然大学によりそれぞれに事情は異なるだろうが、各チームには十分な調整が出来ての出場とあって、得失点差だけでは計ることの出来ない好試合が数多く展開された。

男子の部においては、両チーム合わせて5得点以上の試合が31試合中28試合、また全試合で本塁打が40本も飛び交うという華々しい打撃戦の試合が数多く見られ、流れを左右する

一打がいつ出るのかと、目を離せない試合が多かった。

一回戦の対戦は、地区シードの関係から東西での対戦となった。その中で、一回戦屈指の対戦となったのが、今年度の東西の雄である日本体育大学対神戸学院大学の試合であろう。先攻の日本体育大学は、相手投手の発ち上がりを攻め1点を先取したが、2回以降は四方投手に抑えられ、緊迫した投手戦が続いていた。6回に日本体育大学坂井主将がソロホームランを放ち2点差とすると、四方投手の緊張の糸が切れたのか7回にも1点を失い3-0で日本体育大学が勝利を収めた。敗れた神戸学院大は、日本体育大学山尾投手から1点が取れずの完敗であった。

また、地元山口県から出場した山口大学工学部は、ベスト4に進出した高崎経済大学と対戦し、2回に2点先行したが相手強力打線を抑えることが出来ず、3-12で大敗した。

二回戦の注目カードは、共に危なげなく勝ちあがった伝統校同士の早稲田大学対国士舘大学の対戦であろう。先攻の早稲田大学は、1・2回にともにタイムリーヒットで1点を取り2-0とリードした。5回に中島投手が国士舘大学に3連打され1点差に追い上げられ、国士舘大学に分があるのかとも思われたが、中島投手の粘り強い投球に後一本がでず惜敗した。

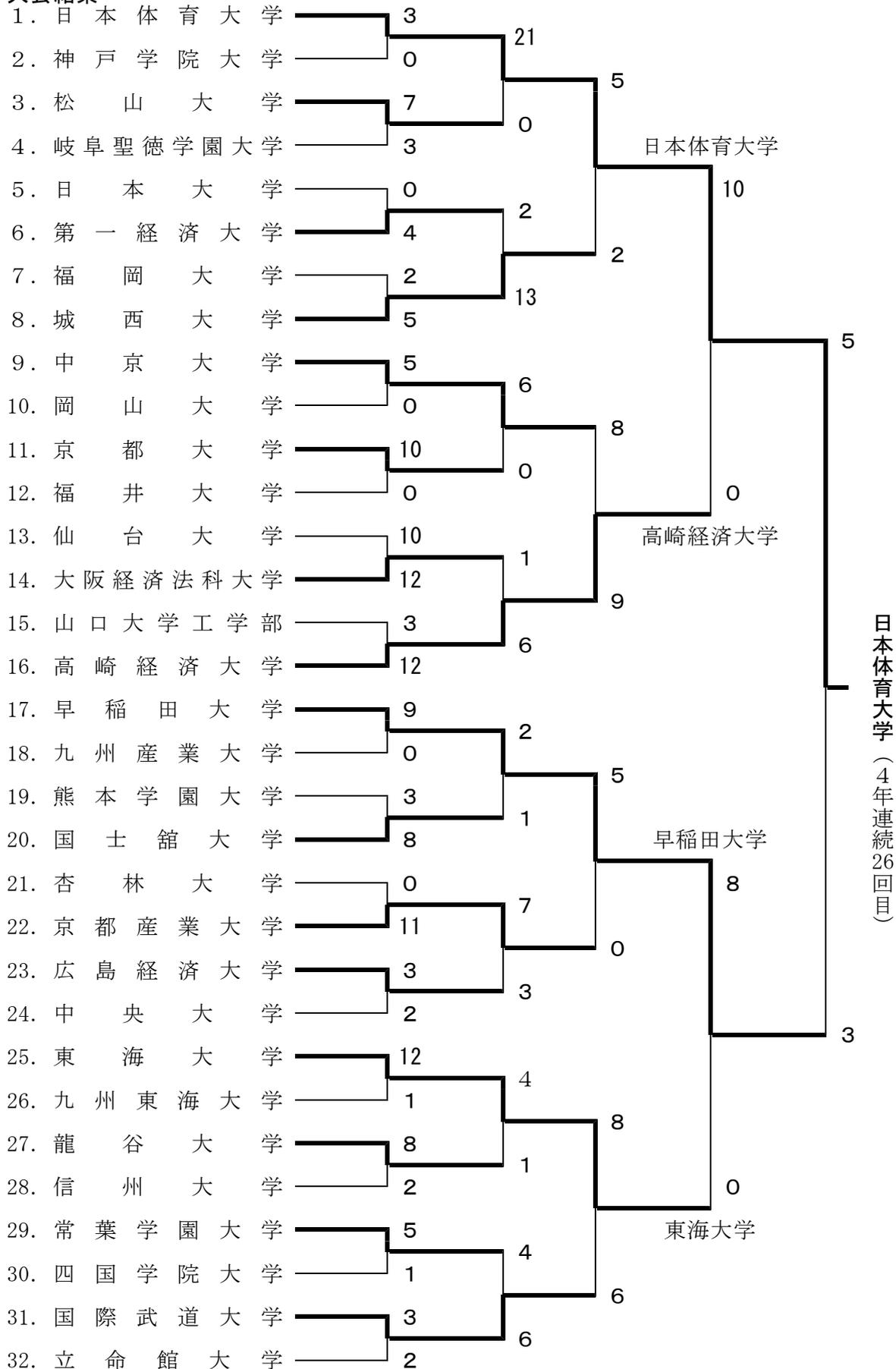
また、龍谷大学と東海大学の対戦は、1-1で迎えた7回裏東海大学の攻撃で劇的な3ランホームランで決着がついた。

準々決勝戦は、開始直後に降り始めた雨が試合場を濡らし、3試合が降雨コールドゲームとなった。その中で、唯一コールドにならなかった中京大学対高崎経済大学に対戦は、終始中京大学有利に進行していたが、7回裏に3点を取り同点に追いついた高崎経済大学が、タイブレーカーをものにし、9-8でサヨナラ勝ちを収めた。また、城西大学対日本体育大学は、日本体育大学が5-2で勝利したが、3点をリードされていた城西大学は、7回表の攻撃で無死満塁と攻め立て一打同点、あわよくば逆転のチャンスを迎えたが、降雨によりコールドゲームが宣告され泣くに泣けない幕切れとなった。

準決勝戦は、日本体育大学対高崎経済大学、早稲田大学対東海大学の戦いとなったが、日本体育大学、早稲田大学ともに大差の零封で決勝進出を果たした。

決勝戦は、東日本大学のライバル校、早稲田大学対日本体育大学の戦いとなった。早稲田大学中島投手、日本体育大学山尾投手の先発でプレーボールがかかり、日本体育大学は先攻の早稲田大学の攻撃を0点に抑えた裏の攻撃で、走者を一塁に置き四番の小野選手が先制の2ランを放ち2-0とリードした。3回にも1点を取り試合を有利に進めていた日本体育大学ではあったが、4回表に山尾投手が突如乱れ2連続四球を与えると、動揺を隠し切れない山尾投手から山内、中島両選手が長短適時打で同点とし、試合を振り出しに戻した。4回を終了した時点では、試合の流れは混沌としていたが、日本体育大学は5回の裏、勝呂選手が走者を一塁に置き右翼へ2ランを放ち、再びリードを2点とした。早稲田大学は7回にあわや同点かと思わせる一打もあったが、日本体育大学杉山右翼手に好捕され、日本体育大学の四連覇を阻止することが出来なかった。(中国地区常任理事 逢坂秀樹)

大会結果



## 試合結果

★第1日目（8月29日）

日本体育大学：1000011：3 ○山尾竜則－小野洋平

神戸学院大学：0000000：0 ●四方鉄也－鈴木 隆

【本塁打】坂井貴之（日） 【二塁打】小野洋平・勝呂昌宏（日）

1回の表、日本体育大学は四方の立ち上がりを攻め、4番小野の二塁打で先制し、6回表坂井の本塁打で1点、7回には3連打でさらに1点を追加して勝利した。神戸学院は山尾の変化球にバットが合わずに7回1死まで安打がなく、ノーヒットノーランを逃れるのがやっとであった。（記録員 岸 政市）

松 山 大 学：0210040：7 ○森山敦朗－柘鏡紘武

岐阜聖徳学園大学：0000102：3 ●藤本 充－小野寺瞬

【三塁打】関谷真一郎（松）

【二塁打】清水 淳・森山敦朗・柘鏡紘武（松）、島倉健吾②（岐）

2回表松山大学は一死から五番関谷の三塁打でチャンスをつかみ、六番森山、八番柘鏡の四球で満塁にし、九番清水の二塁打で2点を先制した。さらに、3回に1点を追加した後、6回にも長短打に四死球と犠飛をからめて大量4点をあげて試合を決めた。一方、岐阜聖徳学園大学は、3回と5回に無死から走者を出すものの、松山大学の森山投手に最少得点にを押しえられた。ようやく7回に三番島倉の二塁打で2点をあげて追い上げるのが精一杯であった。（記録員 友岡宗俊）

九州産業大学：0000000：0 ●大石豊明－高橋聡太

早 稲 田 大 学：600120X：9 ○石橋光雄－佐川和也

【本塁打】中島幸紀②（早） 【二塁打】中島幸紀（早）

早稲田大学は、初回連続四球等で先取点をあげ、さらに八番中島の満塁ホームラン等で一挙6点をあげた。投げては石橋投手が14三振を奪い、安打も散發5本に抑えて完封した。九州産業大学は7回に二死二・三塁としたがタイムリーが奪えず完敗となった。（記録員 堀 義光）

熊本学園大学：0000021：3 ●鶴田龍馬・別府慶太郎・鶴田龍馬－北岡純一

国 士 館 大 学：404000X：8 ○照井賢吾・釧持有介・村上明法－萩原墨樹・石井和敏

【本塁打】田端孝夫（熊）、宮里洋一②（国） 【三塁打】川口裕介（国）

【二塁打】平良 求（国）

1回裏国士館大学は宮里の先頭打者本塁打で1点を先取し、一死後三番四番の連打と2四死球で1点、さらに一死満塁で代わった別府投手から敵失と四球で2点を追加した。4回裏にも宮里の2点本塁打と平良・川口の長打等で4点を入れ試合を決めた。一方の熊本学園大学は、5回まで照井投手の両コーナーへのストレートとチェンジアップに抑えられていたが、6回から交代した釧持投手から4四死球と安打・ワイルドピッチ等で2点を返し、7回にも田端の本塁打で1点を返したが及ばなかった。（記録員 関 長治）

日 本 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 : 0 ●河内 剛—吉野公一郎

第一経済大学 : 0 1 1 0 0 2 X : 4 ○山本慎也—中平 斉

【二塁打】松下洋二 (第)

先攻の日本大学の攻撃は、第一経済大学の山本投手に毎回の15三振を奪われるなど完全に抑え込まれ得点できなかつた。一方、後攻の第一経済大学は日本大学河内投手の立ち上がりの2回に2四球と野選で得た満塁のチャンスに犠打で1点を先取り、つづく3回裏には敵失出塁の走者を安打で還して1点を追加、6回裏には長打を含む3安打で2点を追加しダメを押して勝利した。(記録員 大島将典)

福岡大学 : 2 0 0 0 0 0 0 : 2 ●川口 努・牛嶋孝士郎—太田順也

城西大学 : 1 0 0 0 4 0 X : 5 ○加藤潤一・植松洋介—土田良裕

【本塁打】鈴木達朗 (福) 【三塁打】小川達朗・太田順也 (福)

【二塁打】植松洋介 (城)

初回、福岡大学は三番鈴木の本塁打で先行したが、その裏城西大学も2安打で1点を返した。その後、福岡大学は長打や四死球で再三得点圏に走者を出すものの決定打がなく、5回の攻防が明暗を分けることになった。城西大学は5回裏、安打と2四球で一死満塁のチャンスに幸運な敵失で逆転し、さらに2安打で決定的な2点を加えて逃げ切り勝利した。福岡大学川口投手の5回の乱調が何とも悔やまれる試合であった。(記録員 岩田和公)

杏 林 大 学 : 0 0 0 0 0 : 0 ●柳 真司—船木大地

京都産業大学 : 6 0 0 4 X : 10 ○林 文彦・植木崇将—江川健太

【本塁打】山井 拓 (京) 【三塁打】中町雅仁 (京)

京都産業大学の先発林投手は、カウントを一杯に使って杏林大学から11三振を奪う好投を演じ、つけているスキを与えなかつた。攻撃ではやや球威の劣る柳投手から本塁打・三塁打を含む14安打10点を奪い、5回コールド勝ちを収めた。(記録員 窪井洋司)

中 央 大 学 : 0 1 0 0 0 1 0 : 2 ●金丸真也—坂東雄志

広島経済大学 : 1 0 0 0 1 1 X : 3 ○香川直巳—滑 俊之

【本塁打】藤内真吾 (広) 【三塁打】高橋 武 (中)、渡辺健一 (広)

【二塁打】原 広樹

1点を争う好ゲームであった。1回裏広島経済大学は一番打者渡辺の左中間を破る三塁打と内野手の失策で1点を先取した。一方、中央大学も直後の二回表2四球と犠打で二・三塁とした後、八番中川の三塁ベースに当たる安打で同点とした。3回以降は両投手の好投で緊迫した試合展開も、5回裏広島経済大学の七番内藤が高めの速球を左翼に本塁打でリードすると、6回表のピンチを内野手の攻守で逆転を許さず、その裏、原の二塁打と三盗の後、滑の中前打で決勝点をあげ熱戦に終止符を打った。(記録員 西元百人)

岡山大学：0000000：0 ●矢頭 晃一八塚祐輔

中京大学：202010X：5 ○仲佐秀則一田中真人

【二塁打】谷口慶武（岡）

両チームの力の差が大きく、一方的な試合展開であった。初回から岡山大学の失策が続く、中京大学は2点を先制。3回にも送球ミス、暴投等で2点、5回には安打による走者が捕逸で1点を得た。中京大学の仲佐投手の好投、野手の確実な守備により、岡山大学は2人出塁しただけで得点をあげることができず、完敗した。（記録員 徳方俊江）

福井大学：0000000：0 ●高橋 達一堀 剛三

京都大学：422011X：10 ○藤本義樹・大野 晋一大野 晋・宇野勝浩

【三塁打】坂本光隆・大野 晋（京） 【二塁打】尾崎公亮

京都大学は1回表、一番坂本の右翼手の頭を越える三塁打のチャンスに福井大学投手の暴投で1点を先制し、続く3連続四球で塁を埋め、八番門脇の中前打で3点をあげてほぼ試合を決めた。一方、福井大学は四死球でチャンスは作るものの、あと1本が出ず無得点に終わった。2回以降も小刻みに加点した京都大学は、6回裏一番坂本の中前打で10点目をあげ、コールド勝ちを収めた。（記録員 藤井輝昭）

九州東海大学：00010：1 ●穴見講生・平江慶彦一藤本 卓

東海大学：3054X：12 ○大黒貴将一塚越 徹

【三塁打】塚越 徹・田辺郁生・高田庸平（東） 【二塁打】荒岡寛志（東）

東海大学は初回2本の安打で二死二・三塁のチャンスを作り、五番塚越六番田辺の連続三塁打で先制し、さらに3回にも2本の安打と四球、犠打で1点、さらに荒岡の二塁打などで一挙5点をあげた。さらには4回にも3本の長短打で4点を追加して試合を決定づけた。一方、九州東海大学は、大黒投手の好投により、4回二死一・二塁から八番藤本の安打で1点を返すのが精一杯であった。（記録員 田村正信）

龍谷大学：1010411：8 ○長池和也一門田空士

信州大学：1000100：2 ●松本矩尚一竹川弘和

【本塁打】門田空士 【三塁打】長池和也

龍谷大学は1回表、四球で出塁した走者を門田の中前適時打で還し、先制した。その裏、信州大学も中前安打で出塁後、左前安打と敵失の間に同点に追いついた。その後、両投手とも立ち直りを見せたが、5回裏、龍谷大学は疲れの見てきた信州大学の松本投手を攻め、安打と四球を絡め3安打等で一挙4点を追加した。信州大学はその裏1点を返したが、結局、龍谷大学の長池投手を捉えることができず、8-2で龍谷大学が勝利した。（記録員 大草隆浩）

大阪経済法科大学：01000002：12 ○三好裕二・岩井祐一・三好裕二一舟山 元

仙 台 大 学：6310000：10 三浦伸太郎・●土屋 光一天久元気

【本塁打】中島洋次（大）、真壁輝旭（仙）

【三塁打】屋我慎二・安井伸二（大）、松田智誠（仙）

【二塁打】池添徹也（大）、真壁輝旭（仙）

仙台大学は1回裏、三好投手の乱調や相手守備の乱れに乗り、真壁の3点本塁打などで一挙6点を奪った。しかし、大阪経済法科大学も直後の2回表に屋我・安井の連続三塁打や敵失などで打者15人の猛攻で10点を奪い逆転するも、2・3回に計4点を失い、同点とされた。その後は両チームの救援投手が踏ん張り一転緊張した試合展開になった。大阪経済法科大学は、5回から三好投手が再出場し、これに応えるように7回表中島の2点本塁打で試合を決めた。（記録員 岸 政市）

高崎経済大学：008310：12

○高橋元太ー降矢亮太

山口大学工学部：021000：3（日没コールド）

●小川智久ー宇都秀一

【本塁打】降矢亮太・橋本雄一・清水祐一・三島大輔（高）

【三塁打】清水祐一・加藤孝政 【二塁打】本井文和・三島大輔・高橋雄一（高）

2点を先制された高崎経済大学は3回、長打3本を含む5連打と、仕上げは降矢の2点本塁打と橋本の連続本塁打で一挙に8点を奪い大勢を決した。4・5回も三塁打と清水・三島の本塁打で豪快に追加点をあげた。一方、山口大学工学部は、2回に岡田・宇都の連打や敵失で2点を先制したが、あっさり逆転され、4回以降はなす術なく敗れ、6回日没コールドゲームで試合は終了した。（記録員 友岡宗俊）

常葉学園大学：3100100：5 ○吉田丈洋ー山崎 良

四国学院大学：0001000：1 ●糸瀬直樹・田中 翼ー神山昇平

【本塁打】鈴木悠一郎 【三塁打】鈴木悠一郎

常葉学園大学は初回、山崎の安打と二番吉永の四球と盗塁を絡めて一死二・三塁から四番鈴木の本塁打で先制した。さらに、常葉学園大学は2回、5回と効率的に追加点をあげた。投げては吉田投手の要所を締める粘り強い投球で勝利した。一方、四国学院大学は、4回四番田尾の安打と五番山下の四球でチャンスを作り、七番日本の中前安打で1点を返し、なお好機は続いたが適時打が奪えず、その後も得点できずに敗れた。（記録員 堀 義光）

立命館大学：1000001：2 ●尾上秀文ー市村 太

国際武道大学：102000X：3 ○与那覇卓也ー石峯玄規

【本塁打】畠 久人（国）

【二塁打】緒方宏信・石井憲介・長谷川修二（立）、畠 久人・岸本健作（国）

国際武道大学の与那覇投手は毎回奪三振でその力投が光った。1回表立命館大学は先頭の春日が四球で出塁、続く緒方の左翼線二塁打で1点先取した。これに対し、国際武道大学の一番打者畠は初球を中越え本塁打を放ち同点とした。3回裏国際武道大学は一・二番の連続二塁打と四番打者与那覇の犠飛などで2点を取り、試合を有利に進めた。立命館大学は7回表長短2本の安打で1点を返すも反撃はここまでで、熱戦も国際武道大学に勝利の女神がほほえんだ。（記録員 出羽忠三郎）

★第2日目（8月30日）

松山大学：00000：0 ●森山敦朗・白石 誠一・柘鏡紘武

日本体育大学：6483X：21 ○森 勇紀・山城一平・野口知大

【三塁打】津本大貴・坂井貴之・勝呂昌宏・井上大輔②・野須康宏（日）

投攻守に勝る日本体育大学が、松山大学の2投手にヒット19本を集中して圧勝した。日本体育大学は1回松山大学先発森山の立ち上がりを攻め、5安打を集中、さらに2四球と敵失に盗塁を絡め6点をあげ、2回にも4安打で2点、3回には井上の2本の三塁打を中心に8安打を集中、大量8点を加え、試合を決した。一方、松山大学は森・山城の力投に三振9個を奪われ、出塁が1死球のみで三塁ベースも踏めずに完敗した。日本体育大学の常に次の塁を伺う姿勢は素晴らしいものがあった。（記録員 増野 実）

城西大学：2015005：13 ○加藤潤一・川島正嗣・土屋良祐・伊藤拓志

第一経済大学：0010010：2 ●山本慎也・中平 斉

【三塁打】福田 裕・稲木香介・小田巻竜也（城）、渡辺文彦（第）

城西大学が相手ミスに乗じて得点を奪い、第一経済大学を退けた。城西大学は初回から相手失策に乗じ先制点をあげると、中押しダメ押しと理想の試合運びで第一経済大学に圧勝した。第一経済大学は、相手先発加藤、二番手川島の前に要所で攻めきれず力を発揮することができなかった。なお、試合前から4回頃まで降り続く小雨のため、グラウンドコンディションの悪い中での試合であった。（記録員 永井健二）

中京大学：4002000：6 ○仲佐秀則・田中真人

京都大学：0000000：0 ●藤本義樹・大野 晋

【三塁打】萩原 学（中）

中京大学は初回、京都大学の先発藤本投手の立ち上がりを攻め、敵失に四球を絡めて打者一巡の猛攻を加えて4点を先取した。4回にも決定的な2点を追加し、計6点を奪取した。一方の京都大学は、仲佐投手から6安打を放ったが、いずれも散發で無得点に抑えられ、結果的には大差のゲームとなった。（記録員 窪井洋司）

大阪経済法科大学：0000001：0 ●岩井祐一・舟山 元

高崎経済大学：411000X：6 ○佐土原剛・降矢亮太

【三塁打】安井 建

高崎経済大学は初回一死後、二番・三番の連続安打でチャンスを作り、さらに4本の連続安打を集中した4点を先取した。2回3回にも追加点をあげ、投げては土佐原投手が要所を締める丁寧なピッチングで勝利した。大阪経済法科大学は、11安打しながらチャンスに決定打が出ず、7回の1点に終わり敗退した。（記録員 堀 義光）

早稲田大学：1100000：2 ○中島幸紀・佐川和也

国士舘大学：0000100：1 ●照井賢吾・萩原塁樹

【三塁打】新井悠馬

早稲田大学は初回佐川の中前安打で先制し、2回にも新井の右中間三塁打で2点目を上げた。中島投手も国士舘大学打線に7安打されたが、要所要所を抑えて追撃を阻止した。

一方、国士舘大学は照井投手が3回以降本来の投球リズムを取り戻し、早稲田大学にその後の得点を許さなかった。国士舘大学は5回裏、4連打で1点をあげて追いすがったが、一歩及ばず惜敗した。（記録員 五郎丸孝憲）

広島経済大学：0010020：3 ●香川直巳・高垣裕太－滑 俊之

京都産業大学：302200X：7 ○林 文彦－江川健太

【本塁打】滑 俊之（広）、安井宏光（京）

【二塁打】杉山裕一・安井宏光・半田知義（京）

1回裏、京都産業大学は先頭打者安井の本塁打で1点先取後、バントヒット・死球・敵失の一死満塁にまたもバントヒットと犠飛で計3点を先取した。3回、4回にも長短打と敵失で各2点を加えた。広島経済大学は3回、敵失と内野安打で1点を返し、6回にも滑の2点本塁打で計3点を返したが及ばなかった。京都産業大学の林投手は、両コーナーへのスピードボールとチェンジアップで広島経済打線を巧妙に抑え込んで勝利投手となった。（記録員 関 長治）

龍谷大学：0000010：1 ●長池和也－門田空士

東海大学：0001003X：4 ○大黒貴将－塚越 徹

【本塁打】悴田一明（東） 【三塁打】高橋徳行（龍）、悴田一明・石橋直樹（東）

4回裏、東海大学の悴田がライト線を抜く打球を放ち、これが悪送球を誘って先制点となった。6回には同点に追いつかれるも、7回裏二死一・三塁からまたも悴田が今度はレフト線へ本塁打を放って劇的なサヨナラ勝ちを収めた。一方の龍谷大学は、チャンスにあと1本が出なくて涙を飲んだ。（記録員 岸 政市）

常葉学園大学：0100300：4 山田直人・●吉田丈洋・古谷修平－山崎 良

国際武道大学：200112X：6 富田裕二・○山崎拓登－石峯玄規

【本塁打】畠 久人（城） 【三塁打】中辻悠介（城）

【二塁打】鈴木翔也・梅田貴晶（常）

中盤まで両チーム相互に点を取り合い、4対4で迎えた6回裏に国際武道大学は九番知念の安打を足がかりに二番岸本の単打と三番中辻の三塁打で逆転し、勝利を収めて準々決勝に駒を進めた。一方、常葉学園大学は5回に一举3点をあげて一時は試合を優位に進めるかに見えたが、逆転されて惜しくも3回戦突破はならなかった。（記録員 友岡宗俊）

#### <準々決勝戦>

城西大学：010010：2 ●加藤潤一・植松洋介－土田良祐

日本体育大学：030020：5 ○山尾竜則－小野洋平・井上大輔

【本塁打】稲木香介（城）、杉山浩之・坂井貴之（日） 【三塁打】松崎史章（日）

日本体育大学が2本の効果的な本塁打で試合を決めた。1点を先取された2回裏、九番杉山の2点本塁打などで逆転し、城西大学稲木の本塁打で1点差に追い上げられた5回にも、四番坂井のこれまた2点本塁打で突き放した。7回表、城西大学は無死満塁の絶好のチャンスを迎えたが、ここで雨が急に激しくなり、6回雨天のため降雨コールドゲームで

日本体育大学が勝利した。(記録員 片寄邦良)

<準々決勝戦>

中 京 大 学 : 3 1 0 3 0 0 1 0 : 8 ●仲佐秀則－田中真人

高崎経済大学 : 1 1 2 0 1 0 3 1 X : 9 佐土原剛・○高橋元太－降矢亮太

【本塁打】田中紘一郎(中)、加藤孝政・佐土原剛・清水祐一(高)

【三塁打】清水雅仁・田中真人(中)

【二塁打】萩原 学(中)、清水祐一・高橋元太(高)

両チームがともに二桁安打でしかも長打が乱れ飛ぶ打撃戦は、8対8でタイブレーカーに入った。8回裏、中京大学仲佐投手の指が雨で滑って暴投となり、あっけない幕切れで勝利の女神は高崎経済大学にほほえんだ。(記録員 田村正信)

<準々決勝戦>

京都産業大学 : 0 0 0 0 0 0 : 0 ●林 文彦－江川健太

早 稲 田 大 学 : 2 0 2 1 X : 5 ○石橋光男－佐川和也

【三塁打】山内悠平(早)

先攻の京都産業大学は、早稲田大学石橋投手のコントロールされた投球にバットが合わず、1安打に抑えられ得点できなかった。後攻の早稲田大学は1回四球と2安打により2点を先取し、さらに3回に2四球の走者をおいて山内の三塁打で2点を追加、4回にも四球を足がかりに1点を加えた。その直後、降雨が激しくなり、試合は5回コールドゲームで早稲田大学の勝ちとなった。(記録員 大島将典)

<準々決勝戦>

国際武道大学 : 3 1 0 2 0 : 6 ●山崎拓登・与那覇卓也－石峯玄規

東 海 大 学 : 3 3 2 0 0 X : 8 ○大黒貴将－塚越 徹

【本塁打】石峯玄規・平良礼任・畠 久人(国)、比良俊晴・俣田一明・猪服 要(東)

【三塁打】佐藤陽介(国)

【二塁打】中辻悠介(国)、猪服 要・桑子明久・比良俊晴(東)

初回から両チームで本塁打6本を含む11本の長打が飛び交う超打撃戦を東海大学が制して勝利を得た。国際武道大学は、4回畠の本塁打で2点差まで迫り、反撃ムードが漂って時に雨が激しくなって、降雨コールドゲームでなってしまったのは悔やまれる。東海大学が前半の大量得点で辛くも逃げ切った試合であった。(記録員 岩田和公)

★第3日目(8月31日)

<準決勝戦>

日本体育大学 : 4 4 2 0 0 : 10 ○森 勇紀－井上大輔

高崎経済大学 : 0 0 0 0 0 : 0 ●高橋元太－降矢憲太

【本塁打】勝呂昌宏②(日) 【三塁打】杉山浩之(日)、加藤孝政(高)

1回の表、日本体育大学は四番勝呂の3点本塁打と四球・敵失・ワイルドピッチで4点を先取した。2回にも四球を足場に2本の安打と敵失で3点、さらに勝呂の2打席連続本

塁打で計4点を追加し、3回にも3本の長短打で2点を追加した。守っても森が高崎経済大学打線を2安打に抑えて完封し、5回コールド勝ちを収めた。一方、高崎経済大学は、初回一番加藤が右中間三塁打したが、このチャンスに後続が凡退して以後いいところなく完封負けを喫した。(記録員 関 長治)

<準決勝戦>

早稲田大学：3100004：8 ○石橋光男－佐川和也

東海大学：0000000：0 ●大黒貴将－塚越 徹

【本塁打】山内悠平(早) 【三塁打】根ヶ山典宏(早)

【二塁打】山内悠平・新井悠馬(早)

早稲田大学の積極的な各打者の攻撃と石橋投手の好投が目立った試合であった。先攻の早稲田大学は、初回到根ヶ山の三塁打と山内の二塁打などで3点を先取すると、続く2回にも1点を、最終回には山内のダメ押しとなる3点本塁打を含む4点を奪取し、計8得点をあげた。一方、東海大学も何とか追いつこうとしたが、要所で石橋投手に三振を喫し、ついに付け込むことができず早稲田大学の圧勝となった。(記録員 窪井洋司)

<決勝戦>

早稲田大学：0003000：3 ●中島幸紀－佐川和也

日本体育大学：201020X：5 ○山尾竜則－小野洋平

【本塁打】小野洋平・勝呂昌宏(日) 【二塁打】山内悠平(早)

早稲田大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
(一) 3 新井 悠馬	二ゴロ		捕内安		左前安		右 飛
(二) 6 構 真吾	三 振		三 振		死 球		遊ゴロ
(三) 2 佐川 和也	三 振			三 振	右 飛		右 飛
(四) 9 石橋 光雄		三 振		<u>四 球</u>	左 飛		
(五) 4 根ヶ山典宏		二ゴロ		<u>四 球</u>	遊ゴロ		
(六) 5 山内 悠平		三 振		<u>左中2B</u>		二ゴロ	
(七) ⑧日暮 真之			遊ゴロ	三 振			
H高原 辰徳						遊 飛	
(八) ①中島 幸紀			三 振	左前安		二 飛	
R山崎 亮				(残塁)			
(九) 7 萬野 修平			一内安	三 振			投内安

日本体育大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
(一) 6 津本 大貴	投ゴロ		遊内安	三 振			
(二) 7 松崎 史章	一 直	D	投バ安		三ゴロ		
(三) 4 坂井 貴之	<u>四 球</u>	P	遊 失		三 振		
(四) 2 小野 洋平	<u>左越本</u>		捕ゴロ		<u>四 球</u>		
(五) 3 勝呂 昌宏	三 振		二ゴロ		<u>右越本</u>		
(六) 5 野須 康宏		遊 直		遊ゴロ	中 飛		
(七) ①山尾 竜則		二ゴロ		<u>四 球</u>		投ゴロ	
R大山 智弘				(塁上死)			
(八) ⑧宮川 道隆		三 振		三ゴロ			
R平岩 元気						死 球	
(九) 9 杉山 浩之			<u>四 球</u>	二内安		(塁上死)	
						遊 直	

日本体育大学は1回に四球で坂井が出塁し、続く小野の本塁打で2点を先取し、3回には四球と連続安打後の一死満塁で敵失を誘って1点を追加した。一方、早稲田大学は、4回一死から、2四球後に山内の二塁打と中島の適時打で一挙3点をあげて同点とし緊迫した決勝戦になった。しかし、日本体育大学は、5回に勝呂が2点本塁打を放って早稲田大学を突き放し、勝利を決定的なものにした。5回以降、早稲田大学打線は山尾投手を今一歩打ち崩すことができず、最終回もあわや同点本塁打かという当たりを好捕され万事休すした。この結果、日本体育大学は4年連続26回目の優勝を成し遂げた。(記録員 大島将典)

## 雷 鳴 轟 き

日本体育大学 男子ソフトボール部 主将 坂井貴之

第38回インカレが山口県宇部市で開催され、幸運にも我が校が4連覇を成し遂げることができました。偏に、在校生、OBの諸先輩方、並びに父母会の後支えがあつての賜物と心より感謝している次第です。

想えば、昨秋、伝統ある日体大男子ソフトボール部主将を拝受してから、常に常勝校、本命校と回りの期待を意識し過ぎてきましたが、秋季リーグ戦、都総合、春季リーグ戦を連勝していくことで、負けないチーム作りに、ある程度の手応えを感じ取っていました。敵は、慢心と何時も言い聞かせ、それを克服するのは練習のみと、チームを引っ張っていました。

ところが、万全の体制で臨んだ、6月の総合選手権東京都予選会で宿敵に足元を掬われ一敗地に塗れてしまいました。これは大変なショックでした。チームの士気が極限まで低下したのが目に見えて認識できたのも丁度その頃でした。これらの出来事はインカレ制覇に向かつての試練と受け止め、暑い盛りに部員全員が無我夢中でバットを振り、必死の形相で走り込みを行い、インカレへと集中しました。この甲斐あつてか、チームは再び勢いを取り戻し、東日本を制し、自信を持って宇部へと乗り込むことが出来ました。

今年は夏らしい夏が来ず、我々を迎えた宇部の大会会場は海からの風が秋の装いさえ漂わせていました。そんな中で、1回戦が西日本を制した強豪・神戸学院大だったのが、幸いしました。先発メンバーのみならず、ベンチを含めチーム全体に緊張感一杯の雰囲気を作ることが出来たからです。激戦を制した後は比較的順調に駒を進めることができたのもこの一戦があつたからだとも今もそう思っています。準々決勝は、城西大でした。この試合は先手を取られたものの、直ぐ取り返すといったようなシーソーゲームでしたが、3点差を以って最終の守りに入ったところ、折からの雨がそれこそ滝のような勢いで降り注ぎ、40分間の中断を余儀なくされました。小雨となったところで再開の決定を待っていましたが、残念ながらグラウンド状態は田んぼ状態、一時中断された状況が無死満塁、我が校には絶体絶命で、相手方に執っては絶好のチャンスとあつて情の雨となってくれました。このときに今までどこかに行っていた勝利の女神が漸く手元に帰って来てくれたような「ツ

キ」を感じました。

明けて準決、決勝戦は透き通るような夏空！さあー、4年間の集大成をグラウンドで見せてやる、という気持ちで、グラウンドの砂をスパイクで勢いよく蹴り上げたところ、日本一への気概がフツフツと心の底から湧いてきました。決勝戦は接戦でしたが幸いなことに4年生が本領を発揮し栄冠を手にすることができました。日体大男子ソフトボール部はこれからも代々引き継がれた伝統と日体魂を発揮しインカレで勇躍してくれることでしょう。

後年、自身の人生において今までを振り返る時間が持てたなら、きっと、信頼しあった仲間達と一つの白球を何処までも追いつけた、あの雷鳴轟く、宇部市野球場の光景を思い起こすことでしょう。

男子大会打撃ベスト10（規定打席数12以上）

左打	位 置	選 手 名	大 学 名	打 席	打 数	安 打	得 点	打 点	犠 打	四 球	死 球	三 振	盗 塁	残 塁	本 塁 打	打撃率	試 合
○	4	坂井 貴之	日本体育	16	14	7	7	7	・	2	・	2	1	3	2	5 0 0	5
	6	三島 大輔	高崎経済	13	12	6	5	6	・	・	1	・	・	2	2	8 0 0	4
	9	田辺 郁生	東 海	12	6	3	1	3	3	2	1	1	・	5	・	5 0 0	4
○	3	新井 悠馬	早 稲 田	18	13	6	5	1	・	5	・	2	2	4	・	4 6 2	5
○	9	杉山 浩之	日本体育	15	13	6	5	7	1	1	・	2	・	4	1	4 6 2	5
	3	勝呂 昌宏	日本体育	14	13	6	6	6	・	1	・	1	1	1	3	4 6 2	5
	5	加藤 孝政	高崎経済	14	13	6	4	1	・	1	・	1	1	2	1	4 6 2	4
○	8	伊藤 宏文	東 海	14	13	6	5	・	・	1	・	1	・	2	・	4 6 2	4
	7	悴田 一明	東 海	13	13	6	6	5	・	・	・	4	1	・	2	4 6 2	4
○	1	高橋 元太	高崎経済	13	13	6	2	3	・	・	・	2	・	1	・	4 6 2	4

男子大会投手成績ベスト5（規定投球イニング12以上）

左 投	選 手 名	大 学 名	回	打 者 数	打 数	被 安 打	失 点	自 責 点	被 犠 打	与 四 死	奪 三 振	被 本 打	投 球 数	防 御 率	勝 試 合	負 試 合
	石橋 光雄	早 稲 田	19	70	66	9	・	・	・	4	32	・	272	0.00	3	0
	長池 和也	龍 谷	13.2/3	60	43	8	6	・	5	12	10	1	231	0.00	1	1
○	照井 賢吾	国 士 館	12	50	47	11	2	2	・	3	18	・	191	1.71	1	1
	山尾 竜則	日本体育	20	76	67	9	5	5	1	8	24	1	339	1.75	3	0
	仲佐 秀則	中 京	21.2/3	87	82	19	9	8	2	3	11	4	341	2.58	2	1



## 文部科学大臣杯第38回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成15年8月29日(金)～8月31日(日)

会場：山口県宇部市岬沖体育広場

### 大会概要

前年準決勝まで進んだ園田学園女子大学など、前年と比べて7チームが入れ替わっているが、戦前の展望としては、24チームの最右翼は6連覇を目指す東京女子体育大学、続いて、昨年大活躍の東海学園大学、今年は一層力をつけたという評価も高い中京大学、龍谷大学、リベンジに燃える大阪国際大学、淑徳大学、伝統の日本体育大学などが、凌ぎを削るだろうと予想されている。

8月26日、16時、宇部市野球場の開会式で大会の幕は切って落とされた。入場行進が終わった頃から雨。一時は激しく降ったもののまずは終了したが、なにやら波瀾を感じさせる幕開けとなった。そして、2日目には各球場とも第4試合は激しい降雨でサスペンデットゲームを適用。波瀾は雨だけでは収まらなかった。熱戦の結果、決勝戦に勝ち残ったのは東京女子体育大学と淑徳大学。

東京女子体育大学は第1戦で中京大学に雨中で激しく追い上げられ1点差まで迫られたが、辛うじて振り切って3回戦に進出。日本女子体育大学とは中村祐子投手が4安打散発に抑え完封勝。準決勝では大阪国際大学に押され気味ながら、少ないチャンスをものにして1-0で決勝に進出。

一方の、淑徳大学は1・2回戦は24点、12点と大会では数少ない大差をつけた打棒で波瀾を予想させる勝ち上がりを示し、3回戦の東京学芸大学には逆転勝ちと勢いの差をまざまざと見せ付け、準決勝では日本体育大学と1点を争う投手戦を展開し、1-0で下して決勝に進出。

両チームは昨年京都での第37回大会において準々決勝で延長10回を死闘の末、6-5で東京女子体育大学が勝った因縁の対決。さて、決勝戦は両チームとも毎回のように入場者を出しながら1点を巡る激しい攻防が続き、0-0で迎えた7回裏、淑徳大学は先頭打者が四球、一死二塁から一・二塁となったところで代打に武田絵美を起用、見事に功を奏し中前へゴロの安打。守る二塁手も果敢に跳びつくが僅かにグラブを掠め、それが打球の方向を変え、二塁走者は一気に本塁を陥れ、1-0でまさに狂喜乱舞のサヨナラ勝ちとなり、昨年の雪辱を果たすだけでなく、東京女子体育大学の6連覇の夢も打ち砕き、打撃戦、投手戦、両方の力で5戦を制圧し、初優勝に輝き、栄えある文部科学大臣杯と優勝旗を手中に収めた。

他の試合では、2回戦で敗れはしたが明るく浚刺とプレーした中京大学、去年は1回戦で敗退した東京学芸大学や福岡大学が3回戦まで進出したこと、大阪国際大学も一步上に進んだ。今回は早々と姿を消したが東海学園大学などが印象に残った。それぞれに捲土重来、来年の健闘を期待したい。(記録長 小山光弘)

### 印象に残った選手

投手では、秋元理紗(淑徳大学)・中村祐子(東京女子体育大学)・五島麻美(日本体

育大学)の3投手が防御率0.29から0.01差で並び、それぞれに見事なピッチングであった。打者では、大阪国際大学の梶山今日子・淑徳大学の関口直美両選手の高打率が目を引いた。

## 大会総評

優勝は淑徳大学。歴代の優勝校を連破しての初優勝おめでとう。

女子の部においては、準決、決勝戦で1点を競う息詰まる投手戦が展開され、手に汗握る攻防はソフトボールの醍醐味を満喫するに相応しいものであった。

一回戦の対戦では、実力校が順当に勝ち上がる結果となったが、その中で日本体育大学対神戸親和女子大学の対戦は、五島・中川両投手の投手戦でタイブレーカーに突入し、日本体育大学は8回に1点を先取り勝利を収めた。敗れた神戸親和女子大学も実力校で上位を窺へるチームだっただけに一回戦での対戦が惜しまれた。

二回戦の対戦では、大会6連覇を狙う東京女子体育大学対中京大学の対戦が試合終了のコールを聞くまで、観衆の目を釘付けにする試合であった。東京女子体育大学は、中京大学東投手の立ち上がり攻め2点を先取、5回にも加点し4-0とリードを広げて勝負あったかに見えた。しかし、最終回を迎えた中京大学の反撃が凄まじかった。この回、相手投手に5安打を集中し3点を奪取、なおも二死満塁のチャンスに一回戦でタイムリーを放っている小島が右翼へ鋭い打球を打ち、同点、逆転かと思われた瞬間、一塁塁審の右腕が高々と上がり、試合終了となった。また、ベスト4に進出した大阪国際大学は桜花学園大学と対戦し、苦しい試合展開であったが、終盤2点差を逆転し準々決勝へ駒を進めた。

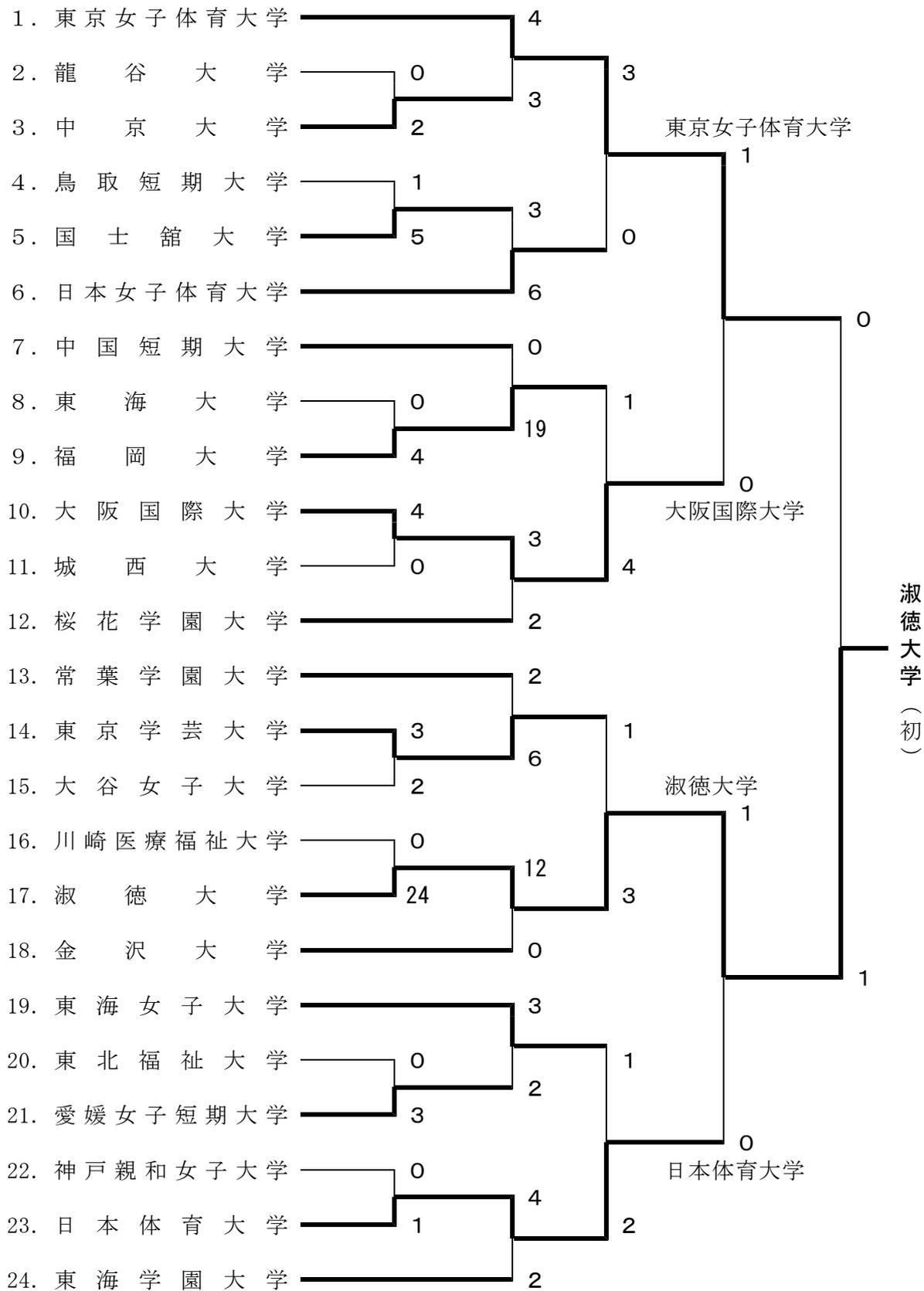
準々決勝では、3試合が降雨によるサスペンデッド・ゲームとなり翌日に跨っての試合となった。日本体育大学対東海女子大学の対戦は、1-1のままタイブレーカーに入ったが着実に走者を進めた日本体育大学が勝利を収めた。東京女子体育大学、大阪国際大学、淑徳大学の3校はそれぞれに地力を発揮し、準決勝へ進出した。

準決・決勝戦は、いずれも緊迫した投手戦となり、終盤に勝負が決した。

準決勝戦は、東京女子体育大学対大阪国際大学、淑徳大学対日本体育大学の対戦となった。一試合目の東京女子体育大学対大阪国際大学の一戦は、大阪国際大学が毎回走者を出すなど若干優勢な戦であったが、0-0で迎えた終盤の5回、東京女子体育大学は安打で出た大内を二塁に置き、酒井が中堅横を抜ける二塁打を打ち大内を迎え入れた。この得点が決勝点となり、決勝戦への進出を決めた。そして二試合目は、淑徳大学対日本体育大学の対戦で、日本体育大学先攻で試合開始となったが、一試合目同様に4回まで0-0の投手戦であったが、5回の裏、淑徳大学は塩谷が右中間へ三塁打を放つと、続く関口が中前打を打ち塩谷を迎え入れた。秋元投手は、日本体育大学の攻撃を0点に抑え、初の決勝戦へ進出した。

決勝戦は、ともに準決勝戦で相手を零封し勝ち上がった、淑徳大学対東京女子体育大学の対戦となった。序盤、中盤と淑徳大学秋元、東京女子体育大学中村両投手の決定打を許さない投げ合いで最終回を迎えた。裏攻めの淑徳大学は、四球の走者を二塁に進め、次打者敬遠で迎えた一死一・二塁のチャンスに、代打武田は二塁キャンパス寄りに鋭いライナーを放った。二塁手はこの打球に飛びつきボールをグラブに収めたかに見えたが、球勢鋭くグラブを弾き出て後方を転々・・・、その間に、二塁走者がホームを駆け抜け、淑徳大学の悲願の初優勝となった。(中国地区常任理事 逢坂秀樹)

大会結果



## 試合結果

★第1日目（8月29日）

中京大学：0001001：2 ○東 瑠璃－長窪麻乃

龍谷大学：0000000：0 ●杉村宏美・宮原紗耶香－福本まどか

【長打】なし

両チームとも序盤は走者を出しながら拮抗して迎えた4回、中京大学は下位の長窪・宮崎の連続安打で走者を迎え入れ、貴重な先取点をあげた。さらに7回には二死から四番鈴木が右中間に安打、すかさず盗塁を決め、五番小島の右前打で返してダメ押しともいうべき追加点をあげて逃げ切った。一方の龍谷大学は1・3・6回の好機を生かせず、散発3安打で完封された。（記録員 徳方俊江）

国士舘大学：1000301：5 ○平野陽子・近江清香－茂戸藤泉

鳥取短期大学：0000100：1 ●小川 翼・勝手宏美・小川 翼－三浦 愛

【二塁打】朝生ゆかり、宮嶋あゆみ（国）

国士舘大学は、1回一死二塁から三番朝生の二塁打で先取点をあげ、5回にも足をからめた攻撃と相手の失策などで3点を追加し、試合を決めた。鳥取短期大学は、国士舘大学の平野・近江両投手に抑え込まれ、5回に3本の安打で1点を返すのが精一杯であった。（記録員 友寄邦良）

福岡大学：0001030：4 ○金谷さほり－岩芙美子

東海大学：0000000：0 ●安藤佳奈・窪田由紀子－幸えりか

【三塁打】竹川裕香（福） 【二塁打】竹川裕香・岩芙美子（福）

福岡大学は4回五番佐藤の安打と六番竹川の左中間三塁打で1点を先取した。6回にも四番岩の二塁打と五番佐藤の安打でチャンスを広げ、六番竹川の左中間2本目の長打と敵失で3点を追加した。一方、東海大学は福岡大学の金谷投手に安打2、死球1と抑えられて得点圏に走者を進められず、完封負けを喫した。（記録員 米沢清二）

大阪国際大学：0110101：4 ○松村 歩－中平裕子

城西大学：0000000：0 ●岩瀬 碧・松永梨沙－鴨下奈苗・小堀 綾

【三塁打】藤田 恵（大） 【二塁打】柴田香奈（大）

大阪国際大学は2回、上田が左前安打で出塁し、梶山の中前安打で1点を先取した。その後も3・5・7回にそれぞれ1点ずつを加え、松村投手がそれをしっかりと守りきった。一方、城西大学は2安打と打てず、三塁を一度しか踏めず、完璧に抑えられ、点差は僅少なながら、大阪国際大学の12安打で一方向的な試合であった。（記録員 松岡 茂）

東京学芸大学：0000021：3 ○池谷絢子－矢部寿佳

大谷女子大学：0020000：2 ●福井 円－中村祥子

【二塁打】蛭田ゆかり（東）

前半、大谷女子大学の福井投手が毎回8奪三振と好投を見せ、5回まで一方的な展開かと思われたが、6回東京学芸大学はやや疲れの見てきた福井に、バント内野安打と二番蛭田の二塁打、五番渡邊の連打で同点に追いつくと、続く最終回にも同点打の渡邊の内野安打で逆転に成功した。大谷女子大学は、前半のリードを守りきれず、ピッチャーの福井に報いることができなかった。（記録員 永井健二）

淑徳大学：07575：24 ○秋本理紗・後藤真理子－関口直美

川崎医療福祉大学：00000：0 ●宮崎佑希・坂本育美－杉山 綾

【三塁打】坂上久美・松村美穂（淑） 【二塁打】石川好光・金子珠枝（淑）

2回表、淑徳大学は石川の四球出塁が大量得点の足がかりとなり、2つの敵失と4本の安打で序盤に試合を決めた。先発の宮崎は大量点を奪われると自分を失って制球も乱れ、坂本に代わったがさらに淑徳打線に火を付けてしまった。淑徳大学の先発秋元は1安打9奪三振と相手につけているスキを与えなかったのが第一の勝因ではあるが、随意所に見せた攻守好走と四番石川の手が付けられない活躍も勝利に大いに貢献した。（記録員 菅 行雄）

愛媛女子短期大学：0002100：3 ○髭香奈恵－宮地沙耶

東北福祉大学：0000000：0 ●藤原麻起子－藤崎由起子

【本塁打】佐々木涼絵 【三塁打】木下優美

愛媛女子短大がわずかなチャンスをものにして得点し、粘る東北福祉大学を突き放し辛勝した。愛媛女子短大は4回敵失で出塁した走者を小原が送りバントで二塁へ進め、木下の三塁打で還し1点、さらに敵失で1点を加点、5回には佐々木の右越えランニング本塁打で貴重な1点を追加した。守っては髭が7安打を打たれながらも要所を抑え完封した。東北福祉大学にとっては5回二死一塁から安保の右前安打で反撃のチャンスをつかみかけたが、両走者の果敢な走塁が災いして得点に至らなかった。（記録員 増野 実）

日本体育大学：00000001：1 ○五島麻美－小森由香

神戸親和女子大学：00000000：0 ●中川千明－前田真美

【長打】なし

どちらが勝ってもおかしくない好ゲームであったが、勝利の女神はわずかの差で日本体育大学にほほえんだ。序盤やや押し気味だった日本体育大学に対し、神戸親和女子大学も粘り強く対抗した。7回終了時、ともに2安打ながら両投手の好投と堅い守りでタイブレーカーに突入した。日本体育大学は一死三塁で代打田中の緩い遊ゴロは野選を誘い決勝点。神戸親和女子大学もその裏同じ状況を作り出すも代打高井の当たりは不運にも三直に終わ

り、得点に結びつかなかった。きっちり守備を鍛えられた両チームに惜しみない拍手を送りたい試合であった。（記録員 石川治久）

★女子第2日目（8月30日）

東京女子体育大学：2000200：4 ○中村・水上・中村・神谷一中辻和嘉子

中京大学：0000003：3 ●東 瑠璃一長窪麻乃

【三塁打】藤川紗矢香 【二塁打】酒井かおり（東）・古波美奈（東）

東京女子体育大学は、初回先頭打者酒井の二塁打を足場に二つの敵失と一つの四球を利用して五番宮下の安打で幸先よく2点を先取した。5回にも稲垣の安打、古波の二塁打、藤川の三塁打が連続して2点を追加した。一方の中京大学は序盤再三の好機を生かせず、完封直前の7回、雨中を利用して5安打を集中し、1点差まで追い上げ、なお二死満塁の好機に痛烈な打球が右前に落ちたが、これを一塁で封殺され、惜しくも涙を飲んだ。健闘を讃えたい。（記録員 菅 行雄）

日本女子体育大学：0102120：6 中村かおり・○斎藤 芳一粕谷香織

国士舘大学：1010100：3 ●平野陽子・近江清香一茂戸藤泉

【三塁打】滝真由美（日）、朝生ゆかり（国）

【二塁打】斎藤 芳②・成田真澄（日）、朝生ゆかり・宮嶋あゆみ②（国）

3回まで点の取り合いとなった試合は、日本女子体育大学が打ち勝った。4回、日本女子体育大学は内海が左前安打で出塁し、前打席で三塁打の滝が送り、次打者の斎藤が二塁打を放って同点とした。七番有田も二塁打で一挙に逆転に成功した。その後も5回6回に追加点をあげ、二番手斎藤がよく投げ抜いた。一方、国士舘大学は1回朝生が安打で出塁し、1点を先取したものの、その後の好機も最少得点に抑えられて敗退した。（記録員 松岡 茂）

中国短期大学：00000：0 ●田淵由美江・伊藤明日香一小野友里

福岡大学：12403X：19 ○中村有佐一岩英美子・牧野志麻子

【三塁打】小浦麻美（福）

福岡大学のワンサイドゲームであった。福岡大学は1回裏、安打9本を集中、打者15人を送る猛攻で12点をあげた。その後も攻撃の手を緩めず、2回裏に4点、4回裏にも3点を加点し、大会規定により、5回コールドゲームとなった。一方、中国短期大学は福岡大学の中村投手に完全に抑え込まれ、一人の走者も出塁できなかった（中村投手の記録は参考記録）。（記録員 出羽忠三郎）

桜花学園大学：0020000：2 ●石川 茜－岩室 愛

大阪国際大学：000003X：3 ○松村 歩－中平裕子

【二塁打】上田 玲（大）

立ち上がりから両チームとも毎回走者は出るものの得点に結びつかない展開になった。2点の先行を許した大阪国際大学は6回裏二死無走者から四番上田の二塁打を足場に単打を4本連ねて3点をあげ、鮮やかな逆転勝利をおさめて準々決勝へ駒を進めた。対する桜花学園大学は、3回表2本の安打と重盗に相手内野陣の乱れに乗り先制点をあげ、石川投手の頭脳的なピッチングにより選手権初勝利かに見えたが、大阪国際大学打線の粘りの前に涙を飲んだ惜しい試合であった。（記録員 石川治久）

常葉学園大学：0000002：2 ●福田美樹子・石川加奈子－小澤安美

東京学芸大学：022200X：6 ○池谷・管原・池谷－矢部・渡邊・矢部

【三塁打】蛭田ゆかり

2回、東京学芸大学は石原・池谷が安打で出塁、これが相手守備の乱れを誘って先取点をあげた。3回4回にも蛭田の三塁打などで各2点の追加点をあげるなど、好調な打線に支えられて快勝した。再三の好機をつぶしてきた常葉学園大学は、6回にも一死満塁と得点のチャンスを得たが、後続が連続三振で追い上げることができなかった。結局、7回に相手投手の乱れに乗じて2点を返すにとどまり、東京学芸大学が勝利した。（記録員 徳方俊江）

金沢大学：00000：0 ●寺崎 愛－稲生玲子

淑徳大学：3027X：12 ○後藤真理子・岡本知恵－関口直美

【三塁打】松村美穂（淑） 【二塁打】石川好光・屋須由香利（淑）

淑徳大学は初回からバント攻撃を交えての4連打で3点をあげ、4回には長短合わせて4安打を集中して7点をもぎ取り、コールド勝ちを収めた。一方の金沢大学は、淑徳大学後藤投手に4回までに7個の三振を喫したり、一人の出塁もできずに力の差で敗れた。（記録員 西元百人）

東海女子大学：2001000：3 ○竹澤苑美－中川 恵

愛媛女子短期大学：0000002：2 ●髭・石原・福田・川中－宮地・外山・チアアリア

【三塁打】山田江利子（東）、川原 愛（愛） 【二塁打】竹澤苑美（東）

東海女子大学は立ち上がり三連打で2点を先取し、4回にも三塁打の山田を代打名倉の中堅犠飛で還して1点を追加した。しかし、その後は愛媛女子短大の継投策にかわされた。一方、愛媛女子短大は反撃の糸口さえ見出せなかったが、最終回、走者を一塁に置いて川原の三塁打でまず1点、代打山口の左前安打で川原も生還しあと1点と迫ったが、反撃もここまでであと一歩及ばず惜敗した。（記録員 菅 行雄）

東海学園大学：0001001：2 ●田中粧子・佐貫智子ー祝田宏美・岩崎麻衣

日本体育大学：012010X：4 ○後藤麻美・岡田伊代ー小森由香

【二塁打】小嶋愛子・宮崎久美子（東）

日本体育大学は2回に四球の青野を西村が犠打し、加藤のタイムリーヒットで先行した。さらに、3回には4単打で効率よく2得点、5回にも白井の単打で1点を追加した。一方、東海学園大学は二塁打が2本出たものの、3安打と打てず、2得点に止まった。日本体育大学の単打がうまく繋がってコツコツと得点し、効率の良い試合で勝利し、準々決勝へ進出した。（記録員 松岡 茂）

< 準々決勝戦 >

東京女子体育大学：1002000：3 ○中村祐子ー中辻和嘉子

日本女子体育大学：0000000：0 ●斎藤 芳・中村かおりー粕谷香織

【二塁打】酒井かおり②・藤川妙矢香・中辻和嘉子（東）

1回表、東京女子体育大学は、先頭打者酒井が初球、右中間を破る二塁打で出塁、二番打者の打球を捕手が処理後二塁悪送球で一挙生還し先制した。その後、試合は膠着状態になったが、迎えた4回、東京女子体育大学は二死満塁の好機に四番DP藤川が右翼越えに二塁打を放ち2者生還、試合を有利に進めた。この試合、東京女子体育大学の一番打者酒井は2本の二塁打を含む3安打とシャープな打撃が目についた。また、日本女子体育大学は、塁上を賑わしたが、東京女子体育大学の中村投手の前に決定打が奪えず、敗退した。（記録員 大草隆浩）

< 準々決勝戦 >

大阪国際大学：0000121：4 ○松村 歩ー中平裕子

福岡大学：1000000：1 ●金谷さおりー岩英美子

【二塁打】上田 玲・藤田 恵（大）、岩英美子（福）

1点をリードされた大阪国際大学は、5回一死から七番松岡がセンター前ヒットで出塁し、バントと内野安打で二死一・三塁のチャンスを作り、ここで一番宮野のライト前ヒットで同点に追いついた。（試合は6回表の大阪国際大学の攻撃中に雨が強くなり、降雨サスペンデットゲームとなって、続きは翌日に持ち込まれた。）大阪国際大学は、6回に一死満塁から七番松岡のレフト前ヒットで2点を勝ち越し、さらに7回にはダメを押した。一方、福岡大学は初回に一番今泉が初球を叩いてレフト前ヒットで出塁し、暴投とバントの一死三塁に、三番金谷の犠飛で1点を先制したが、2回以降は立ち直った松村投手に抑えられて得点できなかった。松村投手は福岡大学打線から10個の三振を奪う好投だった。（記録員 升井英治）

< 準々決勝戦 >

東京学芸大学：0000100：1 ●池谷絢子－矢部寿佳

淑徳大学：000012X：3 ○秋元理紗－関口直美

【三塁打】関口直美（淑） 【二塁打】秋元理紗（淑）

双方とも好ゲームを展開していたが、5回表二死一塁、東京学芸大学の攻撃中に激しい降雨となり、翌日にサスペンデットとなった。再開直後、一番矢部は内野安打で出塁し、続く森川の中前適時打で東京学芸大学が先行した。しかし、その裏に淑徳大学は一死二塁から内野ゴロの処理の間に代走曾宮の好走塁で同点に追いついた。さらに、6回裏には関口の三塁打と守備の乱れに乗じて2点を勝ち越し、淑徳大学が準決勝へ進出した。（記録員 米沢清二）

< 準々決勝戦 >

東海女子大学：01000000：1 ●竹澤苑美－中川 恵

日本体育大学：01000001X：2 ○五島麻美－小森由香

【二塁打】小森由香（日）

単打と失策で1点をリードされた日本体育大学は、直後の2回裏、小森の二塁打を足がかりに青野の犠飛ですかさず同点とした。その後は竹澤・五島両投手が互いに譲らずタイブレーカーに突入した。先攻の東海女子大学が送りバントを失敗して走者を送れなかったのに対し、日本体育大学は敬遠策と野選で満塁にすると、一番鈴木が鮮やかなセンターオーバーのヒットを放って熱戦にピリオドを打った。※この試合は5回表先頭打者打撃完了時点で雨脚が強くなり、サスペンデットとなった。（記録員 本田道夫）

★女子第3日目（8月31日）

< 準決勝戦 >

大阪国際大学：00000000：0 ●村松 歩－中平裕子

東京女子体育大学：000010X：0 ○中村祐子－中辻和嘉子

【二塁打】酒井かおり（東）

東京女子体育大学は村松投手に3回まで完全に抑えられていたが、4回二死満塁の好機は逃したものの、5回先頭の七番大内がしぶとく左前に落とし、犠打で二進した後、一番酒井の中越え二塁打でようやく先制した。守っては中村投手が被安打6・四球1と苦しみながらもバックの攻守に助けられ、1点を守りきって決勝へ進出した。一方、大阪国際大学は、毎回走者を出し、特に6回、二番中務がこの日二本目の安打で出塁したが捕手の牽制でアウトになり、続く三番藤田の左前安打も生かされず、絶好の好機を逃したのが悔やまれる。（記録員 米沢清二）

< 準決勝戦 >

日本体育大学：00000000：0 五島麻美・●岡田伊代－小森由香

淑徳大学：000010X：1 ○秋元理紗－関口直美

【三塁打】塩谷知子（淑）

淑徳大学は前半再三得点圏に走者を進めるもののタイムリーが出なかったが、5回裏一死から塩谷の三塁打と続く関口の適時打でようやく待望の1点を先取した。一方、日本体育大学は、秋元投手の内角を突く直球と外角の変化球に抑えられ、連打が奪えなかった。特に、最終回に無死一塁で走者が牽制死したのが惜まれる。この結果、淑徳大学は秋元投手の踏ん張りで初の決勝戦進出は果たした。(記録員 岩田和公)

<決勝戦>

東京女子体育大学：0000000：0 ●中村祐子－中辻和嘉子

淑徳大学：0000001X：1 ○秋元理紗－関口直美

【二塁打】藤川妙矢香②(東)、坂上久美(淑)

東京女子体育大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
(一) 6 坂井かおり	死球		二遊安		死球		四球
(二) 3 稲垣 彩子	遊ゴロ		三ゴロ		遊ゴロ		二飛
(三) 8 古渡 美奈	二ゴロ			遊ゴロ		三ゴロ	
(四) 7 藤川紗矢香	投ゴロ			右中2B		右中2B	
(五) 4 宮下 絵美		左飛		二ゴロ		四球 DP { 投直	
(六) ②中辻和嘉子 H滑川恵美子		三振		遊ゴロ			
(七) DP大内 歩美		三振			三ゴロ		三ゴロ
(八) ⑤竹野 友貴 R加藤 彩乃			三ゴロ		左中安 (残塁)		遊二安
(九) 9 道音 貴子			三振		三犠バ		三犠バ

DEF01 中村 祐子

淑徳大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
(一) DP塩谷 知子 R曾宮明日香	一ゴロ		中失 (残塁)			左飛	
(二) 2 関口 直美	左飛		中飛			中前安	
(三) ④高橋 典子 H村松 美穂	投バ安					二ゴロ	
(四) 6 石川 好光	二ゴロ			一直		三邪飛	
(五) ⑨嶋谷かおり H斎藤 雅美		投ゴロ		三ゴロ			RE R 四球
(六) 1 秋元 理紗		中飛		三ゴロ			一犠バ
(七) 8 坂上 久美		右中2B			二ゴロ		四球
(八) 5 屋須由香利 H武田 絵美		三振			三振		中前安
(九) 7 金子 珠枝			三ゴロ		投ゴロ		

DEF03 柳沼ひかる

決勝戦は、東京女子体育大学の6連覇なるか、それとも淑徳大学がこれを阻止して悲願

の初優勝なるか、注目の一戦は淑徳大学が大学日本一の座に輝いた。試合は東京女子体育大学の中村、淑徳大学の秋元両投手の力投の前に両チームとも走者を出すものの得点をあげることができず、6回まで緊迫した0行進が続いた。7回裏、淑徳大学は代打斎藤が四球で出塁すると確実に走者を進めた。これに対して、東京女子体育大学も次打者を敬遠気味に塁を埋める作戦に出た。しかし、ここで代打武田が二塁左に痛烈なライナーをはじき返すと、打球は横っ飛びした二塁手のグラブをはじいて左中間に転がり、二塁走者はこの間に生還、劇的なサヨナラ勝ちで淑徳大学が初の栄冠を手中にした。(記録員 大草隆浩)

## 『負け』から学ぶもの

淑徳大学ソフトボール部主将  
関口直美

第38回全日本大学ソフトボール選手権大会において、我が淑徳大学ソフトボール部が、初優勝という栄冠に輝いたことをとても嬉しく思います。これは、代々たくさんの先輩方が、この大学のソフトボール部を少しずつ築き上げて下さった努力の成果だと私たち選手は感じています。

昨年のインカレでは、準々決勝で延長11回タイブレーカーの末、敗れました。その1ヶ月後に全日本総合ソフトボール選手権大会に出場し、初戦で1部のチームに敗れ、4年生が引退しました。来年のインカレこそは勝ってみせる！そして総合選手権大会で1部のチームに勝てるチームになるんだ！と強い決意を持ち私がキャプテンとして新チームが始まりました。しかしその思いとは裏腹に、昨年優勝している秋の3大会を、私たちは全て負け続けてしまいました。今まで負けたことのない大会でも負けを喫し、新チームが始まった頃の希望はどこにもなく、ただひたすら練習に明け暮れる毎日が続きました。「これだけ負け続けている状態をなんとか打破していかななくては」と、その思いの一心で、シーズンオフの冬場も私たち4年生を中心に負けないチームに変えるために、何かを変えようと必死に取り組んできました。とにかくもう負けたくない、ただそれだけでチームが動いていたと、今振り返るとそう思います。

このような冬を越え、春の関東大会を迎えましたが、結果は変わらず決勝戦で負け準優勝。過去10年間負けたことのないこの大会ですら、私たちは勝つことが出来なかったのです。10連覇を築き上げた先輩方に申し訳ない、自分たちが情けなくて仕方がない、そしてまた負けたと絶望しか残らないような状況でしたが、今まで自分たちがやってきたことを信じ、自分たちが目指している夏の大会に向け、落ち込んでいる時間はないと再び練習に励んできました。

だからこそ、このインカレでも勝とうという気持ちだけでなく、この1年間自分たちがやってきたことと、応援してくれている方々への感謝の気持ちを持って、自分たちらしいソフトボールをしようと思い、一戦一戦必死に戦いました。

優勝が決まった瞬間は、何が何だかわからない不思議な気持ちでした。ただ分かっていたこ

とは、“負けなかった”ということです。目標を高く掲げ、その達成のために頑張ってきましたが、なかなか結果の伴わない1年間を乗り越え、最後に「優勝できた」と「負けなかった」ことがとにかく嬉しくてたまらなかったです。人数も例年に比べて最も少ない20名で、大会登録人数の25名にも満たないチームですが、私がそれを心細いと感じたことがないのは、この1年間この20名で色々なことを得てきたからこそ、この20名には絶対的な自信があったからだと思います。そして、私たちはこんなチームを1年間何があっても見て下さった監督に本当に感謝しています。

負けるなら自分たちが納得のいく負け方で、を合言葉にして戦ったこのインカレを終えて私が思うことは、この1年間負け続けて嫌というほど負け方を知り尽くしたために、その1年の最後は負けずに最高の栄冠を得ることが出来たのだ、ということです。最高の栄冠に輝けたことをとても嬉しく感じ、支えて下さった方々に本当に感謝します。ありがとうございました。

女子大会打撃ベスト10（規定打席数9以上）

左打	位	選手名	大学名	打席数	打点	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合	
○	4	今泉 早智	福 岡	11	11	7	4	2	・	・	・	・	2	・	636	3	
○	3	梶山今日子	大阪国際	13	10	6	・	2	1	2	・	1	・	4	・	600	4
○	4	高橋 典子	淑 徳	14	11	6	5	2	1	1	1	・	3	4	・	545	5
	2	関口 直美	淑 徳	17	13	7	6	3	3	1	・	1	1	1	・	538	5
	6	酒井かおり	東女体	15	12	6	3	1	・	2	1	・	・	5	・	500	4
	6	上田 玲	大阪国際	14	12	6	3	2	1	1	・	・	2	3	・	500	4
	8	藤田 恵	大阪国際	14	12	6	4	・	1	1	・	・	・	2	・	500	4
	2	岩 芙美子	福 岡	11	10	5	4	・	・	1	・	1	・	2	・	500	3
	6	稲葉枝里子	東京学芸	10	9	4	1	1	・	1	・	1	・	4	・	444	3
	6	石川 好光	淑 徳	17	14	6	5	5	1	1	1	・	2	4	・	429	5

女子大会投手成績（規定投球イニング16以上）

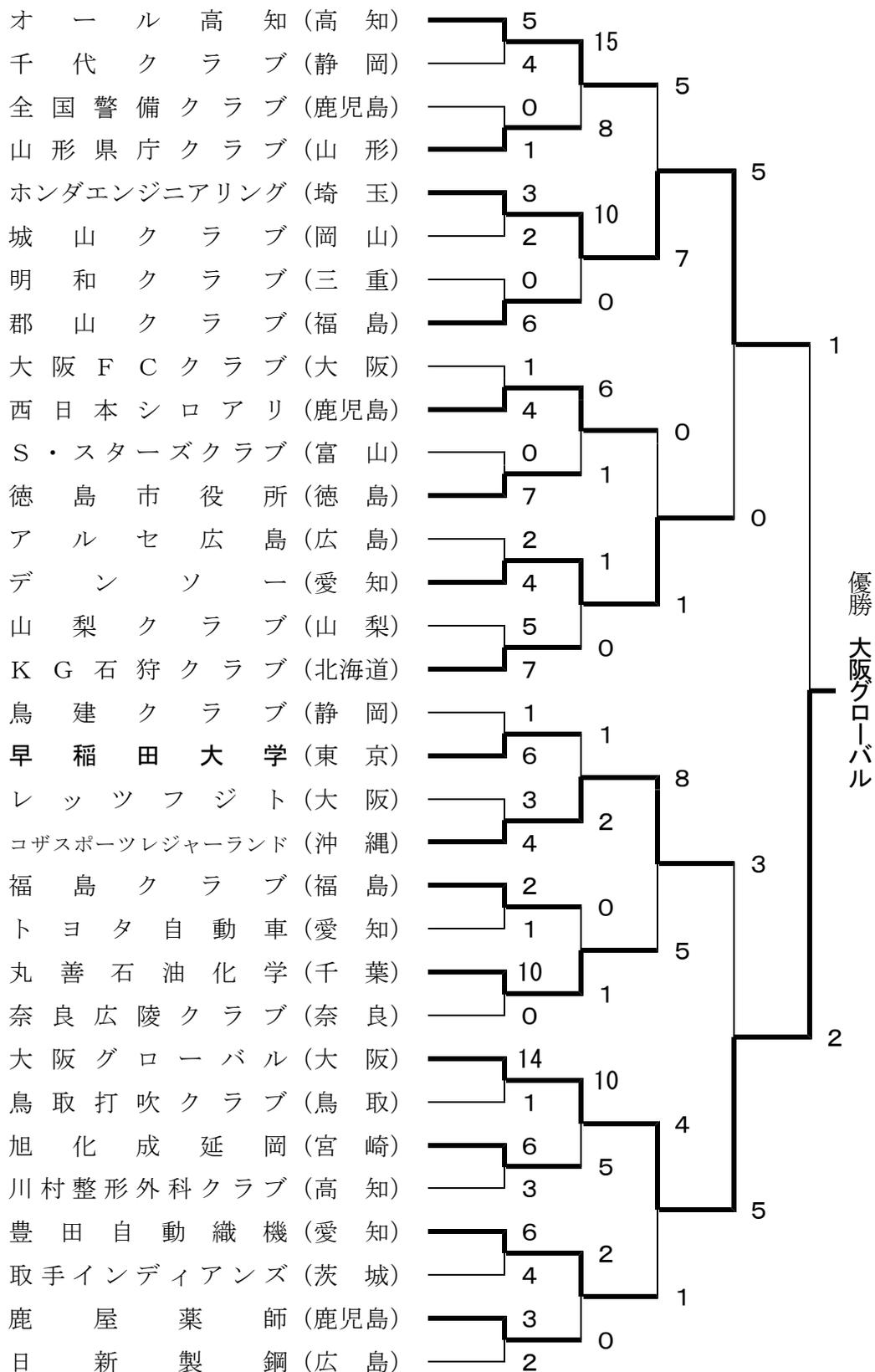
左投	選手名	大学名	回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四死	奪三振	被本打	投球数	防御率	勝試合	負試合
	五島 麻美	日本体育	25	87	78	8	2	1	6	3	12	・	337	0.28	3	0
	秋元 理紗	淑 徳	24	89	82	14	1	1	2	5	18	・	328	0.29	4	0
	中村 祐子	東女体	23.2/3	93	87	18	1	1	2	4	9	・	311	0.30	2	1
	松村 歩	大阪国際	27	98	84	12	4	2	8	6	25	・	352	0.52	3	1
	池谷 絢子	東京学芸	18.1/3	74	61	10	5	3	8	5	7	・	253	1.15	2	1



## 第49回全日本総合男子選手権大会

会期：平成15年9月13日（土）～15日（月）

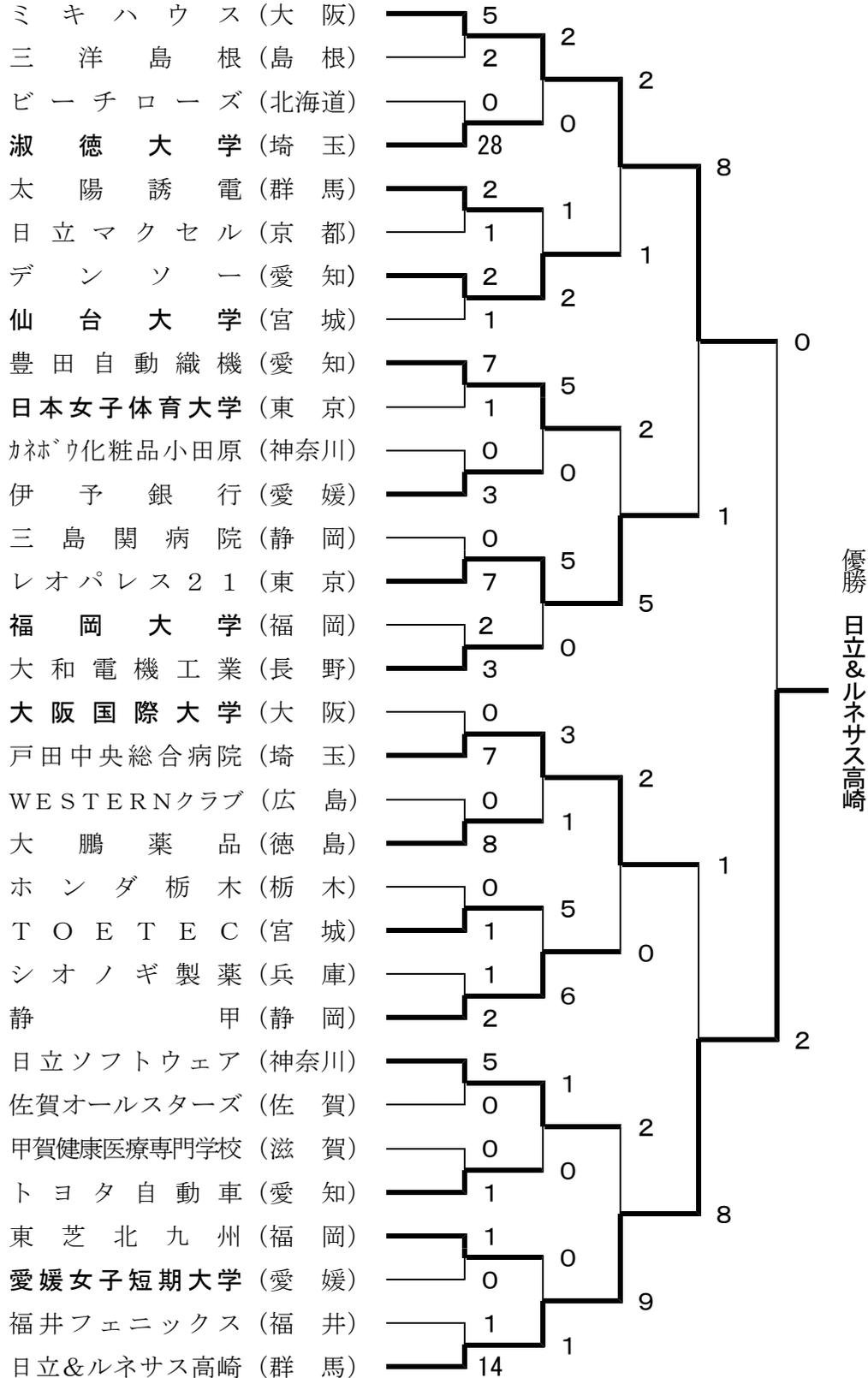
会場：埼玉県鶴ヶ島市・毛呂山町



# 第55回全日本総合女子選手権大会

会期：平成15年9月26日（金）～28日（月）

会場：埼玉県坂戸市



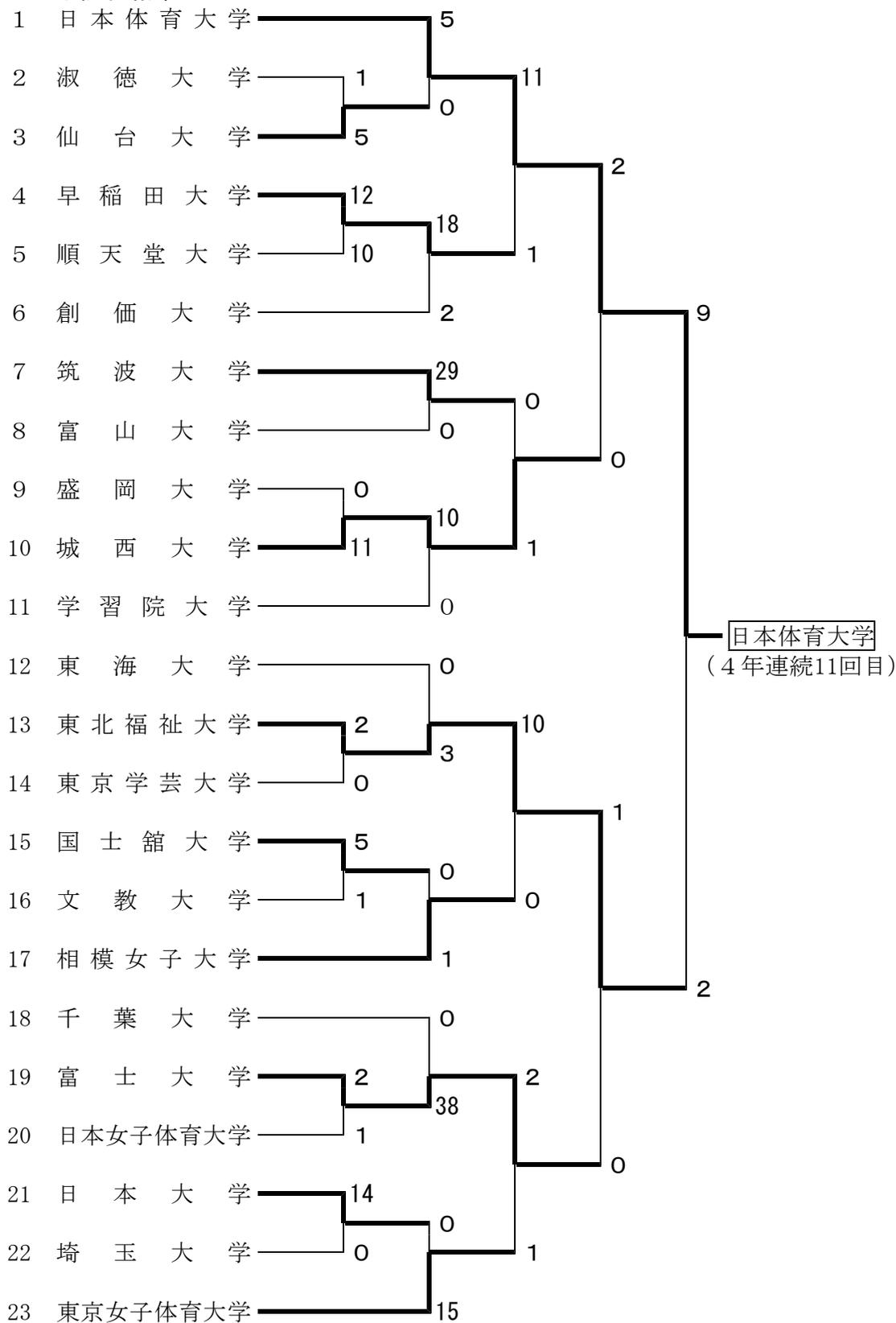
優勝 日立&ルネサス高崎

## 第18回東日本大学ソフトボール選手権大会

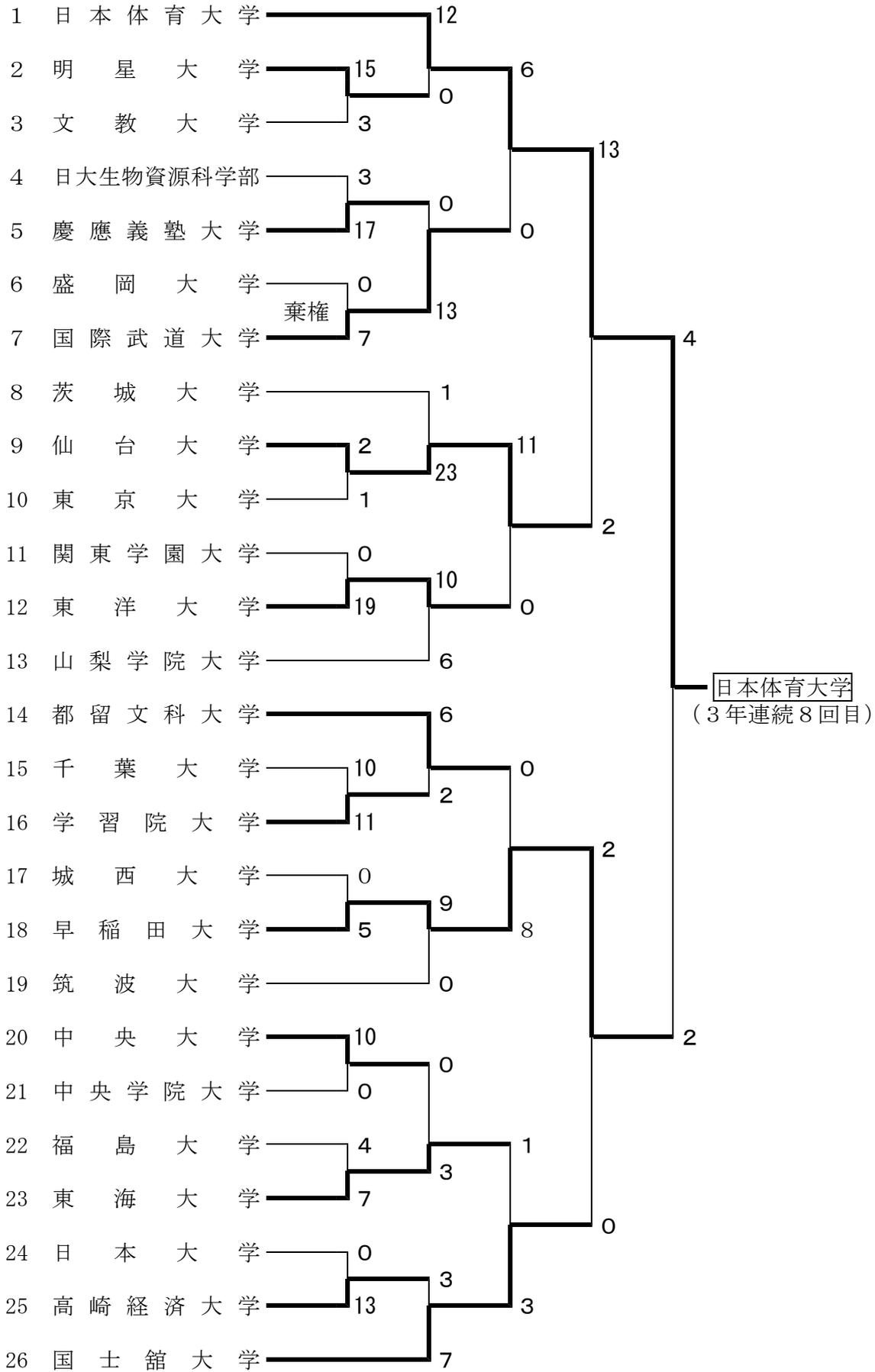
会期：平成15年8月9日（土）～11日（月）

会場：茨城県真壁町町民運動場 他

### 女子試合結果



男子試合結果

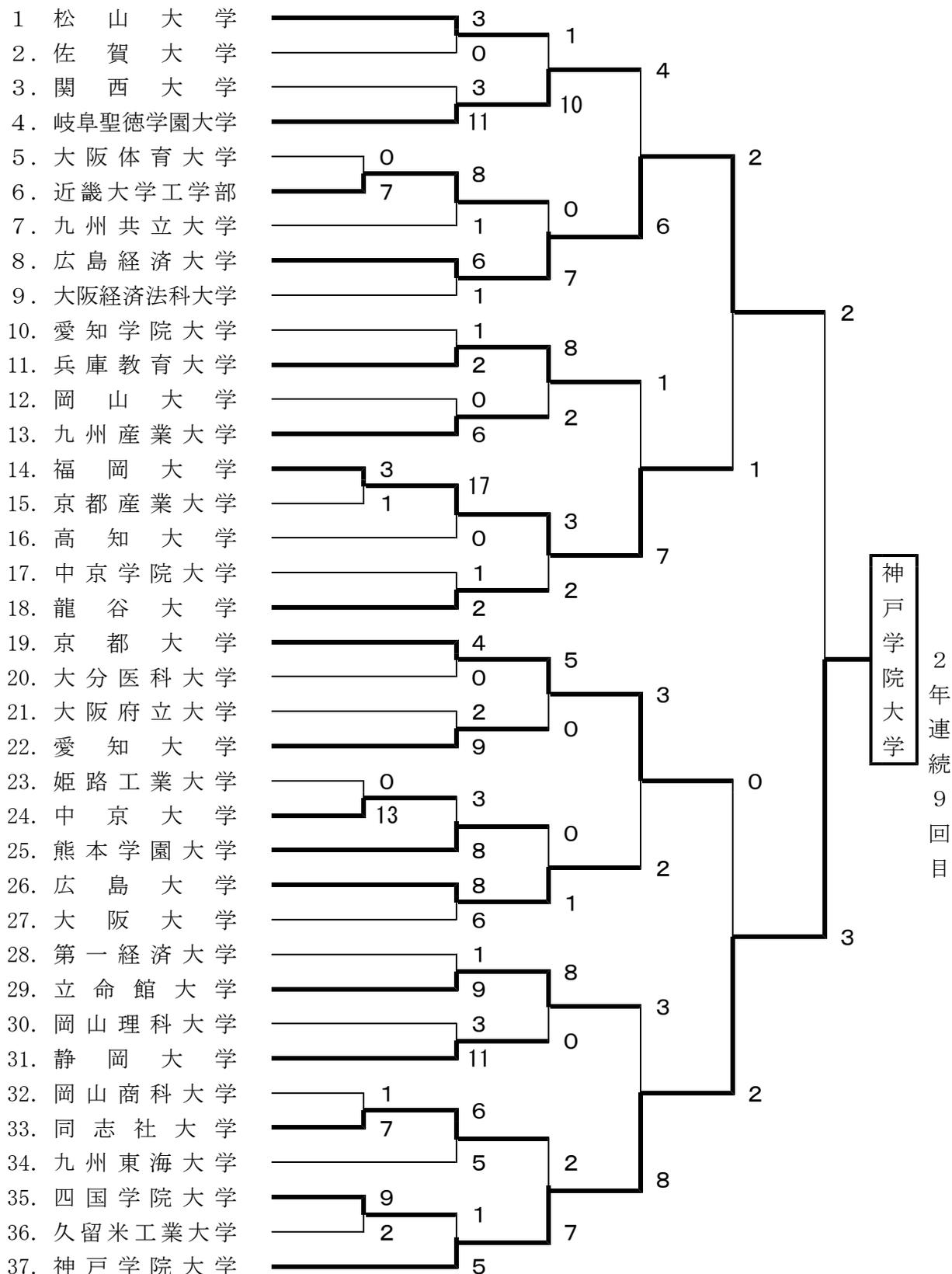


## 第35回西日本大学ソフトボール選手権大会

会期：平成15年8月10日（日）～12日（月）

会場：姫路工業大学・姫路市立書写中学校・姫路市立球技センター

### 男子試合結果

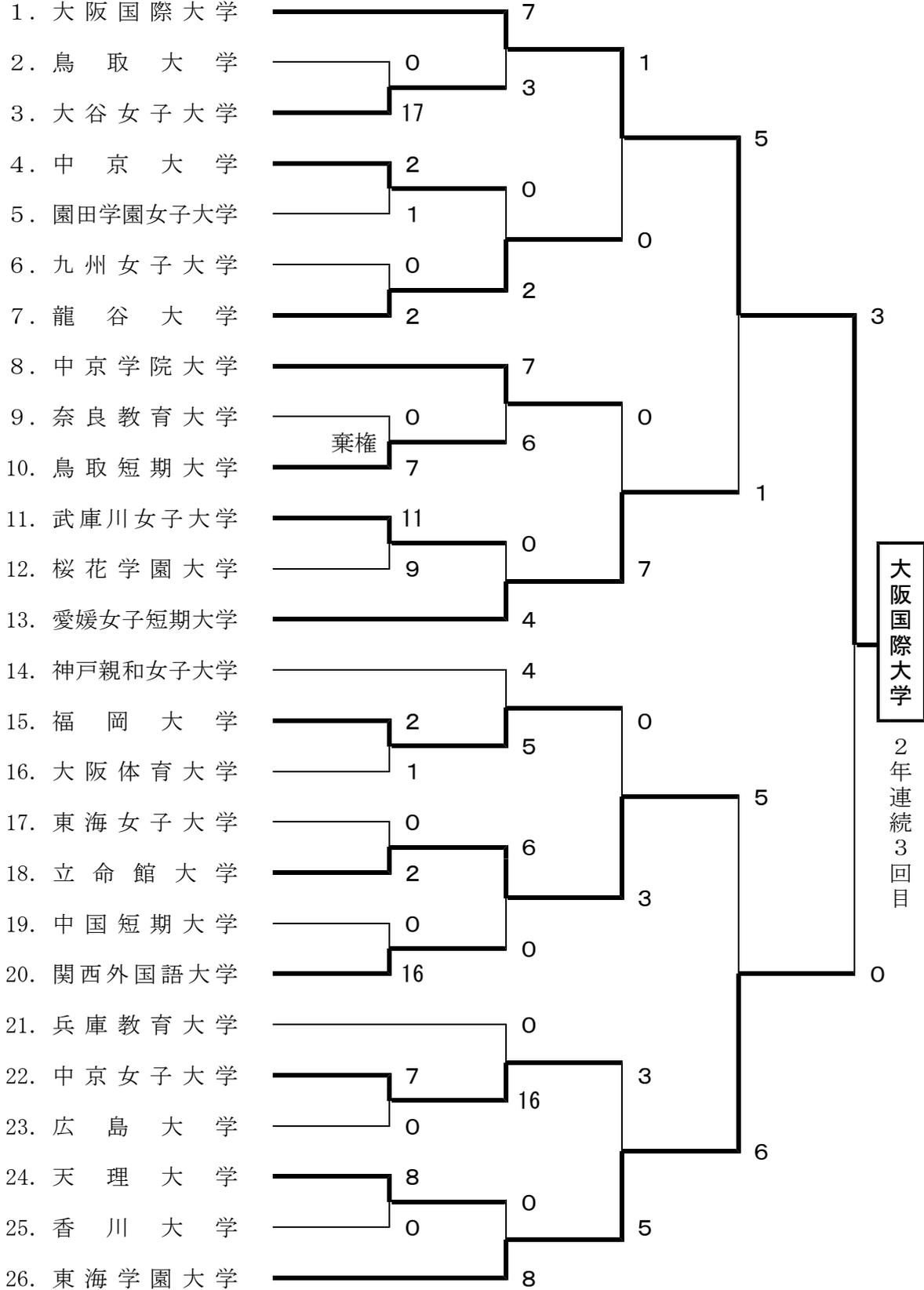


## 第35回西日本大学ソフトボール選手権大会

会期：平成15年8月10日（日）～12日（月）

会場：兵庫医科大学鳴尾浜G・武庫川女子大学総合G・浜甲子園運動公園野球場

### 女子試合結果



## トヨタ・デンソー・豊田織機杯 第2回大学ソフトボール東海オープン

会期：平成15年3月26日（水）・27日（木）

会場：愛知県安城市総合運動公園ソフトボール場・野球場

### 1. 男子の部

予選リーグ戦（3月26日）

順位決定リーグ戦（3月27日）

Aグループ	聖徳	名古屋	金沢	順位
岐阜聖徳学園	○	○	○	1
名古屋	●	○	○	2
金沢	●	●	○	3

1～3位	聖徳	常葉	愛学	順位
岐阜聖徳学園	○	○	○	優勝
常葉学園	●	○	●	3位
愛知学院	●	○	○	2位

Bグループ	常葉	静岡	信州	順位
常葉学園	○	○	○	1
静岡	●	○	●	3
信州	●	○	○	2

4～6位	名古屋	信州	愛知	順位
名古屋	○	○	○	6位 失点18
信州	○	○	●	4位 失点10
愛知	●	○	○	5位 失点11

Cグループ	愛知	愛学	広島	順位
愛知	△	○	○	2 失点9
愛知学院	△	○	○	1 失点5
広島	●	●	○	3 失点20

7～9位	金沢	静岡	広島	順位
金沢	○	○	○	9位
静岡	○	○	○	8位
広島	○	○	○	7位

### 2. 男子個人表彰

最優秀選手賞：島倉健吾中堅手（岐阜聖徳学園大学）

敢闘選手賞：関山慎一2塁手（愛知学院大学）

3. 女子の部

予選リーグ戦（3月26日）

順位決定リーグ戦（3月27日）

Aグループ	東学	富山	九州	順位
東海学園		○ 31-0	○ 11-9	1
富山	● 0-31		● 0-20	3
九州選抜	● 9-11	○ 20-0		2

1～3位	東学	東女	日女体	順位
東海学園		● 7-8	● 1-6	3位
東海女子	○ 8-7		● 1-5	2位
日本女子体育	○ 6-1	○ 5-1		優勝

Bグループ	国士舘	大體	東女	順位
国士舘		● 0-3	● 4-8	3
大阪体育	○ 3-0		● 4-9	2
東海女子	○ 8-4	○ 9-4		1

4～6位	九州	大體	大谷	順位
九州選抜		○ 5-2	● 0-1	5位
大阪体育	● 2-5		● 0-5	6位
大谷女子	○ 1-0	○ 5-0		4位

Cグループ	大谷	中女	日女体	順位
大谷女子		○ 4-0	● 2-5	2
中京女子	● 0-4		● 0-8	3
日本女子体育	○ 5-2	○ 8-0		1

7～9位	富山	国士舘	中女	順位
富山		● 0-14	● 0-24	9位
国士舘	○ 14-0		○ 3-0	7位
中京女子	○ 24-0	● 0-3		8位

4. 女子個人表彰

最優秀選手賞：滝真由美左翼手（日本女子体育大学）

敢闘選手賞：竹澤苑美投手（東海女子大学）

5. 概評

昨年とは異なって好天に恵まれた大会になった。また、開催地安城市ソフトボール協会を中心に愛知県ソフトボール協会のご協力で審判・記録・会場とも充実した大会であった。

男子は岐阜聖徳学園大学が二連覇を飾り、女子は東京地区の日本女子体育大学が確実に勝ちを収めて無事終了した。シーズン当初であり、技術的にも新ルールの効果的な利用もあまり見るべきものはなかったが、ここからの各チームの飛躍を望みたい。また、予定されていた交流試合がチームの都合で十分に実施されなかったのは、今後課題を残した。（水谷 博）

## 第4回「峠のまち」Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成15年4月26日（土）～27日（日）

会場：群馬県碓氷郡松井田町

横川ふれあい運動公園野球場・坂本スポーツ広場

西横野多目的広場野球場・小日向農村広場

### 【男子】

(横川リーグ)

チーム名	信 州	山 梨	筑 波	都 留	順
信 州	*	○ 5-3	● 1-3	○ 8-5	1
山梨学院	● 3-5	*	○ 9-5	○ 17-9	3
筑 波	○ 3-1	● 5-9	*	○ 8-7	2
都留文科	● 5-8	● 9-17	● 7-8	*	4

(碓氷リーグ)

チーム名	関 東	高 崎	城 西	長 野	順
関東学園	*	● 0-20	● 0-29	● 0-7	4
高崎経済	○ 20-0	*	○ 3-1	○ 14-3	1
城 西	○ 29-0	● 1-3	*	○ 22-2	2
長 野	○ 7-0	● 3-14	● 2-22	*	3

(順位決定戦)

◇1-2位決定戦：高崎経済大学 2 - 1 信州大学

◇3-4位決定戦：城西大学 8 - 0 筑波大学

◇5-6位決定戦：山梨学院大学 12 - 2 長野大学

◇7-8位決定戦：関東学園大学 14 - 5 都留文科大学

### 【女子】

チーム名	新島学園	城 西	中京学院	信 州	相模女子	東 海	勝点	順位
新島学園	*	● 5-10	○ 4-2	○ 7-0	● 3-10	○ 3-2	6	4位
城 西	○ 10-5	*	○ 12-2	○ 29-0	○ 5-3	○ 2-1	10	1位
中京学院	● 2-4	● 2-12	*	○ 18-0	● 2-3	● 3-5	2	5位
信 州	● 0-7	● 0-29	● 0-18	*	● 1-11	● 0-29	0	6位
相模女子	○ 10-3	● 3-5	○ 3-2	○ 11-1	*	● 0-5	6	3位
東 海	● 2-3	● 1-2	○ 5-3	○ 29-0	○ 5-0	*	6	2位

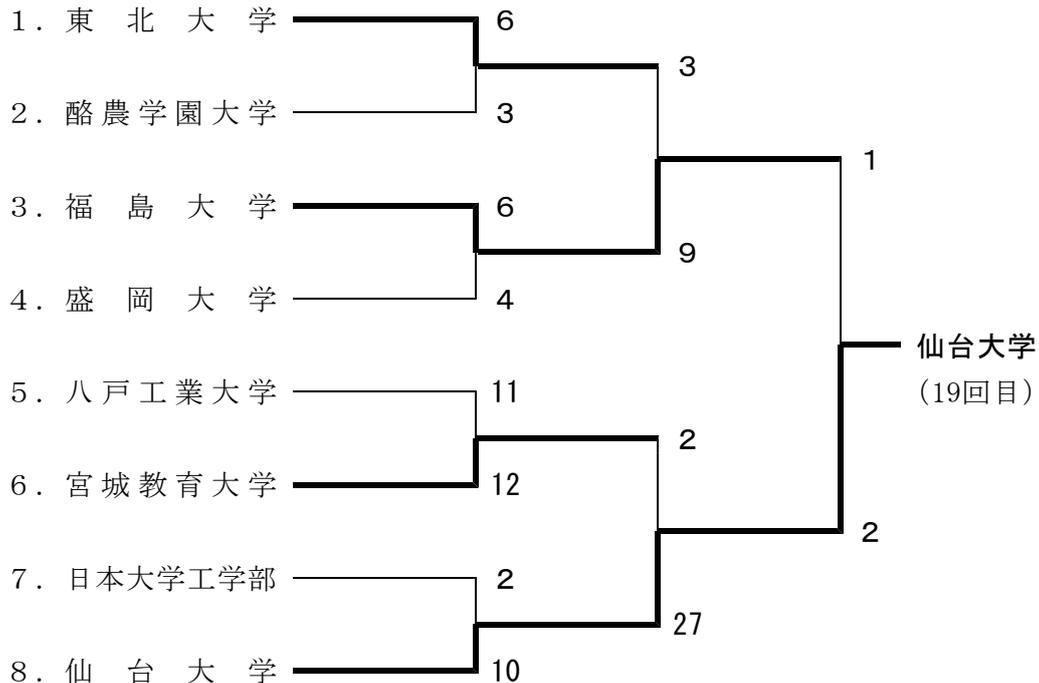
【北海道・東北地区】

第38回 全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北予選会  
兼、第24回 北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会

会期：平成15年5月24日(土)・25日(日)

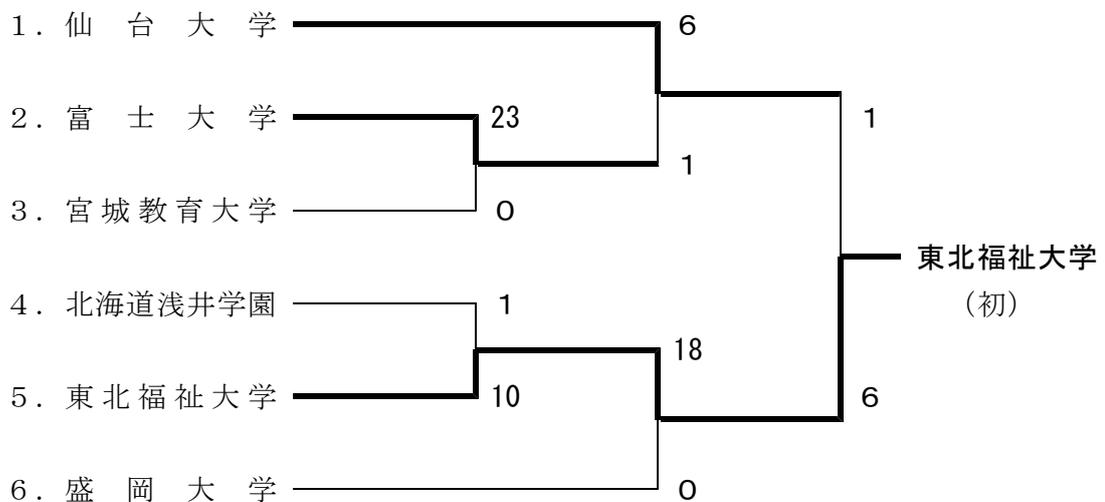
会場：福島県郡山市ふるさとの森ソフトボール場

男子選手権



インカレ出場は、仙台大学

女子選手権



インカレ出場は、東北福祉大学

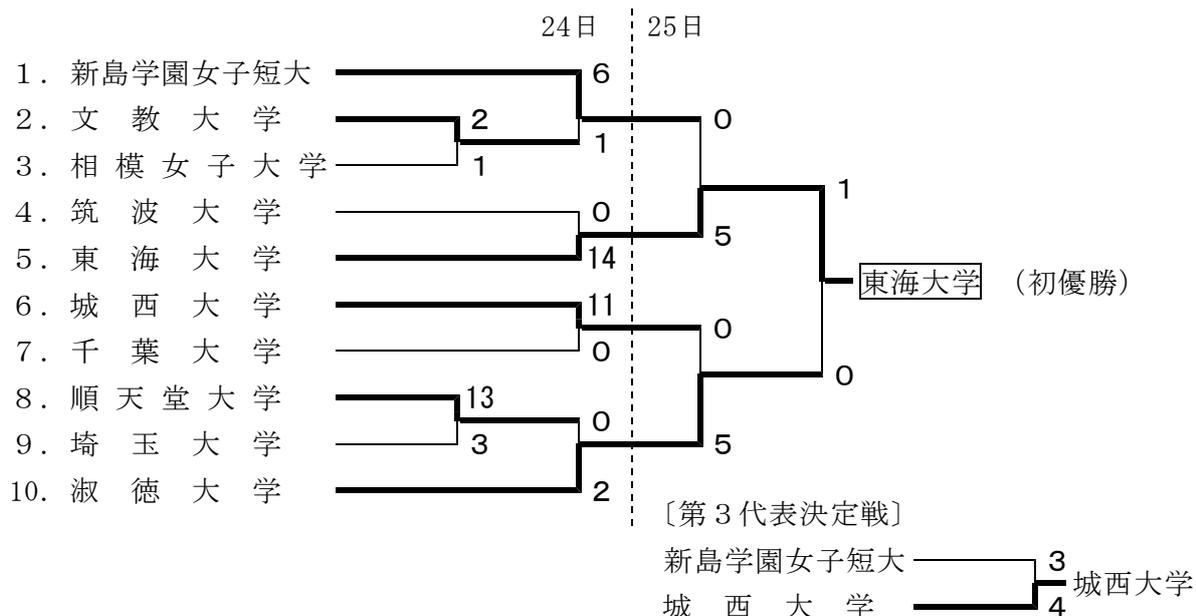
## 【関東地区】第11回関東学生ソフトボール選手権大会

兼 第38回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

会期：平成15年5月24日（土）～25日（日）

会場：山梨県甲府市小瀬スポーツ公園球場、  
 竜王町釜無川スポーツ公園グラウンド（男子）  
 昭和町甲府市水道局スポーツ施設（女子）

〔女子〕



### 〈概要〉

関東学生ソフトボール連盟が発足して早10年が過ぎた。インカレ出場校を選出する関東地区は、東京都が入っていないこともあり、レベル的にはやや劣っているという見方が一般的である。その関東地区のレベルアップをという高崎経済大学・高橋先生の発案で秋にリーグ戦を開始するようになって3年目を迎えている。今大会は、その成果が確実に現れてきていることを感じさせる大会となった。

開会式の時、文教大の小林コーチは「相模女子大とは良い試合ができると思いますよ。」と話していた。その論拠は昨秋のリーグ戦で引き分けたことにあった。そしてそれは現実のものとなり、2-1で文教大が勝利し、相模女子大は今年も夢が破れてしまった。文教大はエース鈴見の好投が光り、新しいメンバーを加えたバックがよく凌いだと思います。若いチームなので年々強くなることが予想されます。久しくチームが結成できなかった埼玉大が出場してきたことも特筆ものですし、井上主将に率いられた筑波大もまとまりのある好チームでした。また、千葉大の思い切った大胆なプレーは、見るものを楽しませてくれました。これら三大学とも、国立大のハンディキャップを埋めるには暫く時間がかかりそうです。

昨秋のリーグ戦を欠場した順天堂大の戦力も素晴らしかった。常勝・淑徳大を相手に0-2の試合は、今後大いに期待できると思います。今大会もっとも見応えのあった試合は、

第3代表をめぐっての城西大と新島学園女子短大戦であろう。7回2死から追いついた城西大が2回のタイブレーカーの末、感激の初出場の切符を手にしたことは、今後の関東地区の勢力地図に大きな影響を与えることになりそうです。両チームともよく訓練された好チームであり、どちらが勝ってもおかしくない好ゲームでした。

この大会のスタート時から10年連続優勝旗を手にしてきた淑徳大が敗れたことは、これから関東地区が戦国時代に突入するのではないかと予感させるものであった。優勝した東海大は、1年生バッテリー（安藤-幸）がすべての試合を完封するという離れ業をやった。フレッシュな力を十分に引き出させたそのバランス力に秀でたチームであったといえる。その勢いをインカレでも存分に発揮してもらいたい。

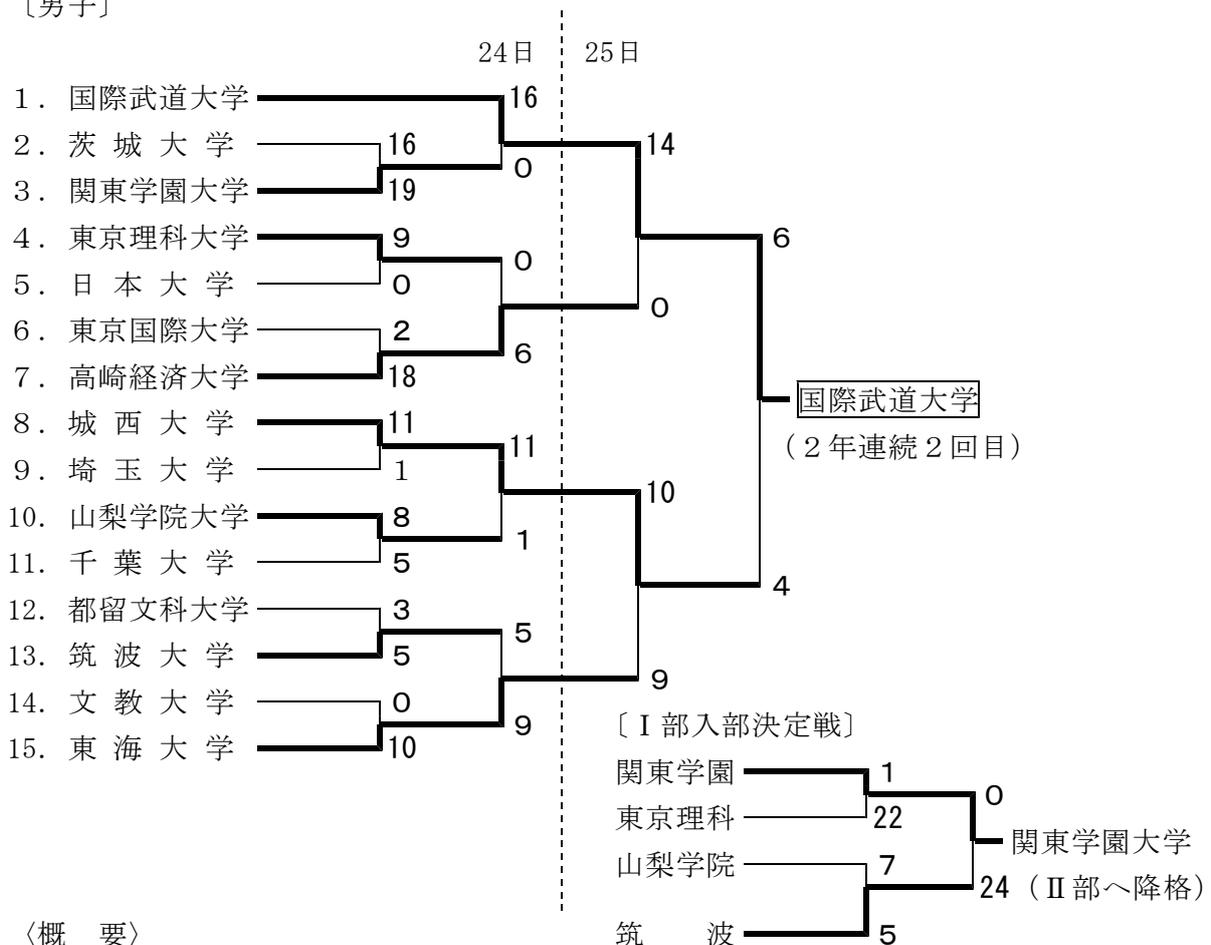
昨秋のリーグ戦では新島学園女子短大が淑徳大を敗り、今回は東海大が淑徳大を敗って初優勝したことで、常勝・淑徳大の神話は崩れつつある。新島や東海が勝ったことで、これまで気後れしていた他大学の選手たちが可能性を感じて試合するようになれば、関東地区は大会ごとに優勝チームが変わる激戦区になっていくでしょう。

敗戦の瞬間の人見監督の涙は、次に期する決意の強さを物語っている。絶対的な強さを誇っていた淑徳大が再度王者をめざすことで、一層関東地区のレベルが上がると思われる。

今夏のインカレには、東海大、淑徳大、城西大が出場する。

（文責：松永尚久）

〔男子〕



〈概要〉

国際武道大が連覇を果たす。エース与那覇の安定感がさらに高まり、投攻守のバランスが充実した隙のないチームに成長している。決勝戦では、加藤・植松の2枚エースを擁す

る城西大が与那覇の立ち上がりをうまく攻め先制したものの、打線に繋がりのある国際武道大が慌てない試合運びで押し返した。城西大は、一旦は吉村の本塁打で追いついたものの、加藤の投入が一瞬遅れて突き放されてしまった。完成度の高い両チームの力強さが散見できた、今大会一番の好ゲームであった。

ところで、今大会は美味な試合が多い大会であった。全17試合中、両チームの得点総数が10点を超える試合が14試合もあり、5回コールドゲームも7試合を数えている。攻撃力がアップしたというよりも投手力の低下が目立つ大会であった。その中で、投手力に利のある4チームが抜け出したといえる。本連盟のレベルアップのためには、まず投手力の強化が必要であろう。そういった中で、まだまだ非力ではあるがまとまりのある投手を有する山梨学院大と筑波大が、今秋のリーグ戦では初めてI部スタートとなった。両チームの健闘を期待したい。

今夏のインカレには、国際武道大、城西大、東海大、高崎経済大が出場する。国際武道大と城西大は、投手力・攻撃力ともに際だった力を有しており、試合運びさえ間違わなければインカレでも上位をねらえる存在である。東海大の打線は今大会でも屈指のパワーを誇っている。塚越、猪俣、悴田ら強打者が揃っており打ち合いに持ち込めば勝機も見えるが、やはり失点を少なくすることが課題となろう。高崎経済大は、エース高橋を中心とした守りのチーム。しっかりした守りのリズムを攻撃に転ずることができるかどうかがかぎとなろう。(文責：高橋伸次)

### 第3回関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成15年10月11日（土）～10月13日（月）、19日（日）

会場：埼玉県・毛呂山町西戸グラウンド  
大類ソフトボールパーク

#### 【I部リーグ】

チーム名	東海	東京理科	高崎経済	筑波	城西	国際武道	山梨学院	勝-敗
東海	*	○6-3	○5-4	○7-0	●5-6	●4-7	○12-0	4-2
東京理科	●3-6	*	●1-11	●7-11	●2-6	●0-12	○11-8	1-5
高崎経済	●4-5	○11-1	*	○12-5	●2-8	●1-6	○12-4	3-3
筑波	●0-7	○11-7	●5-12	*	●0-10	●3-9	○2-0	2-4
城西	○6-5	○6-2	○8-2	○10-0	*	○4-3	○15-2	6-0
国際武道	○7-4	○12-0	○6-1	○9-3	●3-4	*	○7-1	5-1
山梨学院	●0-12	●8-11	●4-12	●0-2	●2-15	●1-7	*	0-6

☆Ⅰ部最終順位☆

- 第1位：城西大学                      第5位：筑波大学                      (Ⅱ部3位と入れ替え戦へ)  
 第2位：国際武道大学                第6位：東京理科大学                (Ⅱ部2位と入れ替え戦へ)  
 第3位：東海大学                      第7位：山梨学院大学                (Ⅱ部1位と入れ替え戦へ)  
 第4位：高崎経済大学

☆最優秀選手賞☆

吉村勇亮 (城西大学3年：中堅手)

☆優秀選手賞☆

富田裕二 (国際武道大学3年：投手)

【Ⅱ部Aリーグ】

チーム名	芝浦工業	文 教	茨 城	都留文科	関東学園	勝-敗	順位
芝浦工業	*	● 1-27	● 3-35	● 1-28	● 10-18	0-4	5
文 教	○ 27-1	*	● 6-16	● 4-17	● 4-13	1-3	4
茨 城	○ 35-3	○ 16-6	*	● 4-14	● 2-14	2-2	3
都留文科	○ 28-1	○ 17-4	○ 14-4	*	● 12-13	3-1	2
関東学園	○ 18-10	○ 13-4	○ 14-2	○ 13-12	*	4-0	1

【Ⅱ部Bリーグ】

チーム名	日 本	千 葉	埼 玉	東京国際	中央学院	勝-敗	順位
日 本	*	● 3-10	● 2-14	○ 7-0	○ 11-5	2-2	3
千 葉	○ 10-3	*	● 3-10	○ 27-5	○ 16-4	3-1	2
埼 玉	○ 14-2	○ 10-3	*	○ 25-15	○ 17-0	4-0	1
東京国際	● 0-7	● 5-27	● 15-25	*	○ 13-10	1-3	4
中央学院	● 5-11	● 4-16	● 0-17	● 10-13	*	0-4	5

【順位決定戦】

- ◇ 1-2位決定戦 関東学園大学 4-14 埼玉大学  
 ◇ 3-4位決定戦 都留文科大学 3-10 千葉大学  
 ◇ 5-6位決定戦 茨城大学 14-6 日本大学  
 ◇ 7-8位決定戦 文教大学 12-9 東京国際大学  
 ◇ 9-10位決定戦 芝浦工業大学 3-25 中央学院大学

☆Ⅱ部最終順位☆

- |            |               |             |
|------------|---------------|-------------|
| 第1位：埼玉大学   | (Ⅰ部7位と入れ替え戦へ) | 第6位：日本大学    |
| 第2位：関東学園大学 | (Ⅰ部6位と入れ替え戦へ) | 第7位：文教大学    |
| 第3位：千葉大学   | (Ⅰ部5位と入れ替え戦へ) | 第8位：東京国際大学  |
| 第4位：都留文科大学 |               | 第9位：中央学院大学  |
| 第5位：茨城大学   |               | 第10位：芝浦工業大学 |

☆最優秀選手賞☆

安藤 浩平 (埼玉大学2年：投手)

☆優秀選手賞☆

渡辺 康夫 (関東学園大学1年：三塁手)

【Ⅰ部・Ⅱ部入れ替え戦】

- 筑波大学 (Ⅰ部5位) 9-2 千葉大学 (Ⅱ部3位) →筑波大学はⅠ部残留  
 東京理科大学 (Ⅰ部6位) 16-15 関東学園大学 (Ⅱ部2位) →理科大学はⅠ部残留  
 山梨学院大学 (Ⅰ部7位) 1-7 埼玉大学 (Ⅱ部1位) →埼玉大学はⅠ部昇格

第3回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成15年10月11日(土)～13日(月)

会場：群馬県・安中市ひさよし運動緑地

【Ⅰ部リーグ】

チーム名	淑徳	東海	順天	相模	文教	新島	千葉	城西	武道	勝-敗
淑徳	*	△ 7-7	○ 10-0	○ 4-0	○ 10-0	○ 4-1	○ 41-0	● 1-2	○ 14-0	5-1 1分
東海	△ 7-7	*	● 2-3	○ 6-0	○ 7-0	○ 4-3	○ 11-1	○ 5-0	○ 16-2	5-1 1分
順天堂	● 0-10	○ 3-2	*	○ 2-1	● 4-5	● 0-9	○ 10-0	● 2-9	-	3-4
相模女子	● 0-4	● 0-6	● 1-2	*	● 4-5	● 0-4	○ 18-0	● 2-5	-	1-6
文教	● 0-10	● 0-7	○ 5-4	○ 5-4	*	● 1-11	○ 13-6	● 0-9	-	3-4
新島学園	● 1-4	● 3-4	○ 9-0	○ 4-0	○ 11-1	*	○ 14-0	○ 4-3	-	5-2
千葉	● 0-41	● 1-11	● 0-10	● 0-18	● 6-13	● 0-14	*	● 1-11	-	0-7
城西	○ 2-1	● 0-5	○ 9-2	○ 5-2	○ 9-0	● 3-4	○ 11-1	*	○ 11-5	5-2
国際武道	● 0-14	● 2-16	-	-	-	-	-	● 5-11	*	0-3

☆最終順位☆

- |                |           |            |
|----------------|-----------|------------|
| 第1位：淑徳大学       | 第4位：城西大学  | 第7位：相模女子大学 |
| 第2位：東海大学       | 第5位：文教大学  | 第8位：千葉大学   |
| 第3位：新島学園女子短期大学 | 第6位：順天堂大学 |            |

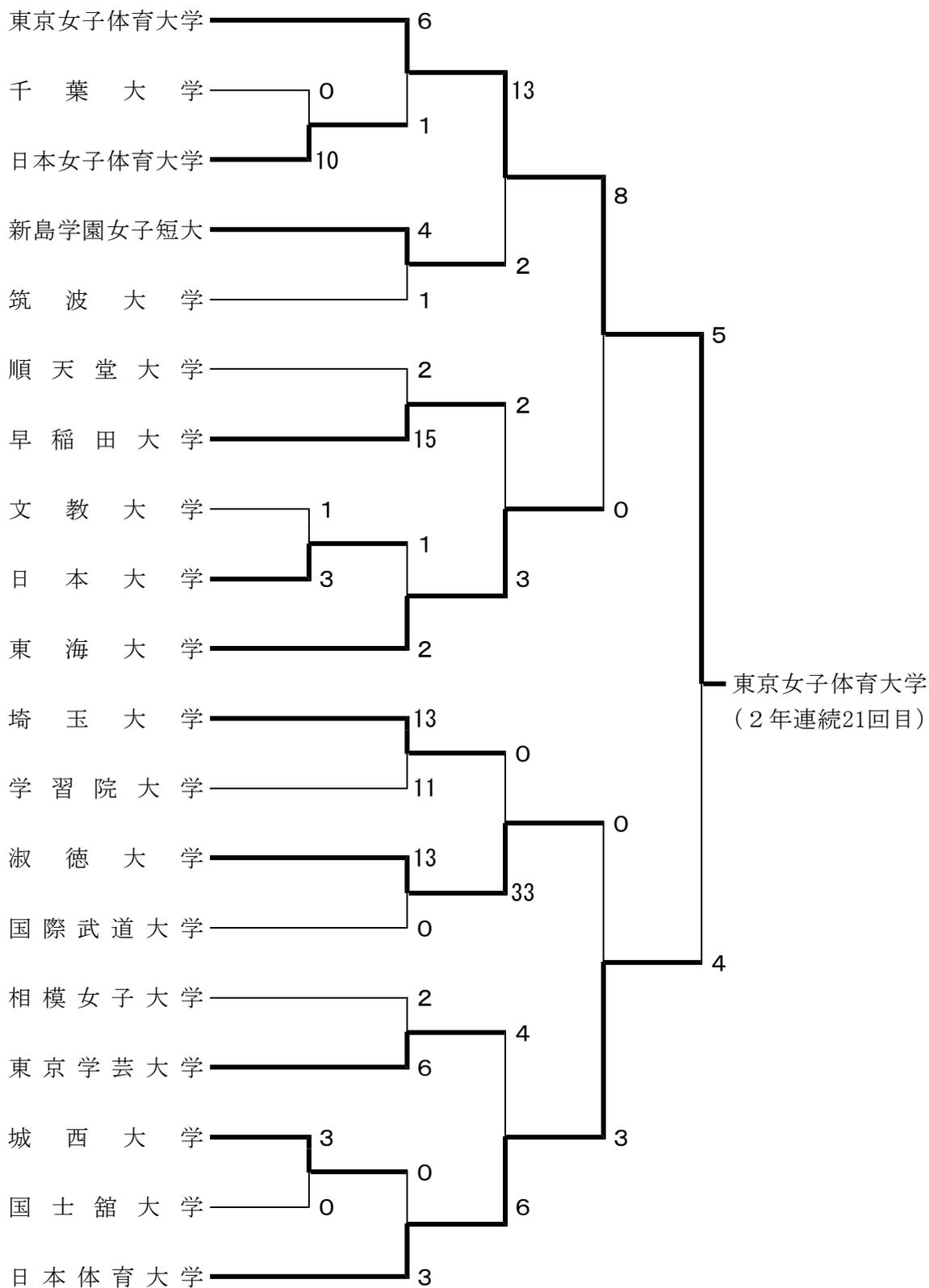
(1-2位および3-4位は得失点差による。国際武道大学はオープン参加)

### 第34回関東大学ソフトボール選手権大会

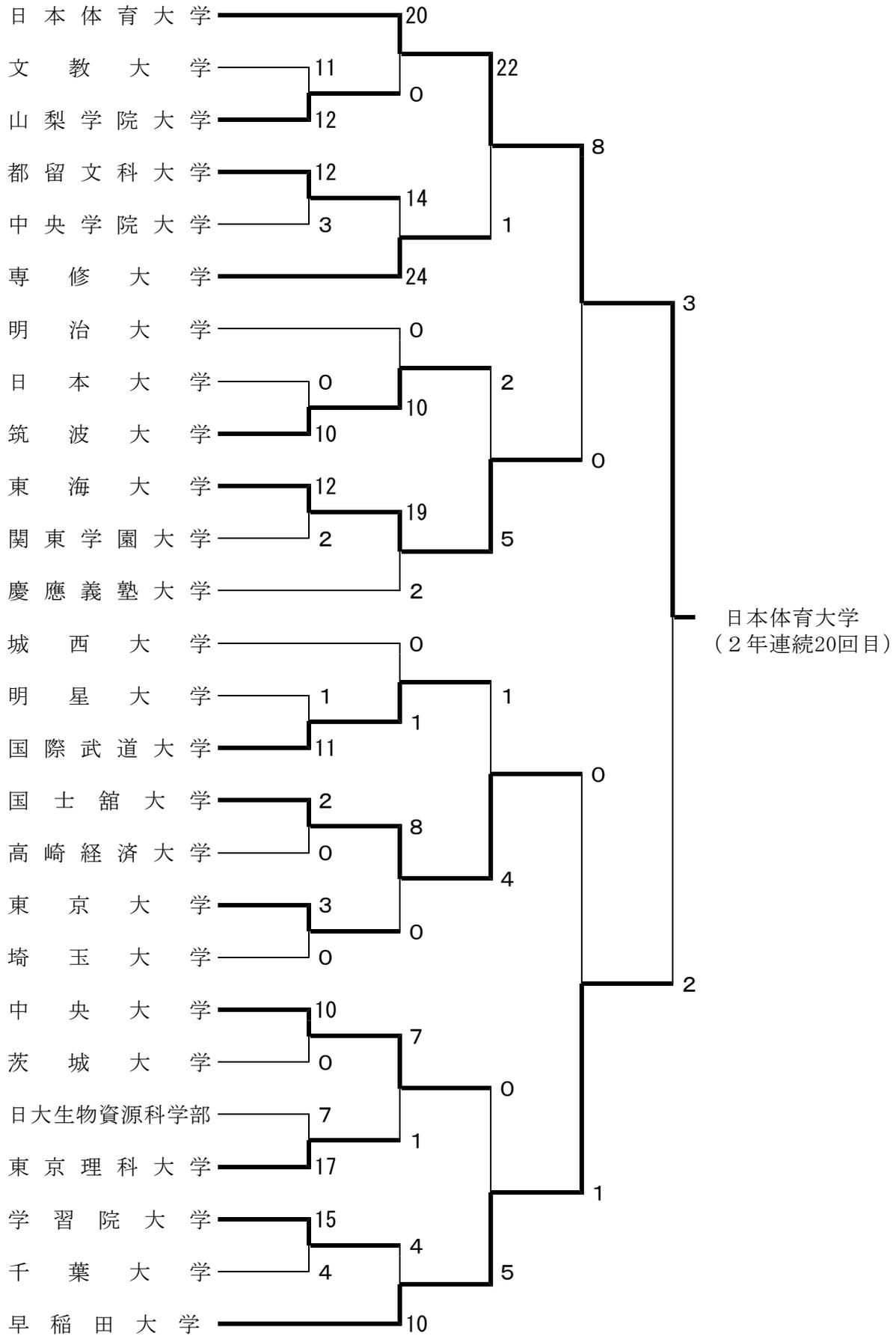
会期：平成15年11月1日（土）～3日（月）

会場：埼玉県鴻巣市糠田運動場・北荒川運動公園

〈女子の部〉



〈男子の部〉



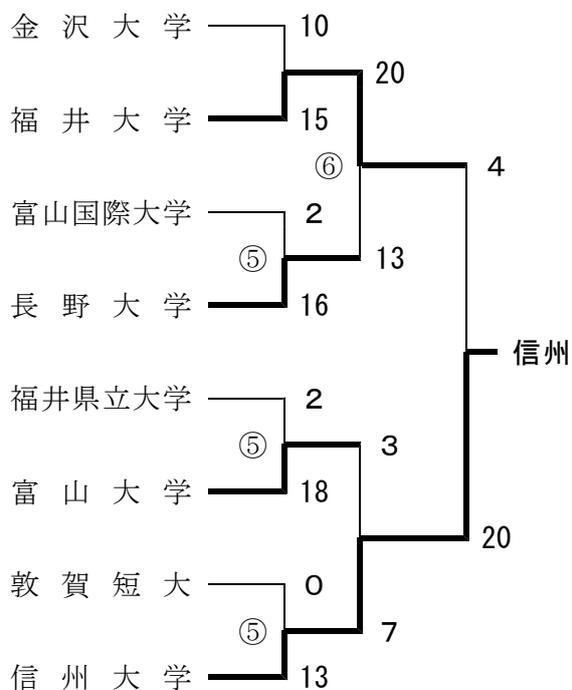
【北信越地区】

第9回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会  
 (兼、文部大臣杯第38回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

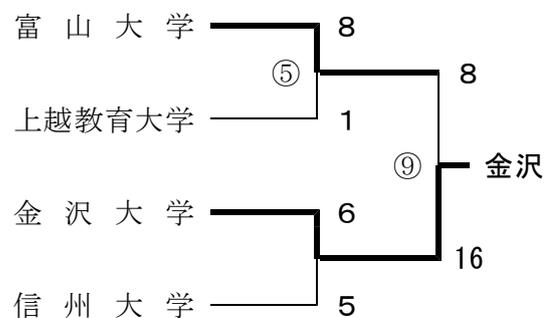
会期：平成15年5月24(土)・25日(日)

会場：石川県金沢市専光寺ソフトボール場・北部運動公園

<男子>



<女子>



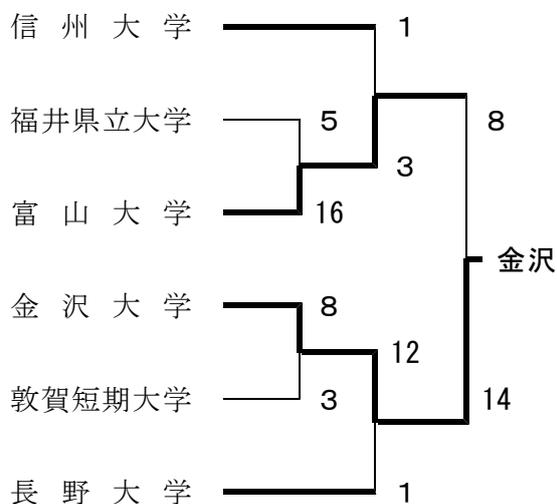
※富山大学(男子)・福井大学(男子)、金沢大学(女子)がインカレ出場権を獲得

第10回北信越大学男子・女子ソフトボール新人大会

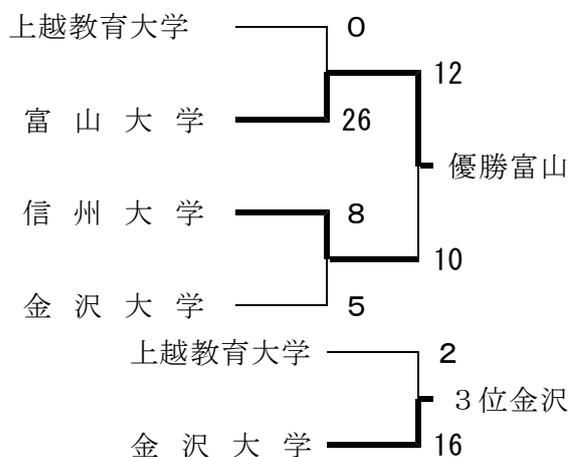
会期：平成15年9月27日(土)・28日(日)

会場：長野県穂高町有明運動場グラウンド

<男子>



<女子>



## 【東京地区】

### 平成15年度第35回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

#### 男子1部

順位	大学名	日体	国士舘	早稲田	中央	明星	学習院	勝敗分
優勝	日本体育大		△ 1-1	○ 6-3	○ 4-2	○ 4-3	○ 4-0	4・0・1
第2位	国士舘大	△ 1-1		△ 1-1	○ 4-0	○ 8-0	○ 11-4	3・0・2
第3位	早稲田大	● 3-6	△ 1-1		○ 6-0	○ 7-0	○ 13-5	3・1・1
第4位	中央大	● 2-4	● 0-4	● 0-6		○ 3-0	○ 7-0	2・3・0
第5位	明星大	● 3-4	● 0-8	● 0-7	● 0-3		○ 10-0	1・4・0
第6位	学習院大	● 0-4	● 4-11	● 5-13	● 0-7	● 0-10		0・5・0

#### 男子2部

順位	大学名	日本	杏林	東京	東農	成蹊	明治	勝敗分
優勝	日本大		○ 4-2	○ 4-2	○ 6-4	● 1-2	○ 7-4	4・1・0
第2位	杏林大	● 2-4		○ 7-0	○ 12-3	○ 10-0	○ 7-1	4・1・0
第3位	東京大	● 2-4	● 0-7		○ 13-2	○ 10-1	● 3-4	2・3・0
第4位	東京農業大	● 4-6	● 3-12	● 2-13		○ 11-9	○ 14-5	2・3・0
第5位	成蹊大	○ 2-1	● 0-10	● 1-10	● 9-11		○ 8-6	2・3・0
第6位	明治大	● 4-7	● 1-7	○ 4-3	● 5-14	● 6-8		1・4・0

※1位・2位、3位～5位は直接対決の結果による

#### 男子3部

順位	大学名	桜美林	東洋	一橋	専修	慶応	勝敗分
優勝	桜美林大		○ 6-5	○ 10-5	○ 9-6	○ 7-0	4・0・0
第2位	東洋大	● 5-6		○ 12-2	○ 14-1	○ 7-0	3・1・0
第3位	一橋大	● 5-10	● 2-12		○ 8-5	○ 7-0	2・2・0
第3位	専修大	● 6-9	● 1-14	● 5-8		○ 7-0	1・3・0
第5位	慶應義塾大	● 0-7	● 0-7	● 0-7	● 0-7		0・4・0

※東京学芸大は棄権、4部に自動降格。

男子4部

順位	大学名	ICU	東経	文教	武蔵	帝京	日歯	勝敗分
優勝	ICU		○ 6-5	○ 15-7	○ 10-1	○ 12-3	○ 11-4	5・0・0
第2位	東京経済大	● 5-6		○ 11-1	○ 14-13	○ 11-2	○ 20-10	4・1・0
第3位	文教大湘南	● 7-15	● 1-11		○ 9-8	○ 11-10	○ 11-1	3・2・0
第4位	武蔵工業大	● 1-10	● 13-14	● 8-9		○ 15-9	○ 20-11	2・3・0
第5位	帝京大	● 3-12	● 2-11	● 10-11	● 9-15		△ 15-15	0・4・1
第5位	日本歯科大	● 4-11	● 10-20	● 1-11	● 11-20	△ 15-15		0・4・1

※ICUは3部に自動昇格。

女子1部

順位	大学名	東女体	日体	学芸	日女体	早稲田	国士舘	勝敗分
優勝	東女体大		○ 2-0	● 3-4	○ 2-0	○ 7-0	○ 6-0	4・1・0
第2位	日本体育大	● 0-2		○ 2-1	○ 3-1	○ 9-0	○ 3-2	4・1・0
第3位	東京学芸大	○ 4-3	● 1-2		○ 3-2	○ 4-2	○ 3-1	4・1・0
第4位	日女体大	● 0-2	● 1-3	● 2-3		△ 4-4	○ 3-0	1・3・1
第5位	早稲田大	● 0-7	● 0-9	● 2-4	△ 4-4		△ 5-5	0・3・2
第6位	国士舘大	● 0-6	● 2-3	● 1-3	● 0-3	△ 5-5		0・4・1

女子2部

順位	大学名	学習院	日本	創価	中央	成蹊	勝敗分
優勝	学習院大		○ 10-9	○ 4-3	○ 21-0	○ 13-2	4・0・0
第2位	日本大	● 9-10		○ 13-4	○ 9-0	○ 12-0	3・1・0
第3位	創価大	● 3-4	● 4-13		○ 12-4	○ 10-4	2・2・0
第4位	中央大	● 0-21	● 0-9	● 4-12		○ 15-12	1・3・0
第5位	成蹊大	● 2-13	● 0-12	● 4-10	● 12-15		0・4・0

※明星大学は棄権。3部に自動降格。

女子3部

順位	大学名	明治	桜美林	ICU	杏林	勝敗分
優勝	明治大		○ 8-7	○ 10-1	○ 11-2	3・0・0
第2位	桜美林大	● 7-8		○ 9-5	○ 13-1	2・1・0
第3位	ICU	● 1-10	● 5-9		○ 18-17	1・2・0
第4位	杏林大	● 2-11	● 1-13	● 17-18		0・3・0

※専修大学は棄権。明治大学は2部に自動昇格。

第35回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦入れ替え戦

☆男子1部・2部

学習院大(1部6位) 3-11 日本大(2部1位) = 日本大は1部昇格

☆男子2部・3部

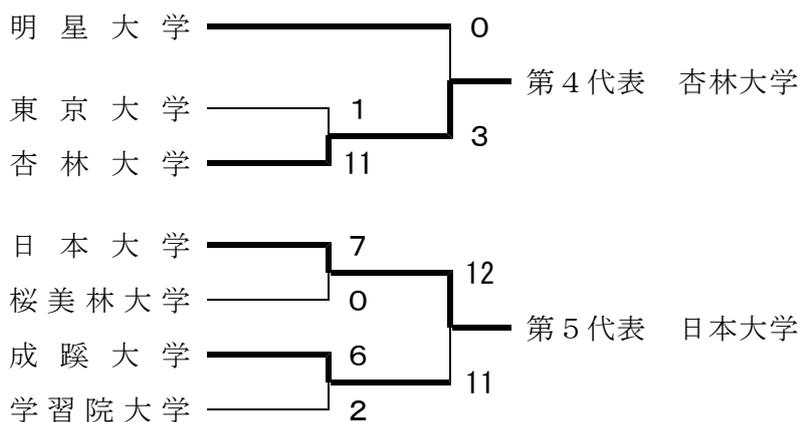
明治大(2部6位) 8-1 桜美林大(3部1位) = 明治大は2部残留

☆女子1部・2部

国士舘大(1部6位) 7-0 学習院大(2部1位) = 国士舘大は1部残留

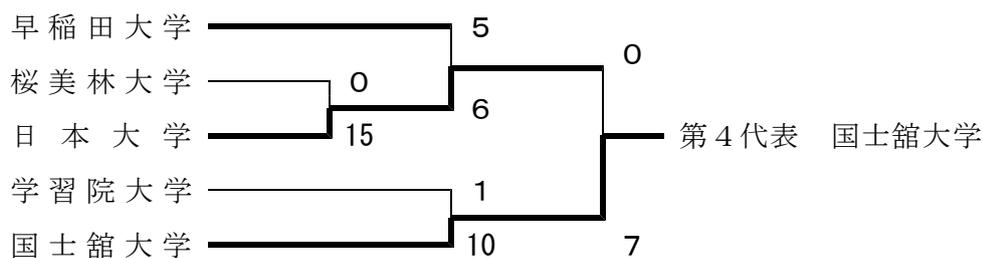
文部科学大臣杯第38回全日本大学選手権東京都予選

【男子】



なお、東京地区の第38回全日本大学選手権大会出場チームは、上記以外に、全日本学連推薦(前年度優勝)で日本体育大学、第1・第2・第3代表は東京都学連推薦で国士舘大学・早稲田大学・中央大学である。

【女子】



なお、東京地区の第38回全日本大学選手権大会出場チームは、上記以外に、全日本学連推薦（前年度優勝）で東京女子体育大学、第1・第2・第3代表は東京都学連推薦で日本体育大学・東京学芸大学・日本女子体育大学である。

平成15年度第35回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子1部

順位	大学名	日体	早稲田	国士舘	中央	明星	日本	勝敗分
優勝	日本体育大	—	○ 2-0	○ 7-0	○ 7-5	○ 14-0	○ 10-0	5・0・0
第2位	早稲田大	● 0-2	—	○ 6-0	○ 4-1	○ 5-0	○ 14-0	4・1・0
第3位	国士舘大	● 0-7	● 0-6	—	● 0-3	○ 12-0	○ 10-0	2・3・0
第4位	中央大	● 5-7	● 1-4	○ 3-0	—	● 4-6	○ 4-0	2・3・0
第5位	明星大	● 0-14	● 0-5	● 0-12	○ 6-4	—	○ 9-0	2・3・0
第6位	日本大	● 0-10	● 0-14	● 0-10	● 0-4	● 0-9	—	0・5・0

男子2部

順位	大学名	明治	東京	杏林	学習院	東農	成蹊	勝敗分
優勝	明治大	—	○ 6-2	○ 2-1	○ 10-0	○ 12-1	△ 7-7	4・0・1
第2位	東京大	● 2-6	—	○ 3-2	○ 5-4	● 4-9	○ 4-2	3・2・0
第3位	杏林大	● 1-2	● 2-3	—	○ 12-5	○ 10-2	● 5-10	2・3・0
第4位	学習院大	● 0-10	● 4-5	● 5-12	—	○ 9-2	○ 5-3	2・3・0
第5位	東京農業大	● 1-12	○ 9-4	● 2-10	● 2-9	—	○ 9-0	2・3・0
第6位	成蹊大	△ 7-7	● 2-4	○ 10-5	● 3-5	● 0-9	—	1・3・1

※3位～5位は直接対決による。

男子3部

順位	大学名	桜美林	東洋	専修	一橋	慶應	ICU	勝敗分
優勝	桜美林大		● 1-10	○ 11-1	○ 5-2	○ 12-4	○ 6-3	4・1・0
第2位	東洋大	○ 10-1		● 6-7	● 2-11	○ 8-1	○ 11-2	3・2・0
第3位	専修大	● 1-11	○ 7-6		○ 18-4	△ 7-7	△ 9-9	2・1・2
第4位	一橋大	● 2-5	○ 11-2	● 4-18		○ 14-6	● 4-6	2・3・0
第5位	慶應義塾大	● 4-12	● 1-8	△ 7-7	● 6-14		○ 7-3	1・3・1
第6位	ICU	● 3-6	● 2-11	△ 9-9	○ 6-4	● 3-7		1・3・1

※5位、6位は直接対決による。

男子4部

順位	大学名	東経	帝京	武蔵工	学芸	日歯	文教	勝敗分
優勝	東京経済大		○ 21-6	○ 15-5	○ 19-18	○ 31-2	○ 15-3	5・0・0
第2位	帝京大	● 6-21		● 5-15	○ 7-0	○ 15-6	○ 16-7	3・2・0
第3位	武蔵工業大	● 5-15	○ 15-5		● 3-23	△ 15-15	○ 12-0	2・2・1
第4位	東京学芸大	● 18-19	● 0-7	○ 23-3		● 11-12	○ 17-11	2・3・0
第5位	日本歯科大	● 2-31	● 6-15	△ 15-15	○ 12-11		● 9-14	1・3・1
第6位	文教大湘南	● 3-15	● 7-16	● 0-12	● 11-17	○ 14-9		1・4・0

女子1部

順位	大学名	日体	東女体	学芸	国士館	日女体	早稲田	勝敗分
優勝	日本体育大		△ 1-1	△ 1-1	○ 6-0	○ 3-2	○ 8-1	3・0・2
第2位	東女体大	△ 1-1		○ 1-0	● 3-5	○ 7-0	○ 7-0	3・1・1
第3位	東京学芸大	△ 1-1	● 0-1		○ 1-0	○ 8-3	○ 9-0	3・1・1
第4位	国士館大	● 0-6	○ 5-3	● 0-1		○ 3-1	○ 10-3	3・2・0
第5位	日女体大	● 2-3	● 0-7	● 3-8	● 1-3		○ 8-3	1・4・0
第6位	早稲田大	● 1-8	● 0-7	● 0-9	● 3-10	● 3-8		0・5・0

※2位、3位は直接対決による。

女子2部

順位	大学名	日本	学習院	成蹊	中央	創価	明治	勝敗分
優勝	日本大	○	○	○	○	○	○	5・0・0
第2位	学習院大	●	○	○	○	○	○	4・1・0
第3位	成蹊大	●	●	○	○	○	○	3・2・0
第4位	中央大	●	●	●	○	○	○	2・3・0
第5位	創価大	●	●	●	●	○	○	1・4・0
第6位	明治大	●	●	●	●	●	○	0・5・0

女子3部

順位	大学名	桜美林	ICU	明星	杏林	専修	勝敗分
優勝	桜美林	○	○	○	○	○	4・0・0
第2位	ICU	●	○	○	○	○	3・1・0
第3位	明星大	●	●	○	○	○	2・2・0
第4位	杏林大	●	●	●	○	○	1・3・0
第5位	専修大	●	●	●	●	○	0・4・0

第35回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦入れ替え戦

☆男子1部・2部

日本大(1部6位) 1-6 明治大(2部1位) = 明治大は1部昇格

☆男子2部・3部

成蹊大(2部6位) 2-9 桜美林大(3部1位) = 桜美林大は2部昇格

☆男子3部・4部

国際基督教大(3部6位) 10-1 東京経済大(4部1位) = ICUは3部残留

☆女子1部・2部

早稲田大(1部6位) 0-7 日本大(2部1位) = 日本大は1部昇格

☆女子2部・3部

明治大(2部6位) 6-3 桜美林大(3部1位) = 明治大は2部残留

【東海地区】

東海テレビ杯

平成15年度春季第52回東海地区大学（男子）ソフトボールリーグ戦

会期：平成15年5月3日・4日・5日・10日

会場：愛知県豊田市運動公園ソフトボール場

1. 一部リーグ戦対戦成績

チーム	常葉	中京	愛知	中院	聖徳	愛院	勝	分	敗	失	順
常葉学園		● 4-8	○ 16-3	○ 5-3	● 1-2	○ 5-4	3	0	2		2位
中京	○ 8-4		● 6-8	○ 12-2	○ 14-12	○ 5-2	4	0	1		優勝
愛知	● 3-16	○ 8-6		○ 7-5	● 2-6	● 5-11	2	0	3	22	6位
中京学院	● 3-5	● 2-12	● 5-7		○ 7-3	○ 7-6	2	0	3	16	5位
岐阜聖徳	○ 2-1	● 12-14	○ 6-2	● 3-7		● 2-4	2	0	3	13	3位
愛知学院	● 4-5	● 2-5	○ 11-5	● 6-7	○ 4-2		2	0	3	14	4位

※3～6位は、リーグ戦規定により、当該チーム間での失点の少ない方が上位

2. 二部リーグ戦対戦成績

・予選リーグ戦

・順位決定リーグ戦

A	愛教	名城	東学	順
愛知教育		○ 6-4	○ 6-0	1
名城	● 4-6		● 3-8	3
東海学園	● 0-6	○ 8-3		2

1～3位	愛教	静岡	名古屋	順
愛知教育		△ 8-8	● 5-6	3位
静岡	△ 8-8		○ 5-3	優勝
名古屋	○ 6-5	● 3-5		2位

B	静岡	南山	朝日	順
静岡		○ 11-8	○ 26-1	1
南山	● 8-11		○ 28-2	2
朝日	● 0-12	● 2-28		3

4～7位	東学	南山	日福	順
東海学園		○ 12-1	● 1-2	4位
南山	● 1-12		○ 10-4	6位
日本福祉	○ 2-1	● 4-10		5位

※失点の少ない方が上位

C	名古屋	日 福	みずほ	順	7～9位	名 城	朝 日	みずほ	順
名 古 屋	○	○	○	1	名 城	○	○	○	7 位
日 本 福 祉	●	○	○	2	朝 日	●	●	●	9 位
み ず ほ	●	●	○	3	み ず ほ	●	○	○	8 位

### 3. 個人表彰選手

最優秀選手賞：樋口 恭輔（中京大 4年）

敢闘選手賞：鈴木悠一郎（常葉学園大 3年）

優秀選手賞：西村 晃一（静岡大 4年）

一部首位打者賞：鈴木悠一郎（常葉学園大 4年）打率5割0分0厘

二部首位打者賞：松井 孝則（名城大 4年）打率8割0分0厘

ベストナイン：投 手 仲佐 秀則【②】（中京大 4年）

捕 手 山崎 良【②】（常葉学園大 3年）

一 塁 手 鈴木悠一郎【②】（常葉学園大 4年）

二 塁 手 田中紘一郎【②】（中京大 3年）

三 塁 手 伊藤健一郎【②】（岐阜聖徳大 4年）

遊 撃 手 清水 雅仁【初】（中京大 2年）

外 野 手 樋口 恭輔【②】（中京大 4年）

外 野 手 町田 伸哉【初】（常葉学園大 2年）

外 野 手 水口 祐介【初】（岐阜聖徳大 3年）

指名打者 堀部 浩司【初】（愛知学院大 3年）

### 4. 大学選手権第3代表決定戦

岐阜聖徳学園大学（一部3位）9－2静岡大学（二部1位）

※インカレ出場権獲得校：中京大学・常葉学園大学・岐阜聖徳学園大学

### 5. 入れ替え

一部6位の愛知大学は二部へ、二部優勝の静岡大学は一部へ自動入れ替え

### 6. 講評

1部は中京大学が2季ぶり37度目の優勝を飾った。混戦の続く東海地区リーグ戦であるが、全試合に登板し、点をとられながらも緩急を使った丁寧なピッチングを続けた仲佐秀則投手、また主将であり、先頭バッターとしてチームの牽引者として活躍した樋口恭輔選手を中心に総合力で勝ち抜いた。常葉学園大学は、同率で迎えた中京大学との事実上の優勝決定戦では先制をし、最高の形で試合をすすめたにもかかわらず、逆転を許して連覇を逃した。なお、創設以来参加している伝統校の愛知大学は初の2部降格となった。

2部は静岡大学が優勝を果たした。惜しくも大学選手権の出場権は逃したが、代表決定戦においても健闘した。秋季1部での活躍を期待したい。2部については、かつてに比べて実力差は縮小されてはきたが、まだまだ実力差のあるチームが混在している。どんどん練習試合を申し込んでほしい。（理事 紅林和博）

### 東海テレビ杯

#### 平成15年度春季第41回東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦

会期：平成15年5月3日・4日・5日・10日

会場：愛知県安城市総合運動公園ソフトボール場

#### 1. 一部リーグ戦対戦成績

チーム	中京	東学	東女	中院	中女	常葉	勝	分	敗	失	順
中京		○ 2-1	○ 5-0	○ 8-0	○ 11-1	○ 2-1	5	0	0	3	優勝
東海学園	● 1-2		● 3-5	○ 10-0	○ 8-5	○ 3-2	3	0	2	14	3位
東海女子	● 0-5	○ 5-3		○ 5-3	○ 4-0	○ 2-0	4	0	1	11	2位
中京学院	● 0-8	● 0-10	● 3-5		○ 3-2	● 0-5	1	0	4	30	5位
中京女子	● 1-11	● 5-8	● 0-4	● 2-3		● 2-4	0	0	5	30	6位
常葉学園	● 1-2	● 2-3	● 0-2	○ 5-0	○ 4-2		2	0	3	9	4位

#### 2. 女子二部リーグ戦結果

チーム	桜花	名城	日福	聖徳	愛教	名古屋	静岡	勝	敗	順
桜花学園		○ 20-0	○ 18-3	○ 16-1	○ 15-0	* *	* *	4	0	優勝
名城	● 0-20		● 2-12	● 6-8	* *	* *	* *	0	3	7位
日本福祉	● 3-18	○ 12-2		○ 6-5	* *	* *	○ 15-3	3	1	3位
岐阜聖徳	● 1-16	○ 8-6	● 5-6		* *	● 13-14	* *	1	3	6位
愛知教育	● 0-15	* *	* *	* *		○ 16-3	○ 8-2	2	1	2位
名古屋	* *	* *	* *	○ 14-13	● 3-16		● 10-14	1	2	5位
静岡	* *	* *	● 3-15	* *	● 2-8	○ 14-10		1	2	4位

※\*のない欄は予選リーグ戦であり。\*のある欄は、順位決定戦である。

#### 3. 表彰選手

最優秀選手賞：宮崎 麻衣（中京大 4年）

敢闘選手賞：竹澤 苑美（東海女子大3年）

優 秀 選 手 賞：倉知由加利（桜花学園大4年）

一部首位打者賞：奥村 理代（中京大 3年） 打率6割2分5厘

二部首位打者賞：羽佐田彩乃（桜花学園大1年） 打率8割0分0厘

ベストナイン：投 手 東 瑠璃【②】（中京大 2年）

捕 手 中川 恵【初】（東海女子大2年）

一 塁 手 西村 梓【②】（中京大 3年）

二 塁 手 小島 愛弓【②】（中京大 2年）

三 塁 手 近藤 真代【③】（中京大 4年）

遊 撃 手 宮崎久美子【初】（東海学園大2年）

外 野 手 佐藤 和香【②】（中京大 4年）

外 野 手 奥村 理代【④】（中京大 3年）

外 野 手 門田 真美【初】（東海女子大2年）

指名打者 今井 美幸【初】（東海女子大1年）

※宮崎久美子選手は指名打者で1回受賞

#### 4. 大学選手権第4代表決定戦

桜花学園大学（二部1位）15-1 中京学院大学（一部5位）

※インカレ出場権獲得校：中京大学・東海女子大学・常葉学園大学・桜花学園大学

なお、東海学園大学は前年度準優勝で推薦出場

#### 5. 入れ替え

一部6位の中京女子大学は二部へ、二部優勝の桜花学園大学は一部へ自動入れ替え

#### 6. 講評

今春季のリーグ戦は、昨年インカレ準優勝の東海学園大学に加えて、古豪中京大学と実力校東海女子大学の3チームによる三つ巴の展開が予想された。まず、二日目第1試合で東海学園大学が東海女子大学にうち負けて一步後退し、三日目に中京大学の打棒が爆発して東海女子大学を敗った。最終日には、東海学園大学が最終回まで中京大学に食い下がったが、あと1本が出なくて涙を吞んだ。結局は、投手力を中心にして完璧な守備力を誇る中京大学の2季連続25回目の優勝で、リーグ戦は終了した。アジア選手権代表2名を有する東海学園大学は3位に後退したが、夏のインカレまでには推薦出場校としての活躍を期待したい。また、一部下位3チームで特筆されるのは、常葉学園大学の健闘であった。失点は一桁の9であり、これは優勝した中京大学に次ぐものであった。久々の12年ぶり2回目のインカレ出場であり、その明るさと元気で活躍を期待したい。なお、一部6位に甘んじた中京女子大学は、自動的に2部降格となった。同校は第1回リーグ戦優勝校であり、若いチームでもあるので、伝統校の復活を祈念したい。

一方、二部リーグ戦は、桜花学園大学の独壇場であった。すべての試合を二桁得点・ワールドゲームで快勝し、最終日のインカレ第4代表決定戦も毎回得点の大勝で一部5位の中京学院大学を下してインカレ出場権を昨年に続いて獲得した。他の6チームには、大きな差は感じられなかったが、大差の試合が見受けられたのは、投手ばかりでなく守備力の差からのものと思われた。外野からの中継・カットプレイと走者がいる時の内野手の連係プレーを特に練習してもらいたい。最後に、素晴らしい専用球場をご用意くださった開催地安城協会に対し、関係者を代表して御礼申し上げます。（理事長 水谷 博）

東海テレビ杯

平成15年度秋季第53回東海地区大学（男子）ソフトボールリーグ戦

会期：平成15年10月10日・11日・25日・26日

会場：愛知県刈谷市双葉グラウンド

一部リーグ戦対戦成績

チーム	中京	常葉	聖徳	愛学	中学	静岡	勝	分	敗	失	順
中京		● 4-8	○ 12-5	● 0-7	○ 17-4	○ 4-3	3	0	2	27	3位
常葉学園	○ 8-4		○ 6-4	○ 9-4	● 2-6	○ 10-0	4	0	1	18	優勝
岐阜聖徳	● 5-12	● 4-6		○ 7-6	● 3-11	○ 7-4	2	0	3	39	5位
愛知学院	○ 7-0	● 4-9	● 6-7		○ 9-8	○ 9-3	3	0	2	27	2位
中京学院	● 4-17	○ 6-2	○ 11-3	● 8-9		● 1-3	2	0	3	34	4位
静岡	● 3-4	● 0-10	● 4-7	● 3-9	○ 3-1		1	0	4	31	6位

※2位と3位、4位と5位は当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

二部リーグ戦対戦成績

・予選リーグ戦

・順位決定リーグ戦

A	愛知	南山	名城	順
愛知		● 0-8	○ 7-4	2
南山	○ 8-0		○ 12-2	1
名城	● 4-7	● 2-12		3

1~3位	愛教	名古屋	名古屋	順
南山		● 3-7	○ 5-1	2位
名古屋	○ 7-3		○ 10-4	優勝
東海学園	● 1-5	● 4-10		3位

B	名古屋	日福	みずほ	順
名古屋		○ 9-7	○ 14-3	1
日本福祉	● 7-9		○ 12-0	2
みずほ	● 3-14	● 0-12		3

4~7位	愛知	日福	愛教	順
愛知		● 3-13	○ 8-6	5位
日本福祉	○ 13-3		○ 2-0	4位
愛知教育	● 6-8	● 0-2		6位

C	愛教	東学	朝日	順	7～9位	名城	みずほ	朝日	順
愛知教育	●	○	○	2	△	○	○	7	
	7-10	10-6			13-13	13-3		位	
東海学園	○	●	○	1	△	●	●	9	
	10-7	22-4			13-13	8-12		位	
朝日	●	●	○	3	●	○	○	8	
	6-10	4-22			3-13	12-8		位	

1部2部入れ替え戦

静岡大学（1部6位）10-0名古屋大学（2部1位） ※静岡大学は1部残留

個人表彰

- 最優秀選手賞：鈴木 悠一郎（常葉学園大学4年）
- 敢闘選手賞：加藤 啓治（愛知学院大学3年）
- 優秀選手賞：恒吉 達也（名古屋大学3年）
- 一部首位打者賞：関山 真一（愛知学院大学3年） 5割4分5厘
- 二部首位打者賞：森 佑介（日本福祉大学4年） 6割0分0厘
- ベストナイン：投手：加藤 啓治【初】（愛知学院大学3年）
- 捕手：山崎 良【③】（常葉学園大学3年）
- 一塁手：萩原 学【初】（中京大学1年）
- 二塁手：田中 紘一郎【③】（中京大学3年）
- 三塁手：小堀 範行【初】（中京大学3年）
- 遊撃手：長沢 周一【初】（岐阜聖徳学園大学2年）
- 外野手：鈴木 悠一郎【③】（常葉学園大学4年）
- 外野手：楨田 直也【初】（中京学院大学1年）
- 外野手：堀部 浩司【②】（愛知学院大学3年）
- DPDEF0：山口 啓太【初】（中京学院大学2年）

講評

1日は雨による順延があったものの、他の4日間は秋の好天に恵まれ、学生らしい澁刺としたプレイが随所に展開されたリーグ戦であった。1部リーグ戦は常葉学園大学が3季ぶり3回目の優勝を飾り、来年の地元静岡県で開催されるインカレに向けて大いに弾みをつけた。2位の愛知学院大学は、最終日に敗れて第2回リーグ戦以来の優勝を逃したが、このところ確実に力をつけてきており、投手力のいっそうの強化があれば優勝も夢ではないであろう。今季もまた全敗チームがなく、混戦が続いているが、全国を見据えた競技力の向上のためには何と言っても投手力を中心とした守備力と日本体育大学のようなひとつ先の塁を常にねらう積極的な走力の強化が急務である。

2部リーグ戦も順位に大きな変動があり、混戦が続いているが、やや上位チームと下位チームの二極化が感じられる。3部制の導入も検討課題であろう。また、入れ替え戦で2部優勝の名古屋大学が1部最下位の静岡大学にコールドゲームで大敗したことに示されるように、1部と2部の差も大きいように感じられた。2部チームに特に求められるのは、投手力はもとよりすべての面でのスピードアップであろう。（理事長 水谷 博）

東海テレビ杯

平成15年度秋季第42回東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦

会期：平成15年10月4日・5日・11日・12日

会場：愛知県高浜市碧海グラウンド

一部リーグ戦対戦成績

チーム	中京	東女	東学	常葉	中学	桜花	勝	分	敗	失	順
中京		● 2-3	● 0-3	○ 4-2	○ 14-1	○ 4-1	3	0	2	10	2位
東海女子	○ 3-2		○ 6-0	○ 5-1	○ 8-1	● 0-1	4	0	1	5	優勝
東海学園	○ 3-0	● 0-6		● 3-5	○ 6-3	● 1-2	2	0	3	16	5位
常葉学園	● 2-4	● 1-5	○ 5-3		○ 4-2	○ 5-3	3	0	2	17	3位
中京学院	● 1-14	● 1-8	● 3-6	● 2-4		● 3-4	0	0	5	36	6位
桜花学園	● 1-4	○ 1-0	○ 2-1	● 3-5	○ 4-3		3	0	2	13	4位

※2～4位は、リーグ戦規程により、直接の対戦での勝者が上位

二部リーグ戦対戦成績

チーム	中女	日福	名古屋	名城	愛教	静岡	聖徳	勝	敗	順
中京女子		○ 7-5	○ 5-3	○ 15-0	* *	* *	○ 13-0	4	0	優勝
日本福祉	● 5-7		● 0-3	○ 13-0	* *	○ 10-6	* *	2	2	5位
名古屋	● 3-5	○ 3-0		○ 7-6	● 8-10	* *	* *	2	2	4位
名城	● 0-15	● 0-13	● 6-7		* *	* *	* *	0	3	7位
愛知教育	* *	* *	○ 10-8	* *		○ 2-1	● 4-6	2	1	3位
静岡	* *	● 6-10	* *	* *	● 1-2		● 4-7	0	3	6位
岐阜聖徳	● 0-13	* *	* *	* *	○ 6-4	○ 7-4		2	1	2位

※\*のない欄は予選リーグ戦であり。\*のある欄は、順位決定戦である。

1部2部入れ替え戦

中京女子大学（2部1位）6-5中京学院大学（1部6位）

※中京女子大学は1部昇格、中京学院大学は2部降格

## 個人表彰

最優秀選手賞：門 田 真 美（東海女子大 2年）  
 敢闘選手賞：毛 利 彩 乃（中 京 大 2年）  
 優秀選手賞：西 尾 幸 子（中京女子大 2年）  
 一部首位打者賞：児 島 沙 和（中京学院大 1年） 打率5割7分1厘  
 二部首位打者賞：座間味 瞳（中京女子大 2年） 打率8割8分9厘  
 ベストナイン：投 手 竹 澤 苑 美【初】（東海女子大 3年）  
                   捕 手 中 川 恵【②】（東海女子大 2年）  
                   一 塁 手 長 澤 陽 子【初】（東海女子大 3年）  
                   二 塁 手 高 山 奈 弥【②】（東海学園大 2年）  
                   三 塁 手 鈴 木 里 佳【初】（中 京 大 1年）  
                   遊 撃 手 鈴 木 優 子【②】（中 京 大 2年）  
                   外 野 手 門 田 真 美【②】（東海女子大 2年）  
                   外 野 手 奥 村 理 代【⑤】（中 京 大 3年）  
                   外 野 手 土 屋 優 海【初】（桜花学園大 3年）  
                   DP・DEFO 石 川 佳奈子【初】（常葉学園大 4年）

## 講評

1部リーグ戦の展開は、中京大・東海女子大・東海学園大の上位3校と常葉学園大・中京学院大・桜花学園大の下位3校に分かれるものと予想されたが、3日目桜花学園大が東海学園大をサヨナラ勝ちで破ってから、一転して波乱の展開となった。この日、桜花学園大は東海女子大にも勝利し、中京大が東海学園大に敗れて全勝チームは姿を消した。中京学院大の最下位を除いて、最終試合まで順位がまったく決定しないという混戦状態であった。結果的には、最終試合において東海女子大が中京大を逆転の3対2で下し、3季ぶり13回目の優勝を飾ったが、常葉大学は初の3位を確保し、上位を喰った桜花学園大が4位、東海学園大は5位に甘んじた。全15試合を通じて完封試合は2割の3試合しかなく、華々しい打撃戦が目立った。その中で、優勝した東海女子大は失点が唯一桁の5点で、守りの堅さがこの結果をもたらしたと思われる。投捕間の距離やセットポジションの長さに打者が習熟し、長打の応酬は見るものを引きつけるが、やはり息詰まる投手戦はソフトボール競技の本質である。来年地元富士宮市で開催されるインカレを前にし、全国を征するためには、投手を中心にした守りの強化がいつそう重視されなければならないだろう。

一方2部リーグ戦は、このところ各チームとも確実に力を付けてきており、白熱した戦いが続けられた。中でもこれまで1部の伝統校であった中京女子大が総合力で一步抜き出していたが、決して抜群の力を有していたわけではなく、苦戦を強いられた試合も多かった。また、2部チームは順位の変動が激しい。これが2部の特徴でもある。その日の投手の調子や守備の破綻の有無によって得失点は大いに変動する。1部と同様に守備力の強化が当面の課題であろう。それにひとつ加えれば、走者のひとつ先の塁を積極的にねらう走力の向上が求められる。なお、入れ替え戦の結果は2部優勝の中京女子大が、1部6位の中京学院大を下して、一季で1部へ復帰を果たした。試合は中京学院大が1部校の貫禄で4対0と6回まで優位に進めたが、7回に中京女子大は一挙4点を上げてタイブレーカーに持ち込み、ここで2点を先行してその裏の守備を1失点に抑えて逃げ切り、粘りの昇格であった。（理事長 水谷 博）

## 【近畿地区】

### 平成15年度第35回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：4月6, 20, 27, 29日、5月3, 4, 5日

会場：万博公園スポーツ広場

#### 1部リーグ戦結果

1部	神院	龍谷	京都	経法	京産	立命	勝	敗	分	点	順
神戸学院		○ 5-2	● 6-7	○ 5-2	○ 8-6	○ 6-1	4	1	0	12	1
龍谷	● 2-5		○ 4-0	○ 4-2	○ 3-1	● 3-13	3	2	0	9	3
京都	○ 7-6	● 0-4		● 10-11	● 5-10	● 0-7	1	4	0	3	6
大阪経法	● 2-5	● 2-4	○ 11-10		○ 6-4	● 4-11	2	3	0	6	4
京都産業	● 6-8	● 1-3	○ 10-5	● 4-6		○ 3-2	2	3	0	6	5
立命館	● 1-6	○ 13-3	○ 7-0	○ 11-4	● 2-3		3	2	0	9	2

※神戸学院大学は6年ぶり5度目の優勝

※2位と3位、および4位と5位は当該チーム間勝ち点規定による。

※5位の京都産業大学は2部との入れ替え戦へ。6位の京都大学は自動的に2部に降格。

**1部総評** 2003年度の関西学生春季リーグ戦は、これまでとは大きく異なった結果となった。優勝は神戸学院大学（6年ぶり）。四方投手を中心に投打にまとまりがあり、文句なしの優勝であった。立命館大学は連敗スタートながらも3連勝し2位となり、また3位の龍谷大学も長池投手が力強い投球を見せて今後に期待の持てる内容であった。

一方で、5季連続優勝を果たしていた大阪経済法科大学はエースが抜けたことにより、打線による挽回でなんとか4位に食い込んだもののかなり苦しい戦いを強いられた。また、京都大学も最終戦に勝利して意地をみせたが最下位で2部降格となった。しかし、何と言っても最大の波乱は京都産業大学の5位、そして入れ替え戦での敗退による初の2部降格であろう。この1部からの2チーム降格により、秋季は1部、2部とも眼が離せない展開になりそうである。（事務次長 関西大学3年 佐藤紀夫）

#### 2部リーグ戦結果

2部A	関西	兵庫教育	大阪府立	佛教	大阪市立	勝	敗	分	点	順
関西		● 0-5	● 5-15	○ 7-3	○ 11-2	2	2	0	6	3
兵庫教育	○ 5-0		● 2-3	○ 9-2	○ 8-2	3	1	0	9	2
大阪府立	○ 15-5	○ 3-2		● 6-9	○ 3-0	3	1	0	9	1
佛教	● 3-7	● 2-9	○ 9-6		○ 8-3	2	2	0	6	4
大阪市立	● 2-11	● 2-8	● 0-3	● 3-8		0	4	0	0	5

※1位と2位、および3位と4位は、当該チーム間勝ち点規定による。

2部B	同志社	神戸	大阪	四天仏教	大阪体育	勝	敗	分	点	順
同志社		○4-0	●4-5	○13-3	○3-2	3	1	0	9	1
神戸	●0-4		●0-7	●2-3	●1-5	0	4	0	0	5
大阪	○5-4	○7-0		○8-4	●3-5	3	1	0	9	3
四天仏教	●3-13	○3-2	●4-8		●3-8	1	3	0	3	4
大阪体育	●2-3	○5-1	○5-3	○8-3		3	1	0	9	2

※1位、2位、3位は得失点差規定による。

2部優勝決定戦 同志社大学11-6大阪府立大学

※同志社大学は1部昇格、大阪府立大学は1部との入れ替え戦へ

2部9・10位決定戦 大阪市立大学9-3神戸大学

※神戸大学は自動的に3部に降格、大阪市立大学は3部との入れ替え戦へ

2部総評 2部Aブロックは3勝1敗で兵庫教育大学と大阪府立大学が並んだが、直接対決で勝利していた大阪府立大学が1位となった。昨季1部だった関西大学は課題だった投手力が整備されておらず、今大会での振り返りはならなかった。一方、Bブロックの優勝は最終戦の大阪大学と大阪体育大学の結果次第というところまでもつれたが、僅差で同志社大学が1位となった。3勝1敗が3チームという大混戦だった。

1部との入れ替え戦では、大阪府立大学が京都産業大学に勝利するという大金星をあげ、2部優勝を果たした同志社大学とともに昇格を果たした。また、9・10位決定戦に勝利した大阪市立大学であったが、3部2位の大阪経済大学に敗れ、神戸大学とともに3部降格となった。今大会も昇格、降格となった大学があるが、昇格を果たした大学はその勢いそのまま上位リーグで定着、さらには制覇を目指してほしい。そして、残念ながら降格してしまった大学は足りなかった部分は何なのかを早期に発見、改善して、次の大会で振り返りを果たしてもらいたい。(記録次長 神戸大学3年 中上泰貴)

### 3部リーグ戦結果

3部A	姫路獨協	大阪工業	京都学園	奈良教育	近畿	勝	敗	分	点	順
姫路獨協		●1-4	●0-7	●0-7	○18-15	1	3	0	3	4
大阪工業	○4-1		●0-1	○3-2	○10-0	3	1	0	9	2
京都学園	○7-0	○1-0		○6-5	○19-0	4	0	0	12	1
奈良教育	○7-0	●2-3	●5-6		○15-0	2	2	0	6	3
近畿	●15-18	●0-10	●0-19	●0-15		0	4	0	0	5

3部B	大阪産業	関西学院	甲南	和歌山	大阪経済	勝	敗	分	点	順
大阪産業		△1-1	○5-4	●16-18	●1-8	1	2	1	4	4
関西学院	△1-1		△3-3	○1-0	●0-7	1	1	2	5	3
甲南	●4-5	△3-3		●7-13	○15-9	1	2	1	4	5
和歌山	○18-16	●0-1	○13-7		●5-6	2	2	0	6	2
大阪経済	○8-1	○7-0	●9-15	○6-5		3	1	0	9	1

※4位と5位は、当該チーム間勝ち点規定による。

※3部優勝決定戦 京都学園大学4-1大阪経済大学

※京都学園大学は2部昇格、大阪経済大学は2部との入れ替え戦へ

**3部総評** 3部リーグは、新たに近畿大学と大阪産業大学の加盟により、5チームの2部ブロック編成で行われた。全体的に昨年に比べて、各大学ともレベルアップしていた。一方的なゲームが少なくなり、見所のあるゲームが多かった。中でも、昨季に全敗を喫した大学が2部昇格を果たしたことから、裏を返せば、各大学に昇格のチャンスがあるということだろう。

Aブロックは、打線の繋がりと投手を含めた堅実な守備で総合力に勝る京都学園大学がブロック1位となり、勢いそのままにBブロック1位の大阪経済大学を破り、3部優勝・2部昇格を果たした。残念ながら3部2位となった大阪経済大学だったが、入れ替え戦で見事に勝利し、念願の2部昇格を果たした。来季はこの2大学の2部での活躍を大いに期待したい。このように、2部・3部の力の差が確実に小さくなってきているので、各大学とも今以上のレベルアップに努めてもらい、しいてはそれが関西リーグ全体の底上げ・活性化につながればと思う。

**入れ替え戦** 1部－2部：京都産業大学（1部5位）6－11 大阪府立大学（2部2位）

※大阪府立大学は1部昇格

2部－3部：大阪市立大学（2部9位）6－15 大阪経済大学（3部2位）

※大阪経済大学は2部昇格

**平成15年度第35回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）**

会期：平成15年4月13・19・20・27・29日、5月3・4・5日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・兵庫教育大学・京都女子大学

**1部対戦成績**

1部	龍谷	大谷	親和	国際	立命館	関外	園田	大体	順
龍谷	○	○	○	○	○	○	●	○	1
大谷女子	●	○	○	●	○	○	○	○	3
神戸親和	●	●	○	●	○	○	○	○	4
大阪国際	●	○	○	○	○	○	○	○	2
立命館	●	●	●	●	○	○	●	○	6
関西外語	●	●	●	●	●	○	○	●	8
園田学園	○	●	●	●	○	●	○	○	5
大阪体育	●	●	●	●	●	○	●	○	7

※1・2位並びに7・8位は当該チームの対戦成績により順位を決定しました。

### 1 部個人表彰

打撃成績				投手成績			
順位	氏名	大学	打率	順位	氏名	大学	防御率
首位	吉澤 由佳	大阪体育大	.588	最優秀	松村 歩	大阪国際大	0.38
2位	下家 一恵	大谷女子大	.500	2位	中川 千明	神戸親和女子大	0.52
2位	千葉 優子	龍谷大	.500	3位	中小路 梓	立命館大	0.62
4位	阿部 環	神戸親和女子大	.444	4位	金子 直美	園田学園女子大	0.75
5位	寺脇 梢恵	園田学園女子大	.388	5位	杉村 宏美	龍谷大	1.28
6位	生田 有佳	神戸親和女子大	.368	大学 氏名 守備位置			
7位	小西 美加	龍谷大	.363	ベ	龍谷大	金田 恵美	左翼手
8位	中務 典子	大阪国際大	.333	ス	大阪国際大	藤田 恵	中堅手
8位	上田 玲	大阪国際大	.333	ト	大谷女子大	佐久間 彩	三塁手
8位	榎本 亜希	園田学園女子大	.333	プ	神戸親和女子大	松本 里菜	遊撃手
盗塁賞	中村 祥子	大谷女子大	4	レ	園田学園女子大	浅野 由華	一塁手
	外薗 麻衣	立命館大	4	イ	立命館大	瀬戸 昌恵	右翼手
				賞	大阪体育大	高橋みどり	遊撃手
					関西外国語大	小畑 雅世	二塁手
ホームラン賞	辻 佑未子	龍谷大	3				

### 2 部対戦成績表

2部	武庫川	天理	成蹊	四天・府	勝	敗	分	順
武庫川		○11-4	○12-0	○9-0	3	0	0	1
天理	●4-11		○11-2	○11-2	2	1	0	2
大阪成蹊	●0-12	●2-11		○9-6	1	2	0	3
四天王寺・府立	●0-9	●2-11	●6-9		0	3	0	4

### 2 部個人表彰

打撃成績				投手成績			
順位	氏名	大学	打率	順位	氏名	大学	防御率
首位	正井 聡子	天理大	.555	最優秀	西口 有紀	武庫川女大	2.56
2位	伊藤 歩	武庫川女子大	.500	2位	中野 美紅	大阪成蹊女	3.89
3位	長澤 由美	大阪成蹊女短	.478	3位	岸田 真衣	天理大	5.43
4位	鈴木登紀子	大阪成蹊女短	.458	ベストプレイ賞			
5位	船田由香理	天理大	.400	大学 氏名 守備位置			
5位	那須 野花	府立・四天王	.400	武庫川女子大	田中ひとみ	捕手	
7位	山下みゆ紀	武庫川女子大	.380	天理大	岸田 真衣	内野手	
8位	康原 優子	武庫川女子大	.357	大阪成蹊女短大	浅海満衣子	投手	
8位	中島 千里	天理大	.357	府立・四天王寺	長島 涼子	投手	
10位	松田 彩子	天理大	.350				
10位	岩井 智子	大阪成蹊女短	.350				
10位	高倉このみ	府立・四天王	.350				

盗塁賞

高倉このみ 府立・四天王寺 7      那須 野花 府立・四天王寺 7

3部対戦成績表

3部	佛 教	兵庫教育	奈良教育	京都女子	勝	敗	分	順
佛 教		○11-0	○12-7	○16-12	3	0	0	1
兵庫教育	●0-11		○17-7	●7-11	1	2	0	3
奈良教育	●7-12	●7-17		●7-8	0	3	0	4
京都女子	●12-16	○11-7	○8-7		2	1	0	2

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打率
首位	小坂明日香	兵庫教育大	.590
2位	山本 佳世	兵庫教育大	.521
2位	青木 麻衣	佛教大	.521
4位	高見 暢子	兵庫教育大	.500
5位	秋田 真澄	兵庫教育大	.473
6位	大橋 歩美	奈良教育大	.470

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀	山城 仁美	佛教大	1.11
2位	岸谷 優子	兵庫教育大	3.99
3位	川嶋めぐみ	佛教大	5.73

7位 比留田真由 佛教大 .454  
 8位 石井 香 京都女子大 .440  
 9位 中澤さやか 京都女子大 .400  
 9位 高畑 愛 佛教大 .400

盗塁賞

島村 果苗 奈良教育大 7

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
佛教大	西 美帆子	二塁手
京都女子大	厚東 証子	外野手
兵庫教育大	谷口 陽子	外野手
奈良教育大	吉岡 千晶	投手

リーグ戦総評

関西春季リーグ戦はインカレ予選も兼ねるため、リーグ戦の試合内容は毎年激戦が展開されている。また、本年度は出場数が4大学と昨年より1大学減となり、インカレ出場を目指すチームはいかにして4位以内に入るか、その戦い方が注目された。さらに、各大学部員数の減少に伴い、関西リーグとしては初めて合同チームがリーグ戦に参加した。1部リーグ戦前の予想では、園田学園女子大学、龍谷大学、大阪国際大学が有利に試合を進めていくものと思われた。優勝は6勝1敗で投打のバランスがかみ合った龍谷大学、2位には残念ながら直接対決で負けた大阪国際大学であった。3位以下は混戦模様となり、3位に大谷女子大学、4位に神戸親和女子大学、5位に園田学園女子大学、順に、立命館大学、大阪体育大学、関西外国語大学であった。園田学園女子大学は、リーグ初戦の関西外国語大学との敗戦がその後の試合にも影響し、インカレに出場することが出来なかった。2部リーグは予想通り圧勝で武庫川女子大学が優勝し、2位には近年実力がついてきた天理大学、3位は大阪成蹊女子短期大学、4位は四天王寺国際仏教大学と大阪府立大学の合同チームであった。3部は打撃戦となり、打ち勝った佛教大学が優勝し、2位には京都女子大学、3位は兵庫教育大学、4位は奈良教育大学という結果であった。近年、2・3部チームも力をつけてきており、今後が楽しみな関西リーグである。

(大阪国際大学 久保田豊司)

## 平成15年度第35回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：9月28日，10月5，12，19，26，11月2，9日

会場：万博公園スポーツ広場

### 1部リーグ戦結果

1部	同志社	経法	神戸	立命館	府立	龍谷	勝	敗	分	点	順
同志社	●	●	●	○	●		1	4	0	3	5
大阪経法	○		○	●	●	●	2	3	0	6	3
神戸学院	○	●		●	○	●	2	3	0	6	4
立命館	○	○	○		○	○	5	0	0	15	1
大阪府立	●	○	●	●		●	1	4	0	3	6
龍谷	○	○	○	●	○		4	1	0	12	2

※立命館大学は4年ぶり6度目の優勝

※3位と4位、及び5位と6位は当該チーム間勝ち点規定による。

※5位の同志社大学は2部との入れ替え戦へ。6位の大阪府立大学は自動的に2部に降格。

**1部総評** 2003年度の関西学生ソフトボール秋季リーグ戦は突出したチームがなく、全体的に混戦となった。そんな中で、全勝優勝を果たした立命館大学は少ない人数ながらもバランスのとれた好チームであり、久々のリーグ制覇となった。

2位以下は非常にもつれたが、長池投手の踏ん張りで龍谷大学が2位に入り、2勝3敗同士で大阪経済法科大学が3位、神戸学院大学が4位となった。また、同志社大学、大阪府立大学は今季からの1部昇格であったが、残念ながら戦力の差を感じた。結局、同志社が入れ替え戦にまわり、大阪府立は2部へ自動降格となった。

今季のリーグはチームの入れ替え（新チームへの移行）があったためか、ハイレベルな戦いが見られなかったのが非常に残念である。春には各チームが素晴らしソフトボールを見せてくれることを強く期待する。（学生委員長 関西大学3年 佐藤紀夫）

### 2部リーグ戦結果

2部A	京都学園	大阪経済	京都産業	兵庫教育	佛教	勝	敗	分	点	順
京都学園		○ 3-0	○ 2-1	● 0-1	○ 2-0	3	1	0	9	1
大阪経済	● 0-3		● 0-10	● 6-15	● 2-3	0	4	0	0	5
京都産業	● 1-2	○ 10-0		○ 5-0	○ 6-0	3	1	0	9	2
兵庫教育	○ 1-0	○ 15-6	● 0-5		● 11-12	2	2	0	6	4
佛教	● 0-2	○ 3-2	● 0-6	○ 12-11		2	2	0	6	3

※1位と2位、および3位と4位は当該チーム間勝ち点規定による。

2部B	大阪体育	関西	大阪	四天王	京都	勝	敗	分	点	順
大阪体育		○ 7-5	● 0-7	○ 9-2	● 0-5	2	2	0	6	4
関西	● 5-7		○ 3-2	○ 6-0	● 0-7	2	2	0	6	3
大阪	○ 7-0	● 2-3		○ 4-0	● 0-2	2	2	0	6	2
四天王	● 2-9	● 0-6	● 0-4		● 0-10	0	4	0	0	5
京都	○ 5-0	○ 7-0	○ 2-0	○ 10-0		4	0	0	12	1

※2位、3位、4位は得失点差規定による。

2部優勝決定戦 京都学園大学（A 1位）0-6 京都大学（B 1位）

※京都大学は1部昇格、京都学園大学は1部との入れ替え戦へ

2部9・10位決定戦 大阪経済大学（A 5位）2-10 四天王寺国際仏教大学（B 5位）

※大阪経済大学は自動的に3部に降格、四天王寺国際仏教大学は3部との入れ替え戦へ

**2部総評** 今季の2部リーグは、各チームの実力が伯仲し、接戦になる試合が多かった。

Aブロックでは、京都学園大学と京都産業大学が3勝1敗で並んだが、直接対決を制していた京都学園大学が1位となった。京都学園大学は昨季3部からの昇格で、いきなりブロック優勝という大躍進を遂げた。昨季1部の京都産業大学は残念ながら1季での振り返りはならなかった。一方、Bブロックは京都大学が全勝で危なげなく1位を勝ち取った。

2部1・2位決定戦では、京都大学が京都学園大学を破り、見事1部振り返りを果たした。また、9・10位決定戦において破れた大阪経済大学は、1季のみで3部降格となってしまった。

今大会の2部は、投手がすばらしい投球を見せてくれた。特に、京都大学の藤本投手は全試合無失点という安定ぶりであった。来季以降、2部リーグの争いは、各チームのエースをどう打ち崩すかが、1部昇格の鍵になってきそうである。（運営部長 大阪大学3年 稲富 稔）

### 3部リーグ戦結果

3部A	関西学	和歌山	神戸	市立	獨協	奈良	勝	敗	分	点	順
関西学院		○ 12-6	● 4-5	○ 5-3	● 4-5	● 3-7	2	3	0	6	4
和歌山	● 6-12		● 4-13	● 5-7	● 6-10	● 6-13	0	5	0	0	6
神戸	○ 5-4	○ 13-4		○ 5-3	● 1-13	● 0-4	3	2	0	9	3
大阪市立	● 3-5	○ 7-5	● 3-5		● 4-7	● 7-17	1	4	0	3	5
姫路獨協	○ 5-4	○ 10-6	○ 13-1	○ 7-4		● 0-11	4	1	0	12	2
奈良教育	○ 7-3	○ 13-6	○ 4-0	○ 17-7	○ 11-0		5	0	0	15	1

3部B	大阪工業	近畿	甲南	大阪産業	流通科学	勝	敗	分	点	順
大阪工業		○10-0	○6-4	○7-0	○8-0	4	0	0	12	1
近畿	●0-10		●3-7	●4-14	●10-24	0	4	0	0	5
甲南	●4-6	○7-3		●1-5	●6-10	1	3	0	3	4
大阪産業	●0-7	○14-4	○5-1		●9-10	2	2	0	6	3
流通科学	●0-8	○24-10	○10-6	○10-9		3	1	0	9	2

**3部優勝決定戦** 奈良教育大学（A 1位）3-1 大阪工業大学（B 1位）

奈良教育大学は2部昇格、大阪工業大学は2部との入れ替え戦へ

**入れ替え戦**

1部-2部：同志社大学3-1 京都学園大学 ※同志社大学は1部残留

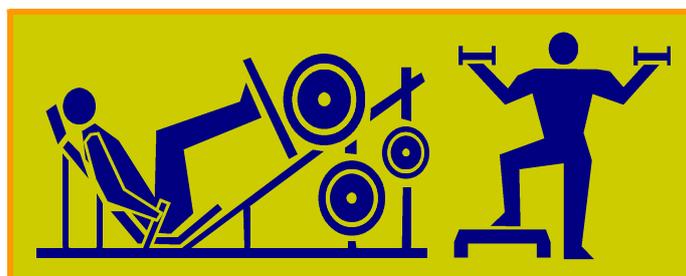
2部-3部：四天王寺国際仏教大学5-2 大阪工業大学

※四天王寺国際仏教大学は2部残留

**3部総評** 3部Aブロックでは奈良教育大学、Bブロックでは大阪工業大学がそれぞれ他のチームに力の差を見せつけてブロック優勝を果たし、ブロック決勝においては奈良教育大学が総合力で上回り、2部昇格を果たした。一方、2部・3部入れ替え戦に進んだ大阪工業大学は、2部の四天王寺国際仏教大学に敗れはしたものの、投手を中心としてまとまりがあり、今後に大いに期待が持てるチームであった。

また、前季まで2部であった大阪市立大学と神戸大学は、残念ながら2部に返り咲くことはできず、同じく前季3部から2部昇格を果たした大阪経済大学は、再び3部に降格となった。これらのチームには、次回春季リーグで意地を見せてもらいたい。

最後に、2部昇格を果たしたチームもそうでなかったチームも、今よりさらに上のレベルを目指してチームの向上に励み、実力を高め、3部リーグのレベルの向上並びに関西リーグの更なる活性化に努めてもらいたいと思う。（記録次長 神戸大学2年 木本真之）



平成15年度第35回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成15年9月14・15・20・21日、10月5・12・18・19日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・兵庫教育大学・京都女子大学

1部対戦成績

1部	親和	国際	立命館	園田	龍谷	大谷	大體	武庫川	順
神戸親和		● 2-4	● 1-2	○ 6-5	○ 2-1	○ 3-1	○ 4-0	○ 5-0	2
大阪国際	○ 4-2		○ 7-0	○ 5-1	○ 1-0	○ 7-0	○ 1-0	○ 3-0	1
立命館	○ 2-1	● 0-7		● 0-1	● 1-2	○ 6-5	○ 9-3	○ 3-0	5
園田	● 5-6	● 1-5	○ 1-0		○ 7-2	○ 8-1	○ 7-1	○ 2-0	3
龍谷	● 1-2	● 0-1	○ 2-1	● 2-7		○ 7-0	○ 6-0	○ 5-0	4
大谷	● 1-3	● 0-7	● 5-6	● 1-8	● 0-7		○ 6-1	○ 2-1	6
大阪体育	● 0-4	● 0-1	● 3-9	● 1-7	● 0-6	● 1-6		○ 3-0	7
武庫川	● 0-5	● 0-3	● 3-4	● 0-2	● 0-5	● 1-2	● 0-3		8

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
首位	前田 真美	神戸親和女子大	.533
2位	青木 朝香	立命館大	.481
3位	中村 祥子	大谷女子大	.473
4位	山根 輝美	立命館大	.454
4位	上田 玲	大阪国際大	.454
6位	瀬戸 晶恵	立命館大	.423
7位	松岡 奈々	大阪国際大	.360
8位	井上 友恵	大谷女子大	.352
9位	中務 典子	大阪国際大	.350
10位	松田 逸佳	龍谷大	.347
10位	千葉 優子	龍谷大	.347

ホームラン賞

前田 真美 神戸親和女子大 4本

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
最優秀	松村 歩	大阪国際大	0.47
2位	工藤みゆき	龍谷大	0.67
3位	井茂 麻由	神戸親和大	1.32
4位	宮原沙耶香	龍谷大	1.45
5位	金子 直美	園田学園大	1.63

大学 氏名 守備位置

ベ	大阪国際大学	宮 幸代	三塁手
ス	神戸親和女子大学	中元 巳喜	D P
ト	園田学園女子大学	榎本 亜希	捕手
プ	龍谷大学	櫻井あず沙	二塁手
レ	立命館大学	井村 智美	三塁手
イ	大谷女子大学	森川 憲子	投手
賞	大阪体育大学	近藤 恵子	投手
	武庫川女子大学	山下みゆ紀	二塁手

## 2部対戦成績表

2部	関西外大	天理	佛教	兵庫教育	勝	敗	分	順
関西外大		○10-1	○6-0	○8-0	3	0	0	1
天理	●1-10		○12-2	○6-0	2	1	0	2
佛教	●0-6	●2-12		●1-8	0	3	0	4
兵庫教育	●0-8	●0-6	○8-1		1	2	0	3

## 2部個人表彰

### 打撃成績

### 投手成績

順位	氏名	大学	打率	順位	氏名	大学	防御率
首位	高見 暢子	兵庫教育大学	.608	最優秀	後藤 渚	関西外国語大	2.75
2位	谷口 陽子	兵庫教育大学	.545	2位	二村香菜子	兵庫教育大	3.46
3位	高畑 愛	佛教大学	.500	3位	三島亜矢子	佛教大	4.60
4位	津波あやの	兵庫教育大学	.409	ベストプレイ賞			
4位	小坂明日香	兵庫教育大学	.409	大学 氏名 守備位置			
6位	玉利絵梨香	天理大学	.388	関西外国語大	大仲 千絵	投手	
7位	船田由香理	天理大学	.384	天理大	岸田 真衣	内野手	
8位	岩崎喜美江	佛教大学	.375	兵庫教育大	山本 佳世	内野手	
9位	橋本 里香	天理大学	.368	佛教大	比留田真由	捕手	
10位	北口 晶子	佛教大学	.360				

### 盗塁賞

北口 晶子 佛教大学 5 高畑 愛 佛教大学 5 小坂明日香 兵庫教育大学 5

## 3部対戦成績表

3部	京都女子	大阪府立	四天王寺	奈良教育	勝	敗	分	順
京都女子		○不戦勝	○14-2	○6-5	3	0	0	1
大阪府立	●不戦敗		○8-1	●不戦敗	1	2	0	4
四天王寺	●2-14	●1-8		○7-3	1	2	0	2
奈良教育	●5-6	○不戦勝	●3-7		1	2	0	3

※2・3・4位は、2試合棄権の大阪府立大が最下位、2・3位は当該チームの対戦成績により順位を決定しました。

## 3部個人表彰

### 打撃成績

順位	氏名	大学	打率	順位	氏名	大学	打率
首位	紅 能里子	京都女子大	.600	5位	湯田 恭子	京都女子大	.500
2位	濱崎かなえ	京都女子大	.588	7位	山中 尚子	大阪府立大	.437
3位	那須 野花	大阪府立大	.555	8位	山村 美和	京都女子大	.400
4位	長尾 梢	京都女子大	.533	9位	浦寄 加菜	京都女子大	.375
5位	中澤さやか	京都女子大	.500	10位	長島 涼子	大阪府立大	.368

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
最優秀	長島 涼子	大阪府立大	5.08
2位	山口 恵	四天王寺大	5.98
3位	濱崎かなえ	京都女子大	6.41

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
大阪府立大	田中美津子	内野手
奈良教育大	山本 朋絵	内野手
四天王寺大	遠藤 友美	内野手
京都女子大	長尾 梢	内野手

盗塁賞

高倉このみ 大阪府立大 8

リーグ戦総評

1部リーグの戦前の予想は、全日本インカレ3位・西日本インカレ優勝の大阪国際大学、春季リーグ優勝の龍谷大学、春以降実力を発揮している園田学園女子大学、インカレ出場校の大谷女子大学と神戸親和女子大学の5チームが優勝を争うものと予想された。試合結果は戦前の予想通り、大阪国際大学が投打に安定した力を発揮し全勝で優勝。2位には、このリーグ安定した力を発揮した神戸親和女子大学、3位には春季リーグこそ不本意な成績であったが本来の調子を取り戻した園田学園女子大学、4位には主戦投手が故障し苦戦を強いられた龍谷大学であった。順に、5位立命館大学、6位大谷女子大学、7位大阪体育大学、8位武庫川女子大学であった。関西リーグは上位チームのレベルが均衡し、一つのミスが試合の勝敗を分ける厳しい戦いが展開されており、この傾向は今後も続くと言われる。2部リーグは、圧倒的な力を発揮した関西外国語大学が優勝し、2位には天理大学、3位には春季リーグの雪辱を果たした兵庫教育大学が入り、4位は佛教大学であった。3部リーグは、攻守のバランスが良かった京都女子大学が優勝し、2位には四天王寺国際仏教大学、3位には奈良教育、4位は大阪府立大学であった。2・3部チームは部員確保に難しい問題があるが、年々レベルが高くなってきたチームの財産を何とか引き継いで欲しいものである。(大阪国際大学 久保田豊司)

**表紙デザイン・写真・カット等の募集**

ウインドミルの誌面を飾るものを次の要領で募集します。ご応募ください。

1. 全日本大学ソフトボール連盟の事業を表すのにふさわしい作品。
2. 優秀な作品は、ウインドミルに掲載し、氏名を発表します。
3. 応募資格は、連盟加盟大学の学生に限ります。
4. 作品は未発表のものに限り、著作権は連盟に帰属します。
5. 締切は、毎年11月末日です。
6. 送付・問い合わせ先

〒474-8651 愛知県大府市横根町名高山55 中京女子大学 水谷 博  
 FAX (0562) 44-0310 渉外課気付  
 E-mail mztn@chujo-u.ac.jp

## 【中国地区】

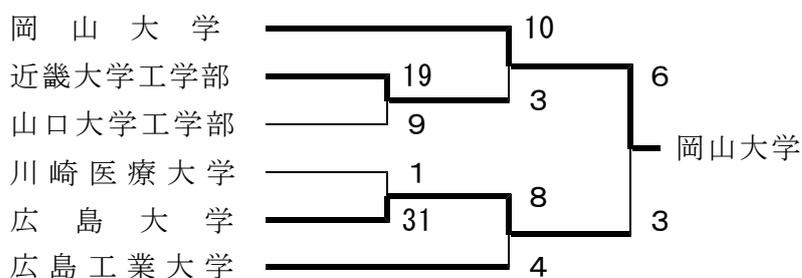
第38回全日本大学・第35回西日本大学ソフトボール選手権大会

中国地区予選会

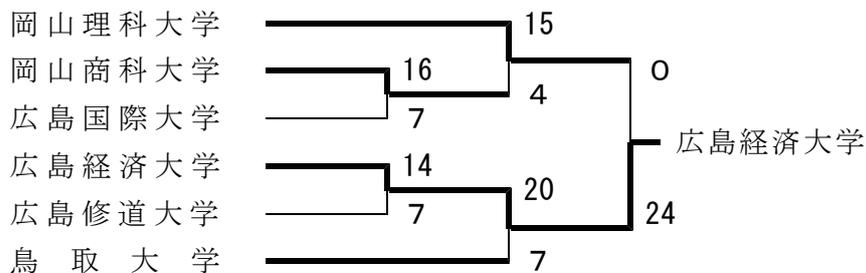
会期：平成15年5月24日（土）・25日（日）

会場：鳥取市倉田スポーツ広場

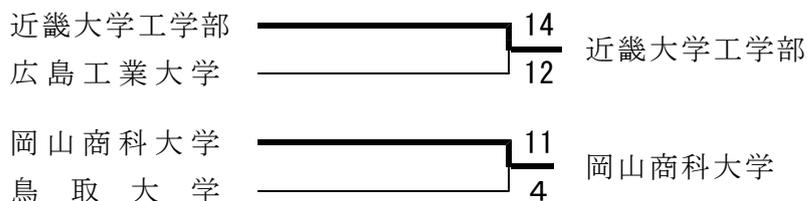
### 男子Aゾーンの結果



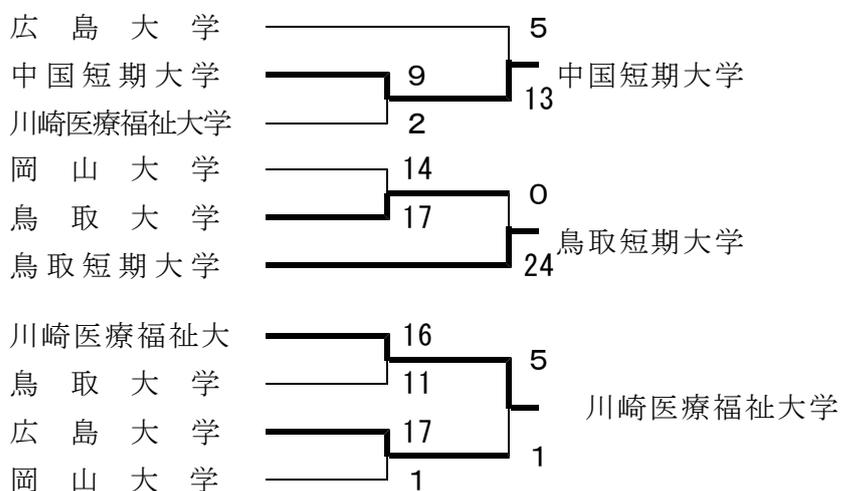
### 男子Bゾーンの結果



### 西日本大学選手権第5・6代表決定戦



### 女子



講評

強風吹き荒む中での大会となった第38回インカレ予選は、オーバーフェンスの飛び交う戦いとなったが、男子では昨年度同様に安定したチーム力を持つ、岡山大学と広島経済大学がともに連続出場の権利を得た。また、女子は、試合を重ねるごとに力を付けた川崎医療福祉大学が初の代表権を得、中国地区では安定したチーム力を持つ中国短期大学と鳥取短期大学の3大学がインカレへ出場することになった。

各大会への出場大学は下記の通りである。

第38回全日本大学ソフトボール選手権大会出場大学

男子	女子
岡山大学	中国短期大学
広島経済大学	鳥取短期大学
山口大学工学部（開催地推薦）	川崎医療福祉大学（開催地区推薦）

第35回西日本大学ソフトボール選手権大会出場大学

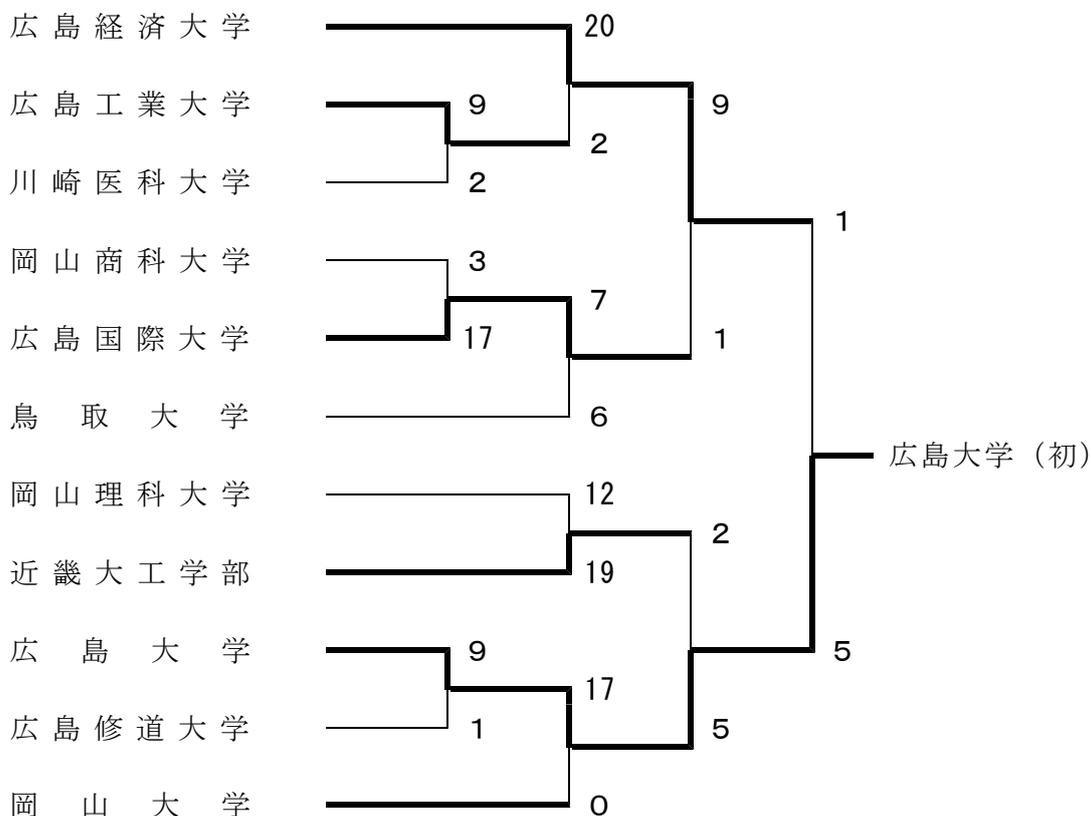
- 男子：岡山大学、広島経済大学、広島大学、岡山理科大学、近畿大学工学部、岡山商科大学  
 女子：中国短期大学、鳥取短期大学、広島大学、鳥取大学

第3回中国地区大学ソフトボール選手権大会

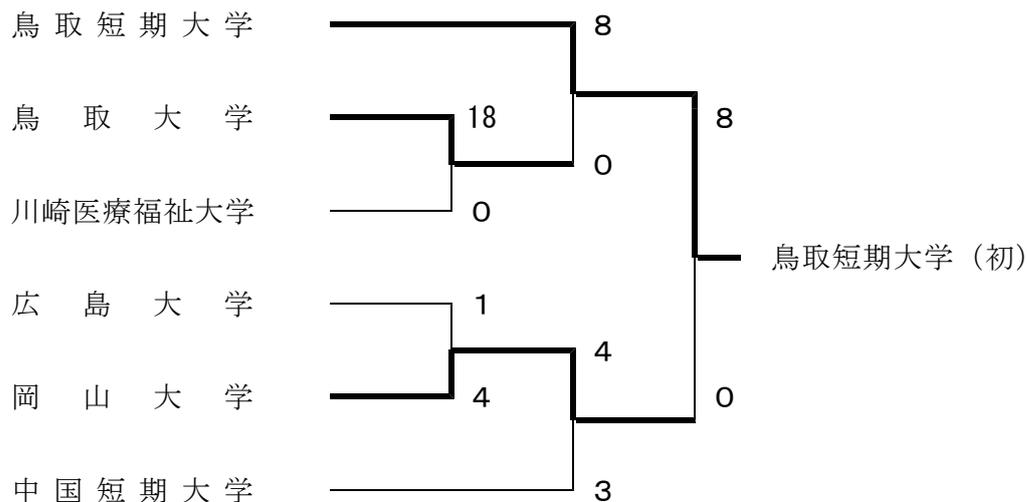
会期：平成15年11月8日（土）・9日（日）

会場：広島修道大学グラウンド

<男子>



<女子>



総評

第3回中国地区大学ソフトボール選手権大会は、広島修道大学を会場に11月8・9日の2日日程で、男子11チーム、女子6チームの計17チームでの開催となった。本大会の優勝は、第1・2回大会ともに男子、広島経済大学、女子、鳥取大学である。大会の注目は当然の如く3連覇があるのかに注がれた。

特に男子では、広島経済大学が圧倒的な強さを誇り、学連主催大会ではここ数年向うところ敵無しの状態であった。今年度においても、西日本大学ソフトボール選手権大会で準優勝するなど、誰もが大会3連覇を疑わなかった。当然、決勝に進出した広島大学も勝てる要素は僅少と考えていただろう。しかし、試合が始まると広島大学ペースで進行し、着実に加点し終わってみれば5-1での勝利であった。広島大学の投手は、ライザーとドロップを低めにコントロールし、広島経済大学に連打を許さなかったことと、常に先攻し優位に試合を進めたことが、初優勝につながったものと思われる。

女子の決勝戦は、岡山大学と鳥取短期大学の対戦となった。岡山大学は、投手がライザーとドロップを上手くコントロールし、相手打線を抑えるとともに、野手も再三のピンチを好守で盛り上げ決勝進出を果たした。決勝戦は一方的な試合展開となったが、岡山大学の投手力がもうワンランク上がると、西日本・全日本大学も手の届くところまで引き寄せることができるものと思う。





女子

	愛媛女子短大	香川大学	四国大学	勝	負	順位
愛媛女子短期大学		○ 9-0	○ 11-0	2	0	1
香川大学	● 0-9		○ 8-4	1	1	2
四国大学	● 0-11	● 4-8		0	2	3

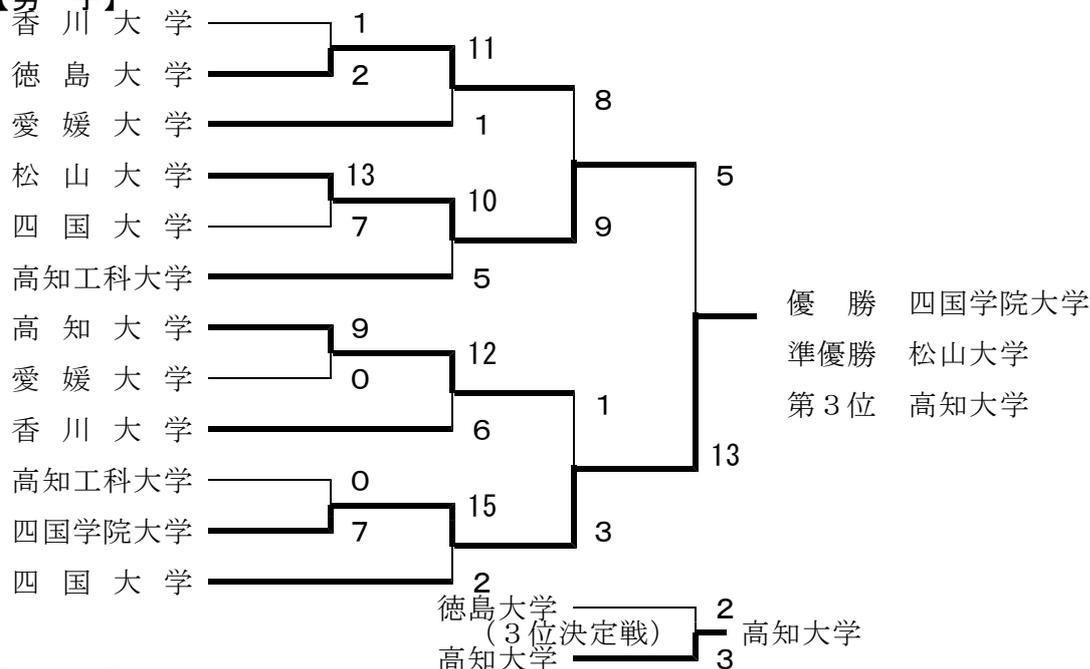
※全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学  
 ※西日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学・香川大学

平成15年度四国地区大学男子・女子ソフトボール秋季大会

会期：10月18日（土）、19日（日）

会場：香川県土器川河川敷グラウンド

【男子】



【女子】

チーム名	愛短	香川	四国	勝	敗	順位
愛媛女子短期大学		○ 23-0	○ 20-0	2	0	優勝
香川大学	● 0-23		○ 8-1	1	1	2位
四国大学	● 0-20	● 1-8		0	2	3位

【寸評】

男子の部では四国学院大学（香川県）と松山大学（愛媛県）の2強の決戦となり、四国学院大学が見事優勝した。投打ともに安定したチームで、ぜひ来年は全国大会でも上位を目指せるようにがんばってほしい。このほか、3位決定戦に残った高知大学（高知県）と徳島大学（徳島県）も上位とそれほど差がなく、来年度楽しみなチームである。女子の部では愛媛女子短期大学（愛媛県）が圧倒的な力で秋季大会四連覇と初出場から連勝記録を継続している。香川大学（香川県）、四国大学（徳島県）も部員数が増え、徐々にではあるが力もついてきている。ぜひ、来年度は、がんばってほしい。（四国学連 山本孔一）

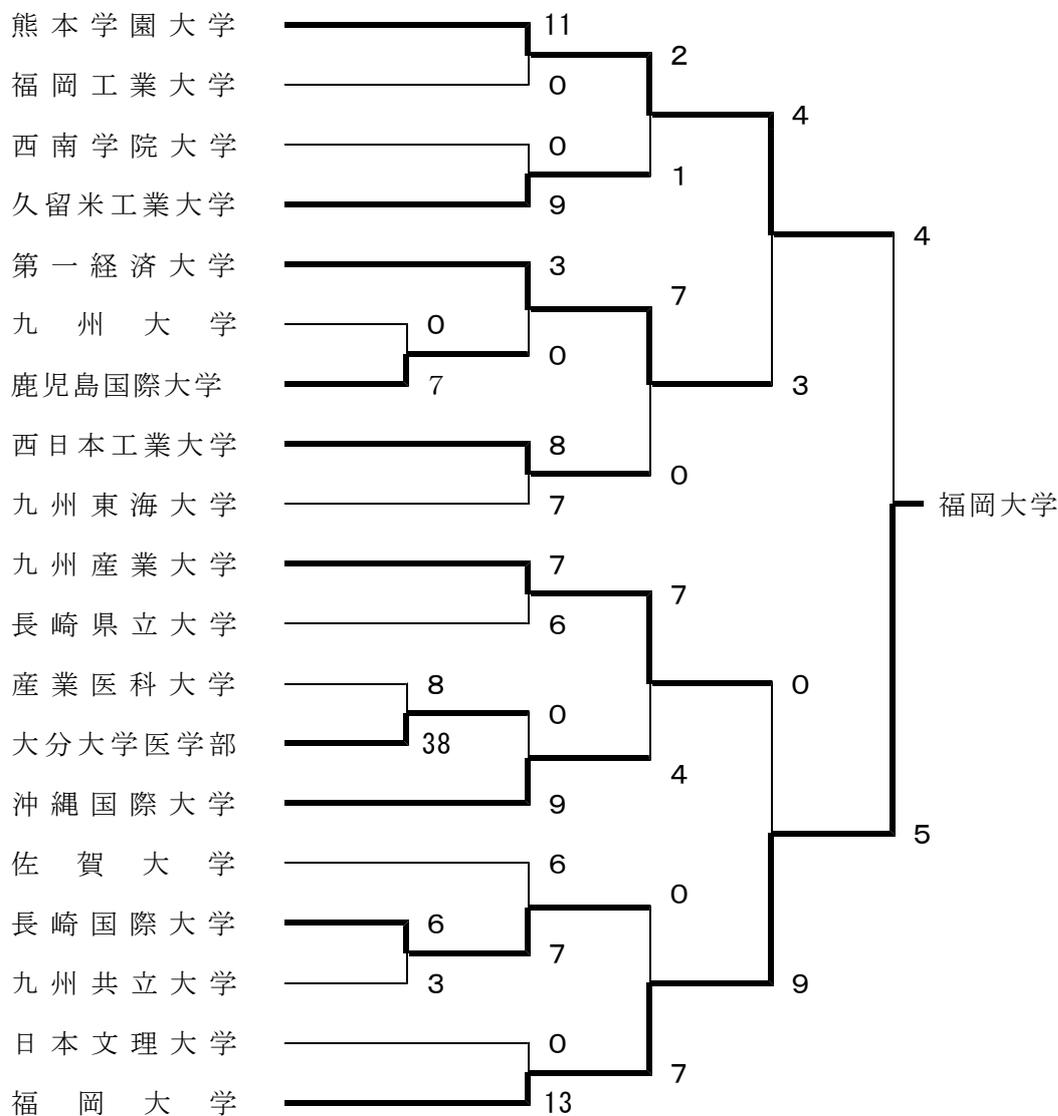


### 第3回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

会期：平成15年11月8日（土）・9日（日）

会場：福岡県大牟田市緑地運動公園

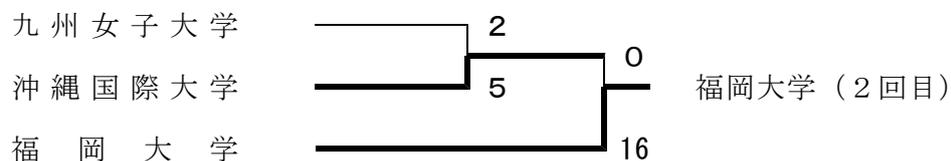
#### 男子試合結果



#### 女子予選リーグ

大学名	沖縄国際	福岡	九州女子	勝	分	敗	失	順位
沖縄国際	● 0 - 5	● 6 - 8	0	0	2	13	3位	
福岡	○ 5 - 0	○ 7 - 0	2	0	0	0	1位	
九州女子	○ 8 - 6	● 0 - 7	1	0	1	13	2位	

#### 女子決勝トーナメント



## 【調査研究委員会】

### 原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も内容をいっそう充実、発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡を下さいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までご連絡をください。(研究調査委員会 小川幸三・森田啓之)

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL&FAX : (0795)44-2227

E-mail:hmorita@life.hyogo-u.ac.jp

## 投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

### 1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

### 2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含.抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

### 3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものは全て受理・採択する。なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

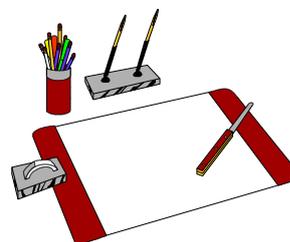
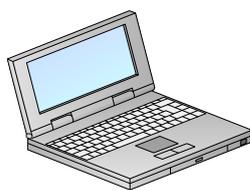
### 4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月20日で区切るものとする。

## 執筆要項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、ワードプロセッサで原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、全角40字×40行（上下余白25mm・左右余白25mm）、文字サイズは11ポイント、和文フォントは明朝体を基本とする。できれば使用機種・ソフト名を記して、CD-RWとともに提出することが望ましい。



### 【広報記録委員会】 全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟では優秀な成績を挙げた加盟チーム、選手に対して「優秀表彰」を行っています。ここに「優秀表彰」を受けられたチームをご紹介します。

### 日本体育大学男子チーム

日本体育大学（男子）の全日本大学ソフトボール選手権大会3連覇（第35～37回）に対し、第38回大会の監督主将会議の席上、大内会長より表彰状が授与されました。

## トヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯 第3回大学ソフトボール東海オープン出場チーム募集

出場の申込は、次の大会要項をご覧のうえ、お願いいたします。

なお、参加申込は学連HP <http://www.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/> 上のみから承っております。「出場チーム募集」のページを必ずご覧ください。また、出場までの手順等は次のようになっていますので、ご注意ください。

1. 1月末日までにE-mailで参加申込を行う。
2. 申込後に送信される参加申込書（Excelファイル）に必要事項を入力して直ちに返信する。
3. 参加申込の受理と申込書がE-mailで送信されない場合は問い合わせる。
4. 参加が認められたチームは、2月末日までに参加料を振り込む。
5. 参加が認められなかったチームにも2月23日（月）頃までにはE-mailで連絡します。
6. 3月中旬に、組み合わせ抽選の結果など必要事項を郵便で連絡します。

### トヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯第3回大学ソフトボール東海オープン大会要項

1. 主 催 東海地区大学ソフトボール連盟
2. 主 管 愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・安城市ソフトボール協会
3. 後 援 全日本大学ソフトボール連盟  
安城市・安城市教育委員会・安城市体育協会・中日新聞社
4. 協 賛 トヨタ自動車(株)・(株)デンソー・(株)豊田自動織機・(株)東海理化
5. 大会期間 平成16年3月22日（月）・23日（火）、予備日3月24日（水）
6. 大会会場 安城市総合運動公園（6球場）
7. チーム数 男子9、女子9、計18チーム
8. 参加資格 全日本大学ソフトボール連盟および(財)日本ソフトボール協会に登録されているチーム、もしくはそのチームの登録選手による合同チームであること。また、予備日を含めて全日程に参加できること。なお、出場申し込み多数の場合は、各地区における秋季大会の成績と地域性などを参考に主催者が選抜する。
9. 出場資格 主催者によって出場を認められたチームの、あらかじめ選手登録された30名以内の選手に限る。  
ベンチに入ることのできるのは、選手25名、部長1名、監督1名、コーチ2名、トレーナー1名、記録員の資格を有するスコアラー1名の計31名以内とする。  
なお、新1年生の出場については出身高校と当該大学部長の承認がある場合は認める。
10. 参加料 1チーム30,000円
11. 申込方法 E-mailアドレスmztn@chujo-u.ac.jpへ1月末日までに申込書を請求し、返信すること。また、出場が認められた後、参加料を次の振込口座へ2月末日までに振り込むこと。

#### 【振込口座】

銀行：UFJ銀行大府支店 普通口座番号1529547

名義：東海地区大学ソフトボール連盟理事長水谷博

(インターネットの場合は、トウカイチクダイガクソフトボールレンメイ)

12. 競技方法 男女各9チームを3チームずつに分けて予選リーグ戦を第1日目に実施し、第2日目に1位グループ・2位グループ・3位グループによる順位決定リーグ戦を行う。
13. 競技規則 2004年度オフィシャルソフトボールルール及び競技運営規則による。  
 ・全試合を通じ、得点差によるコールドゲームは3回20点、4回15点、5回以降10点とする。  
 ・2時間を越えて新しいイニングに入らない。  
 ・ベンチは対戦表の左側が一塁側、攻守決定はトスとする。  
 ・その他の特別な事項は監督主将会議で決定する。
14. 順位決定 ①勝ち数の多い方が上位 ⑥当該チーム間で得失点差の大きい方が上位  
 ②負け数の少ない方が上位 ⑦全試合での総得失点差の大きい方が上位  
 ③対戦相手に勝った方が上位 ⑧当該チーム間で得点の多い方が上位  
 ④当該チーム間で失点の少ない方が上位 ⑨全試合での総得点の多い方が上位  
 ⑤全試合での総失点の少ない方が上位
15. 使用球 ミズノ社製検定3号革ボールとし、試合毎に各チームは2個提出する。
16. 審判員 (財)日本ソフトボール協会公認審判員
17. 記録員 (財)日本ソフトボール協会公認記録員
18. 表彰 ・優勝チームに対し賞状とトヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯を、準優勝・第3位のチームに対し賞状と盾を授与する。  
 ・トヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯は持ち回りとする。  
 ・最優秀選手賞と敢闘選手賞として、男女各1名に賞状と盾を授与する。
19. 組合抽選 3月3日(水)午後7時から安城市体育館において公開代理抽選を行う。
20. 監督会議 3月22日(月)午前8時30分から安城市総合運動公園ソフトボール場A球場スタンドにおいて行う。
21. 開会式 3月22日(水)午前10時から安城市総合運動公園ソフトボール場A球場において行う。
22. 閉会式 全試合終了後、安城市総合運動公園ソフトボール場A球場において行う。
23. 費用 参加チームの旅費、滞在費はすべてチームの負担とする。
24. 傷害 主催者・主管者は大会期間中における傷害及び疾病について一切の責任を負わない。保険証を持参すること。
25. 宿泊弁当 主催者は斡旋しない。ただし、宿泊については関係機関を紹介する。
26. 備考 出場チームは部長または監督に引率され、チームの行動について責任を負うこと。
27. 問合せ先 中京女子大学 水谷 博 TEL (0562) 46-1292-541  
 FAX (0562) 44-0310 渉外課気付  
 E-mail mztn@chujo-u.ac.jp (なるべくこれで)
28. 交流試合 公式戦は、両日とも各球場1日3試合行うが、希望するチームがあれば第2日の第4試合に交流試合を実施する。また、順調に大会が終了した場合は、予備日にも、最大8試合の交流試合を実施する。なお、これらの対戦相手については、希望は何うものの主催者に一任されたい。

平成14・15・16年度  
全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職名	氏名	(上) 自宅住所 (下) 勤務先	TEL	FAX
会長	大内 敬哉	〔自〕 〔勤〕 中京大学		
副会長	一谷 宣宏	〔自〕 〔勤〕 学校法人園田学園理事長・園田学園女子大学学長		
副会長	斎藤 滋雄	〔自〕 〔勤〕 学習院大学		
顧問	坂井 正郎	〔自〕 〔勤〕 国士舘大学名誉教授・評議員		
顧問	角田真一郎	〔自〕 〔勤〕		
顧問	水野 信義	〔自〕 〔勤〕		
理事長	末井 健作	〔自〕 〔勤〕 姫路工業大学		
副理事長	中野 紀明	〔自〕 〔勤〕 国士舘大学		
副理事長	逢坂 秀樹	〔自〕 〔勤〕 鳥取短期大学		
事務局長	森田 啓之	〔自〕 〔勤〕 兵庫教育大学		
常任理事	大和田 寛	〔自〕 〔勤〕 仙台大学		
常任理事	高橋 伸次	〔自〕 〔勤〕 高崎経済大学		
常任理事	黒田 重靖	〔自〕 〔勤〕 富山大学		
常任理事	藤井 立三	〔自〕 〔勤〕 明星大学		
常任理事	水谷 博	〔自〕 〔勤〕 中京女子大学		
常任理事	久保田豊司	〔自〕 〔勤〕 大阪国際大学		
常任理事	山本 孔一	〔自〕 〔勤〕 愛媛女子短期大学		
常任理事	中野 元	〔自〕 〔勤〕 熊本学園大学		
理事	小嶋 高良	〔自〕 〔勤〕 八戸工業大学		

職名	氏名	(上) 自宅住所 (下) 勤務先	TEL	FAX
理事	飯島 隆	〔自〕 〔勤〕 盛岡大学		
理事	松永 尚久	〔勤〕 東海大学		
理事	武藤 幸政	〔自〕 〔勤〕 城西大学		
理事	岡田 万嗣	〔自〕 〔勤〕 山梨学院大学		
理事	野口 周一	〔自〕 〔勤〕		
理事	青木 真	〔自〕 〔勤〕 上越教育大学		
理事	吉野みね子	〔自〕 〔勤〕 東京女子体育大学		
理事	小川 幸三	〔自〕 〔勤〕 日本体育大学		
理事	矢澤 久史	〔自〕 〔勤〕 東海女子大学		
理事	山本 英弘	〔自〕 〔勤〕 朝日大学		
理事	丸山 悟	〔自〕 〔勤〕 日本福祉大学		
理事	鈴木 亨	〔自〕 〔勤〕 桜花学園大学		
理事	板谷 昭彦	〔自〕 〔勤〕 園田学園女子大学		
理事	中村 哲士	〔自〕 〔勤〕 武庫川女子大学		
理事	板野 道広	〔自〕 〔勤〕 中国短期大学		
理事	中里 眞	〔自〕 〔勤〕 九州産業大学		
理事	吉末 和也	〔自〕 〔勤〕 園田学園女子大学		
理事	富田 国興	〔自〕 〔勤〕 呉金属熱錬工業株式会社 (広島修道大学)		
評議員	大塚 健樹	〔自〕 〔勤〕 盛岡大学		
評議員	立山 利治	〔自〕 〔勤〕 国際武道大学		

職名	氏名	(上) 自宅住所 (下) 勤務先	TEL	FAX
評議員	丸山 克俊	〔自〕 〔勤〕 東京理科大学		
評議員	友坂 敏信	〔自〕 〔勤〕 富山大学		
評議員	加藤 茂夫	〔自〕 〔勤〕 専修大学		
評議員	木藤 盛雄	〔自〕 〔勤〕 成蹊大学		
評議員	星 めぐみ	〔自〕 〔勤〕 明星大学		
評議員	合津正之助	〔自〕 〔勤〕 常葉学園大学		
評議員	佐多 直温	〔自〕 〔勤〕 愛知大学		
評議員	笠原 幸司	〔自〕 〔勤〕 中京学院大学		
評議員	廣田 真史	〔自〕 〔勤〕 名古屋大学		
評議員	川辺 邦彦	〔自〕 〔勤〕 静岡大学		
評議員	児玉 公正	〔自〕 〔勤〕 大谷女子大学		
評議員	但尾 哲哉	〔自〕 〔勤〕 神戸親和女子大学		
評議員	中谷 敏昭	〔自〕 〔勤〕 天理大学		
評議員	長澤 幸一	〔自〕 〔勤〕 東亜大学		
評議員	楠川 量啓	〔自〕 〔勤〕 高知工科大学		
評議員	荒牧昭二郎	〔自〕 〔勤〕 九州東海大学		
評議員	新垣 實	〔自〕 〔勤〕 沖縄国際大学		
評議員	吉村 清	〔自〕 〔勤〕 琉球大学		
評議員	上江州 剛	〔自〕 〔勤〕 名桜大学		
監事	平野 義明	〔自〕 〔勤〕 大阪工業大学		

職名	氏名	(上) 自宅住所 (下) 勤務先	TEL	FAX
監事	笠原 敏裕	[自] ----- [勤] 学習院大学		
事務局	〒670-0092 姫路市新在家本町1-1-12 姫路工業大学 環境人間学部 E-mail :			

### 平成15年度全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿

委員長	新井 康太 (日本大学)		副委員長	上子菌 実希 (東海学園大学)・井澤 一也 (関西大学)	
地区	氏名	連絡先		TEL	所属大学
関東	薄 雅也				高崎経済大学
関東	福元 恵				新島学園女短
北信越	西坂三貴子				富山大学
東京	新井 康太				日本大学
東京	矢吹久美子				日本女子体大
東京	大平 寛紀				専修大学
東京	杉山 真吾				武蔵工業大学
東京	堀田 智美				専修大学
東海	上子菌実希				東海学園大学
東海	飯田 衛				岐阜聖徳学園
東海	越智 友規				名古屋大学
東海	西村 梓				中京大学
近畿	井澤 一也				関西大学
近畿	佐藤 紀夫				関西大学
近畿	幅中 留理				園田学園女大
近畿	柳澤 祥子				武庫川女子大
中国	小川 翼				鳥取短期大学



平成15年度 男子加盟大学一覧		
全日本大学ソフトボール連盟		
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	9	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 宮城教育大学 盛岡大学 酪農学園大学
関 東	19	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 城西国際大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 獨協大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 文教大学 山梨学院大学
北 信 越	8	金沢大学 信州大学 敦賀短期大学 富山大学 富山国際大学 長野大学 福井大学 福井県立大学
東 京	24	桜美林大学 学習院大学 杏林大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京経済大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本歯科大学 日本体育大学 一橋大学 文教大学湘南 武蔵工業大学 明治大学 明星大学 早稲田大学
東 海	15	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 愛知みずほ大学 朝日大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学
近 畿	27	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺国際仏教大学 同志社大学 奈良教育大学 姫路工業大学 姫路獨協大学 兵庫教育大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 和歌山大学
中 国	13	岡山大学 岡山商科大学 岡山理科大学 川崎医科大学 近畿大学工学部 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際大学 福山平成大学 山口大学工学部
四 国	9	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 四国学院大学 高松大学 徳島大学 松山大学
九 州	20	沖縄国際大学 大分医科大学 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 九州東海大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 産業医科大学 西南学院大学 第一経済大学 長崎県立大学 西日本工業大学 日本文理大学 福岡大学 福岡工業大学 名桜大学 琉球大学

平成15年度 女子加盟大学一覧		
全日本大学ソフトボール連盟		
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	8	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北海道浅井学園大学短期大学部 宮城教育大学 盛岡大学 盛岡大学短期大学
関 東	13	国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 千葉大学 都留文科大学 筑波大学 東海大学 日本大学生物資源科学部 新島学園女子短期大学 文教大学
北 信 越	4	金沢大学 上越教育大学 信州大学 富山大学
東 京	17	桜美林大学 学習院大学 杏林大学 国士舘大学 国際基督教大学 専修大学 成蹊大学 創価大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 日本大学 日本体育大学 日本女子体育大学 明星大学 明治大学 早稲田大学
東 海	13	愛知教育大学 桜花学園大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中京女子大学 東海学園大学 東海女子大学 常葉学園大学 名古屋大学 日本福祉大学 名城大学
近 畿	17	大阪国際大学 大阪成蹊短期大学 大阪体育大学 大阪府立大学 大谷女子大学 関西外国語大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 四天王寺国際仏教大学 園田学園女子大学 天理大学 兵庫教育大学 佛教大学 奈良教育大学 立命館大学 龍谷大学 武庫川女子大学
中 国	7	岡山大学 岡山理科大学 川崎医療福祉大学 中国短期大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学
四 国	3	愛媛女子短期大学 香川大学 四国大学
九 州	5	沖縄国際大学 九州女子大学 福岡大学 名桜大学
男 子	144大学	
女 子	85大学	
合 計	229大学	平成15年11月20日現在

## 編 集 後 記

年1回発行の**ウィンドミル**も無事第7号を完成させることができました。今年は、東日本大学選手権と西日本大学選手権は台風により日程が延期され、インカレ準々決勝では激しい雨によりコールドゲームやサスペンデッドゲームが適用されるなど、雨による影響が大きかった1年でした。

**ウィンドミル**の大きな特徴は、インカレなどの全国大会とともに各地区大会の情報を充実させていることにあるかと思います。各地区大会での1試合1試合に全国大会に負けないような大きなドラマがあり、そこに選手ひとりひとりの思いが込められていることを感じます。ここ数年、インカレでは戦力地図が大きく変わり、古くからの伝統校が中堅校に敗れる場面を目にすることが多くなってきました。しかし、それ以上の新しい動きが地区では起きています。伝統校が2部落ちをしている一方で、新鋭校が上位に食い込んでいる地区をいくつか見ることができます。各チームが地区で切磋琢磨することが各地区のレベルを上昇させ、それが大学全体のレベルアップに繋がれることを期待したいと思います。幸い、すべての地区で秋季大会が開催されるようになり、また、各地域の学連が主催するオープン大会も数多く開催されるようになりました。来年は新たに、北信越地区での4月開催が決定しています。各チームはこれらの大会に積極的に参加され、競技力の向上はもとより、地区を越えての交流がいつそう進むことを期待しています。

ところで、前号の編集後記において、学生委員会を中心とする学生の活動の活性化を要望しました。今回、学生委員会報告として新井康太学生委員長から「今後の大学ソフトボール発展のために」という素晴らしい報告・提案をいただくことができました。新井委員長の提言に基づき、東京地区のように他の地区においても、学生中心の活動が活性化していくことを願い、編集後記といたします。

広報記録委員会：水谷 博（中京女子大学）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海女子大学）

表紙写真：第38回文部科学大臣杯全日本大学（男・女）ソフトボール選手権大会

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第7号

---

2003年12月25日発行

発行者 全日本大学ソフトボール連盟 会長 大内 敬哉

編集責任者 広報記録委員長 水谷 博

E-mail : mztn@chujo-u. ac. jp

発行所 全日本大学ソフトボール連盟

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12

姫路工業大学環境人間学部気付

FAX (0792) 93-5710

E-mail : suei@hept.himeji-tech. ac. jp

印刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

TEL (058) 263-4101

---

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X

熱いゲームが、  
KENKOから  
はじまる。



ケンコーソフトボール  
(革製/3号球)  
財団法人日本ソフトボール協会検定球



健康コミュニティを創造する

ナガセケンコー株式会社  
NAGASE KENKO CORPORATION



白球が青空に舞う。音が消え時間が止まる。

おとずれるクライマックス。どよめきが起り、

ためいきがもれる。

一球に笑い、一球に泣く、ホットなドラマ。

naigaiのボールは、永年の経験が  
うみだす信頼のブランド。品質に対する情熱の  
ドラマがいきづく一球です。

ガンバレ！白球ドラマの主人公たち。

いま、熱いドラマが始まる。



# NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



# NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社



ウインドミル No. 7 (2003)

ISSN 1343-439X